

# 外国語学部 国際関係学科 (2013年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	1学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	10
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	11	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	1学期	2	2	12	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	13	
2年					
共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	16
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	2学期	2	2	17
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	18
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 石川 敬之	1学期	1	2	19
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 日高 京子	1学期	1	2	20
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 小林 道彦	1学期	1	2	21
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	22
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 徳永 政夫	1学期	1	2	23
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 稲月 正	1学期	1	2	24
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 廣川 祐司	1学期	1	2	25
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) GES101F 戸蔭 仁司	1学期	1	2	26
	1年				
教養基礎演習I GES101F 伊原木 大祐	1学期	1	2	27	
	1年				
教養基礎演習I GES101F 高西 敏正	1学期	1	2	28	
	1年				
教養基礎演習II GES102F 石川 敬之	2学期	1	2	29	
	1年				
教養基礎演習II GES102F 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	30	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F 日高 京子	2学期	1	2	31
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 小林 道彦	2学期	1	2	32
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	33
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 徳永 政夫	2学期	1	2	34
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 稲月 正	2学期	1	2	35
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 廣川 祐司	2学期	1	2	36
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) GES102F 戸蒔 仁司	集中	1	2	37
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 伊原木 大祐	2学期	1	2	38
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 高西 敏正	2学期	1	2	39
		1年			
	教養演習A I GES201F 徳永 政夫 他	1学期	2	2	40
		2年			
教養演習A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	41	
	2年				
教養演習A I GES201F 伊原木 大祐	1学期	2	2	42	
	2年				
教養演習A I GES201F 稲月 正	1学期	2	2	43	
	2年				
教養演習A I GES201F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	44	
	2年				
教養演習A I GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	45	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I ( 防衛セミナー ) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	46
		2年			
	教養演習 A I GES201F 日高 京子	1学期	2	2	47
		2年			
	教養演習 A II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	48
		2年			
	教養演習 A II GES202F 徳永 政夫 他	2学期	2	2	49
		2年			
	教養演習 A II GES202F 日高 京子	2学期	2	2	50
		2年			
	教養演習 A II GES202F 二宮 正人	2学期	2	2	51
		2年			
	教養演習 A II GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	52
		2年			
	教養演習 A II GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	53
		2年			
	教養演習 A II ( 防衛セミナー ) GES202F 戸蒔 仁司	集中	2	2	54
		2年			
	教養演習 A II GES202F 稲月 正	2学期	2	2	55
		2年			
教養演習 A II GES202F 伊原木 大祐	2学期	2	2	56	
	2年				
教養演習 B I GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	57	
	3年				
教養演習 B I GES301F 徳永 政夫 他	1学期	3	2	58	
	3年				
教養演習 B I GES301F 日高 京子	1学期	3	2	59	
	3年				
教養演習 B I GES301F 小林 道彦	1学期	3	2	60	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 B I GES301F 神原 ゆうこ	1学期	3	2	61
	3年				
	教養演習 B I (防衛セミナー) GES301F 戸蒔 仁司	1学期	3	2	62
	3年				
	教養演習 B I GES301F 稲月 正	1学期	3	2	63
	3年				
	教養演習 B I GES301F 伊原木 大祐	1学期	3	2	64
	3年				
	教養演習 B II GES302F 徳永 政夫 他	2学期	3	2	65
	3年				
	教養演習 B II GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	66
	3年				
	教養演習 B II GES302F 日高 京子	2学期	3	2	67
	3年				
	教養演習 B II GES302F 小林 道彦	2学期	3	2	68
3年					
教養演習 B II GES302F 神原 ゆうこ	2学期	3	2	69	
3年					
教養演習 B II (防衛セミナー) GES302F 戸蒔 仁司	集中	3	2	70	
3年					
教養演習 B II GES302F 稲月 正	2学期	3	2	71	
3年					
教養演習 B II GES302F 伊原木 大祐	2学期	3	2	72	
3年					
教養演習 B II GES302F 二宮 正人	2学期	3	2	73	
3年					
■テーマ科目	自然学のまなごし ENV002F 岩松 文代 他	1学期	1	2	74
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	75
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	76
		1年			
	自然史へのいざない BIO001F 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	77
		1年			
	くらしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期	1	2	78
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	79
		1年			
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	80
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	81
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍 有二 他	1学期	1	2	82
		1年			
	私たちと宗教 PHR006F 佐藤 真人	2学期	1	2	83
		1年			
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	84
		1年			
文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	2学期	1	2	85	
	1年				
言語とコミュニケーション LIN001F 漆原 朗子 他	2学期	1	2	86	
	1年				
芸術と人間 PHR001F 花田 伸一	2学期	1	2	87	
	1年				
文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2		
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	88	
	1年				
民主主義とは何か PLS002F 大澤 津 他	1学期	1	2	89	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	90
	1年				
	政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	91
	1年				
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	92
	1年				
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	93
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	94
	1年				
	共生の作法 LAW001F 今泉 恵子 他	1学期	1	2	95
	1年				
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期	1	2	96
	1年				
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	97
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	98
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	99
1年					
現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	100	
1年					
現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	101	
1年					
都市と地域 RDE002F 南 博 他	1学期	1	2	102	
1年					
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	103	
1年					
テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	104	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	1学期	1	2	105
	1年				
	韓国の社会と文化 ARE010F チャン ユンヒャン	2学期	1	2	106
	1年				
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	107
	1年				
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	108
	1年				
	そのとき世界は HIS002F 小林 道彦 他	2学期	1	2	109
	1年				
戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	110	
1年					
ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	111	
1年					
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	112	
1年					
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	113	
1年					
■教職関連科目	日本史 HIS110F 内山 一幸	2学期	1	2	114
	1年				
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	115
	1年				
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	116
	1年				
	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	117
1年					
土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	118	
1年					
地誌学 GEO112F 外柙保 大介	1学期	1	2	119	
1年					



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	日本国憲法 LAW120F 植木 淳	2学期	1	2	120
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	121
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 坂本 毅啓	2学期	1	2	122
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	123
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	124
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	125
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 高西 敏正	2学期	1	2	126
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	127
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	128
	1年				
	自己管理論 HSS003F 山本 浩二	2学期	1	2	129
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	130
	1年				
フィジカル・エクササイズI (サッカー) HSS081F 磯貝 浩久	1学期	1	1	131	
1年					
フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	132	
1年					
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	133	
1年					
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	134	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	135
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	136
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	137
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	138
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	139
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	140
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	141
1年					
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	142	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	143	
1年					
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	144	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	145	
1年					
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	146
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 永田 公彦	1学期	1	2	147
	1年				
キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	148	
1年					
キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	149	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	150
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 永田 公彦	2学期	1	2	151
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	152
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	153
		2年			
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	154
		2年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	155
		1年			
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	156
		1年			
	プロジェクト演習I CAR280F 見館 好隆	1学期	2	2	157
		2年			
プロジェクト演習II CAR281F 見館 好隆	2学期	2	2	158	
	2年				
プロジェクト演習III CAR380F 見館 好隆	1学期	3	2	159	
	3年				
プロジェクト演習IV CAR381F 見館 好隆	2学期	3	2	160	
	3年				
■教養特講	教養特講I (北九州市の観光振興) SPL001F 北九州市観光協会、基盤教育センター 眞鍋和博	2学期	1	2	161
		1年			
	教養特講II (ホスピタリティ論) SPL002F 西澤 健次 他	2学期	1	2	162
		1年			
教養特講II (セクシュアル・ライツ) SPL002F 河嶋 静代	2学期	1	2	163	
	1年				
教養特講III (まなびと講座A) SPL003F 眞鍋 和博	1学期	1	2	164	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養特講	教養特講IV ( まなびと講座B )	2学期	1	2	165
	SPL004F 眞鍋 和博	1年			
■情報教育科目	データ処理	1学期	1	2	166
	INF101F 岩田 一男	国1-1 . 国1-2 . 再履			
	データ処理	1学期	1	2	167
	INF101F 山田 寛	国1-3 . 国1-4 . 再履			
	データ処理	2学期	1	2	168
	INF101F 浅羽 修丈	1学期未修得者再履			
	情報表現	2学期	2	2	169
	INF230F 中尾 泰士	2年			
	情報表現	2学期	2	2	170
	INF230F 棚次 奎介	2年			
情報表現	1学期	2	2	171	
INF230F 浅羽 修丈	2年				
情報メディア演習	2学期	3	2	172	
INF330F 浅羽 修丈	3年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I ( 国1-A )	1学期	1	1	173
	ENG101F 葛西 宏信	国1-A			
	英語I ( 国1-B )	1学期	1	1	174
	ENG101F 永末 康介	国1-B			
	英語I ( 国1-C )	1学期	1	1	175
	ENG101F 渡邊 嘉則	国1-C			
	英語II ( 国1-A )	2学期	1	1	176
	ENG111F 永末 康介	国1-A			
英語II ( 国1-B )	2学期	1	1	177	
ENG111F 葛西 宏信	国1-B				
英語II ( 国1-C )	2学期	1	1	178	
ENG111F 渡邊 嘉則	国1-C				
英語III ( 国1-A )	1学期	1	1	179	
ENG102F デビッド・アダム・ストット	国1-A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III (国 1-B ) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	180
		国 1 - B			
	英語III (国 1-C ) ENG102F マイケル・バーグ	1学期	1	1	181
		国 1 - C			
	英語IV (国 1-A ) ENG112F デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	182
		国 1 - A			
	英語IV (国 1-B ) ENG112F アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	183
		国 1 - B			
	英語IV (国 1-C ) ENG112F デビッド・ニール・マクレラン	2学期	1	1	184
		国 1 - C			
	英語V (国 2-A ) ENG201F 渡邊 嘉則	1学期	2	1	185
		国 2 - A			
	英語V (国 2-B ) ENG201F 杉山 智子	1学期	2	1	186
		国 2 - B			
	英語V (国 2-C ) ENG201F 伊藤 晃	1学期	2	1	187
		国 2 - C			
	英語VI (国 2-A ) ENG211F 渡邊 嘉則	2学期	2	1	188
		国 2 - A			
	英語VI (国 2-B ) ENG211F 伊藤 晃	2学期	2	1	189
		国 2 - B			
英語VI (国 2-C ) ENG211F 杉山 智子	2学期	2	1	190	
	国 2 - C				
英語VII (国 2-A ) ENG202F マイケル・バーグ	1学期	2	1	191	
	国 2 - A				
英語VII (国 2-B ) ENG202F デビッド・アダム・ストット	1学期	2	1	192	
	国 2 - B				
英語VII (国 2-C ) ENG202F ロバート・マーフィ	1学期	2	1	193	
	国 2 - C				
英語VIII (国 2-A ) ENG212F デビッド・ニール・マクレラン	2学期	2	1	194	
	国 2 - A				

外国語学部 国際関係学科 (2013年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII ( 国 2 - B ) ENG212F デビッド・アダム・ストット	2学期	2	1	195
		国 2 - B			
	英語VIII ( 国 2 - C ) ENG212F アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	196
		国 2 - C			
	英語IX ( 英中国 3 年 ) ENG301F 永末 康介	1学期	3	1	197
		英中国 3 年			
	英語X ( 英中国 3 年 ) ENG311F 葛西 宏信	2学期	3	1	198
	英中国 3 年				
英語XI ( 英中国 3 年 ) ENG302F ロバート・マーフィ	1学期	3	1	199	
	英中国 3 年				
英語XII ( 英中国 3 年 ) ENG312F ロバート・マーフィ	2学期	3	1	200	
	英中国 3 年				
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷 秀子	1学期	1	1	201
		国 1 - A			
	中国語I CHN101F 小園 晃司	1学期	1	1	202
		国 1 - B			
	中国語I CHN101F 野村 和代	1学期	1	1	203
		国 1 - C			
	中国語II CHN111F 板谷 秀子	2学期	1	1	204
		国 1 - A			
	中国語II CHN111F 小園 晃司	2学期	1	1	205
		国 1 - B			
	中国語II CHN111F 野村 和代	2学期	1	1	206
	国 1 - C				
中国語III CHN102F 馮 戦兵	1学期	1	1	207	
	国 1 - A				
中国語III CHN102F 王 晨	1学期	1	1	208	
	国 1 - B				
中国語III CHN102F 葉 言材	1学期	1	1	209	
	国 1 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語IV CHN112F 馮 戦兵	2学期	1	1	210
		国 1 - A			
	中国語IV CHN112F 王 晨	2学期	1	1	211
		国 1 - B			
	中国語IV CHN112F 葉 言材	2学期	1	1	212
		国 1 - C			
	中国語V CHN201F 野村 和代	1学期	2	1	213
		国 2 - A			
	中国語V CHN201F 板谷 秀子	1学期	2	1	214
		国 2 - B			
	中国語V CHN201F 小園 晃司	1学期	2	1	215
		国 2 - C			
	中国語VI CHN211F 野村 和代	2学期	2	1	216
		国 2 - A			
	中国語VI CHN211F 板谷 秀子	2学期	2	1	217
		国 2 - B			
	中国語VI CHN211F 小園 晃司	2学期	2	1	218
		国 2 - C			
	中国語VII CHN202F 陳 青鳳	1学期	2	1	219
		国 2 - A			
中国語VII CHN202F 蘇 君業	1学期	2	1	220	
	国 2 - B				
中国語VII CHN202F 王 晨	1学期	2	1	221	
	国 2 - C				
中国語VIII CHN212F 陳 青鳳	2学期	2	1	222	
	国 2 - A				
中国語VIII CHN212F 蘇 君業	2学期	2	1	223	
	国 2 - B				
中国語VIII CHN212F 王 晨	2学期	2	1	224	
	国 2 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	225
		英国済営比人3年			
	上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	226
		英国済営比人3年			
	上級中国語III CHN302F 王 占華	1学期	3	1	227
		英国済営比人3年			
	上級中国語IV CHN312F 王 占華	2学期	3	1	228
		英国済営比人3年			
	朝鮮語I KRN101F 金 貞淑	1学期	1	1	229
		国1年			
	朝鮮語II KRN111F 金 貞淑	2学期	1	1	230
		国1年			
	朝鮮語III KRN102F チャン ユンヒャン	1学期	1	1	231
		国1年			
	朝鮮語IV KRN112F チャン ユンヒャン	2学期	1	1	232
		国1年			
	朝鮮語V KRN201F 金 貞淑	1学期	2	1	233
		国2年			
	朝鮮語VI KRN211F 金 貞淑	2学期	2	1	234
		国2年			
朝鮮語VII KRN202F 金 貞淑	1学期	2	1	235	
	国2年				
朝鮮語VIII KRN212F 金 貞淑	2学期	2	1	236	
	国2年				
上級朝鮮語I KRN301F 金 貞淑	1学期	3	1	237	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語II KRN311F 金 貞淑	2学期	3	1	238	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語III KRN302F チャン ユンヒャン	1学期	3	1	239	
	英中国済営比人3年				



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級朝鮮語IV KRN312F チャン ユンヒャン	2学期	3	1	240
		英中国済営比人3年			
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	241
		中国1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	242
		中国1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シェスタコーワ	1学期	1	1	243
		中国1年			
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シェスタコーワ	2学期	1	1	244
		中国1年			
	ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	245
		中国2年			
	ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	246
		中国2年			
	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シェスタコーワ	1学期	2	1	247
		中国2年			
	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シェスタコーワ	2学期	2	1	248
		中国2年			
	ドイツ語I GRM101F 山下 哲雄	1学期	1	1	249
		中国1年			
ドイツ語II GRM111F 山下 哲雄	2学期	1	1	250	
	中国1年				
ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	251	
	中国1年				
ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	252	
	中国1年				
ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	253	
	中国2年				
ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	254	
	中国2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	255
		中国2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	256
		中国2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	257
		中国1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	258
		中国1年			
	フランス語III FRN102F 坂田 由紀	1学期	1	1	259
		中国1年			
	フランス語IV FRN112F 坂田 由紀	2学期	1	1	260
		中国1年			
	フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	261
		中国2年			
	フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	262
		中国2年			
	フランス語VII FRN202F ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	263
		中国2年			
	フランス語VIII FRN212F ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	264
		中国2年			
スペイン語I SPN101F 岡住 正秀	1学期	1	1	265	
	中国1年				
スペイン語II SPN111F 岡住 正秀	2学期	1	1	266	
	中国1年				
スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	267	
	中国1年				
スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	268	
	中国1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	269	
	中国2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	270	
		中国2年				
	スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	271	
		中国2年				
	スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	272	
		中国2年				
	■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	273
			留学生1年			
		日本語II JSL102F 清水 順子	1学期	1	1	274
		留学生1年				
日本語III JSL103F 徐 曉輝		1学期	1	1	275	
		留学生1年				
日本語IV JSL111F 清水 順子		2学期	1	1	276	
		留学生1年				
日本語V JSL112F 則松 智子		2学期	1	1	277	
		留学生1年				
日本語VI JSL113F 徐 曉輝		2学期	1	1	278	
		留学生1年				
日本語VII JSL104F 小林 浩明		1学期	2	1	279	
		留学生2年				
日本語VIII JSL114F 小林 浩明		2学期	2	1	280	
		留学生2年				
日本事情(人文)A JPS101F 則松 智子	1学期	1	2	281		
	留学生1年					
日本事情(人文)B JPS102F 清水 順子	2学期	1	2	282		
	留学生1年					
日本事情(社会)A JPS103F 山崎 勇治	1学期	1	2	283		
	留学生1年					
日本事情(社会)B JPS104F 山崎 勇治	2学期	1	2	284		
	留学生1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目 ■その他	英米文化概論I ARE130M 久木 尚志	1学期	1	2	285
		1年			
	英米文学概論I LIT130M 齊藤 園子	1学期	1	2	286
		1年			
	英米文学概論II LIT131M 木下 善貞	2学期	1	2	287
		1年			
	経済学の基礎 ECN100M 尹 明憲	2学期	1	2	288
		1年			
	政治学 PLS100M 濱本 真輔	1学期	1	2	289
		1年			
■A群	アメリカの社会 ARE225M 北 美幸	1学期	2	2	290
		2年			
	イギリス研究I ARE236M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	イギリス研究II ARE237M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	イギリス研究III ARE238M 久木 尚志	1学期	2	2	291
		2年			
	イギリス研究IV ARE239M 久木 尚志	2学期	2	2	292
		2年			
	英米文化概論II ARE226M 中野 博文 他	2学期	2	2	293
		2年			
	現代中国の政治 ARE211M 下野 寿子	1学期	2	2	294
		2年			
	現代中国の外交 ARE212M 下野 寿子	2学期	2	2	295
	2年				
韓国・北朝鮮の政治外交I ARE213M 李 東俊	1学期	2	2	296	
	2年				
韓国・北朝鮮の政治外交II ARE214M 李 東俊	2学期	2	2	297	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目 ■A群	東南アジアの社会と歴史 ARE215M 篠崎 香織	1学期	2	2	298
	2年				
	東南アジアの政治と外交 ARE216M 篠崎 香織	2学期	2	2	299
	2年				
	地域研究特講 ARE200M ODU教員	集中	2	2	300
	2年				
	アメリカ史の争点 ARE320M 北 美幸	2学期	3	2	301
	3年				
	現代アメリカ政治 ARE322M 中野 博文	1学期	3	2	302
	3年				
	アメリカ政治研究 ARE321M 中野 博文	2学期	3	2	303
	3年				
東アジア経済論 ECN352M 尹 明憲	1学期	3	2	304	
3年					
東アジア地域秩序論I ARE315M 金 鳳珍	1学期	3	2	305	
3年					
東アジア地域秩序論II ARE316M 金 鳳珍	2学期	3	2	306	
3年					
■B群	国際協力論I IRL211M 大平 剛	1学期	2	2	307
	2年				
	国際協力論II IRL212M 大平 剛	2学期	2	2	308
	2年				
	国際社会論 IRL210M 稲月 正	1学期	2	2	309
	2年				
	国際人権論 IRL213M 山本 直	2学期	2	2	310
2年					
国際紛争論 IRL214M 西山 美久	1学期	2	2	311	
2年					
地球環境論 ENV200M 松本 治彦	1学期	2	2	312	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目 ■B群	世界経済論 ECN255M 尹 明憲	2学期	2	2	313
		2年			
	国際関係特講I IRL290M 足立 力也	集中	2	2	314
		2年			
	国際関係特講II IRL291M 村岡 美奈	集中	2	2	315
		2年			
	倫理学 PHR210M 清水 満	2学期	2	2	316
		2年			
	国際機構論I IRL312M 山本 直	1学期	3	2	317
		3年			
	国際機構論II IRL313M 山本 直	2学期	3	2	318
		3年			
	国際政治経済論I IRL310M 阿部 容子	1学期	3	2	319
		3年			
国際政治経済論II IRL311M 阿部 容子	2学期	3	2	320	
	3年				
国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	3	2	321	
	3年				
国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	3	2	322	
	3年				
政策過程論 PLC212M 申 東愛	1学期	3	2	323	
	3年				
■外国語科目 ■英語必修	英文法・英作文A ENG161M 十時 康	1学期	1	1	324
		1 - 1			
	英文法・英作文A ENG161M 三宅 啓子	1学期	1	1	325
		1 - 2			
英文法・英作文A ENG161M 吉田 禎子	1学期	1	1	326	
	1 - 3				
英文法・英作文A ENG161M 齊藤 園子	1学期	1	1	327	
	1 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英文法・英作文B ENG162M 十時 康	2学期	1	1	328
		1 - 1			
	英文法・英作文B ENG162M 三宅 啓子	2学期	1	1	329
		1 - 2			
	英文法・英作文B ENG162M 吉田 禎子	2学期	1	1	330
		1 - 3			
	英文法・英作文B ENG162M 富永 美喜	2学期	1	1	331
		1 - 4			
	English Practicum1A ENG101M アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	332
		1 - 1			
	English Practicum1A ENG101M アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	333
		1 - 2			
	English Practicum1A ENG101M アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	334
		1 - 3			
	English Practicum1A ENG101M アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	335
		1 - 4			
	English Practicum1B ENG111M アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	336
		1 - 1			
	English Practicum1B ENG111M アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	337
		1 - 2			
English Practicum1B ENG111M アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	338	
	1 - 3				
English Practicum1B ENG111M アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	339	
	1 - 4				
英語表現法A ENG261M 齊藤 園子	1学期	2	1	340	
	2 - 1				
英語表現法A ENG261M 齊藤 園子	1学期	2	1	341	
	2 - 2				
英語表現法A ENG261M 村田 希巳子	1学期	2	1	342	
	2 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英語表現法A ENG261M 吉田 禎子	1学期	2	1	343
		2 - 4			
	英語表現法B ENG262M 吉田 禎子	2学期	2	1	344
		2 - 1			
	英語表現法B ENG262M 吉田 禎子	2学期	2	1	345
		2 - 2			
	英語表現法B ENG262M 村田 希巳子	2学期	2	1	346
		2 - 3			
	英語表現法B ENG262M 薬師寺 元子	2学期	2	1	347
		2 - 4			
	English Practicum2A ENG201M クリストファー・カーマン	1学期	2	1	348
		2 - 1			
	English Practicum2A ENG201M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	349
		2 - 2			
	English Practicum2A ENG201M デニス・ジョーンズ	1学期	2	1	350
		2 - 3			
	English Practicum2A ENG201M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	2	1	351
		2 - 4			
	English Practicum2B ENG211M クリストファー・カーマン	2学期	2	1	352
		2 - 1			
English Practicum2B ENG211M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	353	
	2 - 2				
English Practicum2B ENG211M デニス・ジョーンズ	2学期	2	1	354	
	2 - 3				
English Practicum2B ENG211M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	2	1	355	
	2 - 4				
英語論文作成法I ENG361M アルバート・オスカー・モウ	1学期	3	2	356	
	3 - 1				
英語論文作成法I ENG361M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	3	2	357	
	3 - 2				



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英語論文作成法I ENG361M ポール・ガラフ・ステイール	1学期	3	2	358
		3 - 3			
	英語論文作成法I ENG361M アルバート・オスカー・モウ	1学期	3	2	359
		3 - 4			
	英語論文作成法II ENG362M アルバート・オスカー・モウ	2学期	3	2	360
		3 - 1			
	英語論文作成法II ENG362M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	3	2	361
		3 - 2			
	英語論文作成法II ENG362M ポール・ガラフ・ステイール	2学期	3	2	362
		3 - 3			
	英語論文作成法II ENG362M アルバート・オスカー・モウ	2学期	3	2	363
		3 - 4			
	English Practicum3A ENG301M ジェイムズ・ヒックス	1学期	3	1	364
		3 - 1			
	English Practicum3A ENG301M クリストファー・カーマン	1学期	3	1	365
	3 - 2				
English Practicum3A ENG301M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	3	1	366	
	3 - 3				
English Practicum3A ENG301M クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	367	
	3 - 4				
English Practicum3B ENG311M ジェイムズ・ヒックス	2学期	3	1	368	
	3 - 1				
English Practicum3B ENG311M クリストファー・カーマン	2学期	3	1	369	
	3 - 2				
English Practicum3B ENG311M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	3	1	370	
	3 - 3				
English Practicum3B ENG311M クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	371	
	3 - 4				
■英語選択	英語学概論 LIN130M 三宅 啓子	1学期	1	2	372
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語選択	原書講読 ENG312M 齊藤 園子	1学期	3	2	373
	3年				
■専門基礎科目 ■必修	国際関係概論 IRL100M 中野 博文 他	1学期	1	2	374
	1年				
	国際関係の争点 IRL101M 大平 剛	2学期	1	2	375
	1年				
	国際関係史 IRL201M 中野 博文 他	2学期	2	2	376
	2年				
	国際関係の理論 IRL200M 阿部 容子	1学期	2	2	377
	2年				
■選択	中国研究概論 ARE111M 下野 寿子	1学期	1	2	378
	1年				
	朝鮮半島研究概論 ARE112M 李 東俊	2学期	1	2	379
	1年				
	東南アジア研究概論 ARE113M 篠崎 香織	1学期	1	2	380
	1年				
■演習科目 ■必修	入門演習 SEM110M 久木・篠崎・下野・中野・山本・李	2学期	1	2	381
	1年				
	基礎演習 SEM210M 阿部・北・金・中野・山本・尹	1学期	2	2	382
	2年				
	専門演習I SEM311M 休講	1学期	3	2	383
	3年				
	専門演習I SEM311M 大平 剛	1学期	3	2	383
	3年				
	専門演習I SEM311M 北 美幸	1学期	3	2	384
	3年				
専門演習I SEM311M 李 東俊	1学期	3	2	385	
3年					
専門演習I SEM311M 金 鳳珍	1学期	3	2	386	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	専門演習I SEM311M 阿部 容子	1学期	3	2	387
		3年			
	専門演習I SEM311M 篠崎 香織	1学期	3	2	388
		3年			
	専門演習I SEM311M 下野 寿子	1学期	3	2	389
		3年			
	専門演習I SEM311M 中野 博文	1学期	3	2	390
		3年			
	専門演習I SEM311M 久木 尚志	1学期	3	2	391
		3年			
	専門演習I SEM311M 山本 直	1学期	3	2	392
		3年			
	専門演習I SEM311M 尹 明憲	1学期	3	2	393
		3年			
	専門演習II SEM312M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	専門演習II SEM312M 大平 剛	2学期	3	2	394
		3年			
	専門演習II SEM312M 北 美幸	2学期	3	2	395
		3年			
専門演習II SEM312M 李 東俊	2学期	3	2	396	
	3年				
専門演習II SEM312M 金 鳳珍	2学期	3	2	397	
	3年				
専門演習II SEM312M 阿部 容子	2学期	3	2	398	
	3年				
専門演習II SEM312M 篠崎 香織	2学期	3	2	399	
	3年				
専門演習II SEM312M 下野 寿子	2学期	3	2	400	
	3年				



科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	卒業研究演習I	1学期	4	2	
	SEM411M 未開講	4年			
	卒業研究演習II	2学期	4	2	
	SEM412M 未開講	4年			
	卒業研究演習II	2学期	4	2	
	SEM412M 未開講	4年			
	卒業研究演習II	2学期	4	2	
	SEM412M 未開講	4年			
	卒業研究演習II	2学期	4	2	
	SEM412M 未開講	4年			
	卒業研究演習II	2学期	4	2	
	SEM412M 未開講	4年			
	卒業研究演習II	2学期	4	2	
	SEM412M 未開講	4年			
	卒業研究演習II	2学期	4	2	
	SEM412M 未開講	4年			
卒業研究演習II	2学期	4	2		
SEM412M 未開講	4年				
卒業研究演習II	2学期	4	2		
SEM412M 未開講	4年				
卒業研究演習II	2学期	4	2		
SEM412M 未開講	4年				
卒業研究演習II	2学期	4	2		
SEM412M 未開講	4年				
卒業研究演習II	2学期	4	2		
SEM412M 未開講	4年				
■自由選択科目	中国近現代史I	1学期	1	2	405
	HIS120M 堀地 明	1年			
	中国近現代史II	2学期	1	2	406
	HIS121M 堀地 明	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由選択科目	イスパニア地域論 ARE243M 富田 広樹	2学期	2	2	407
	2年				
	経済学入門A ECN110M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	経済学入門B ECN111M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	ユーラシアの多文化世界 ARE265M 芳之内 雄二	2学期	2	2	408
	2年				
	時事中国語講読I ARE311M 白石 麻保	1学期	3	2	409
	3年				
	時事中国語講読II ARE312M 白石 麻保	2学期	3	2	410
	3年				
	ビジネス中国語I CHN362M 唐 雋	1学期	3	2	411
	3 - 1・3 - 2				
	ビジネス中国語I CHN362M 唐 雋	1学期	3	2	412
	3 - 3・3 - 4				
ビジネス中国語II CHN363M 唐 雋	2学期	3	2	413	
3 - 1・3 - 2					
ビジネス中国語II CHN363M 唐 雋	2学期	3	2	414	
3 - 3・3 - 4					
アジア地域社会論 PLC222M 三宅 博之	2学期	3	2	415	
3年					
環境政策論 PLC216M 申 東愛	2学期	3	2	416	
3年					
西洋政治史 PLS111M 五月女 律子	2学期	3	2	417	
3年					
地域統合論 PLS214M 五月女 律子	2学期	3	2	418	
3年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 黒田 耕司	1学期	1	2	419
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理	2学期	1	2	420
	EDU110M 下地 貴樹	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	421
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	教育制度論	1学期	3	2	422
	EDU227M 見玉 弥生	3年			
	教育課程論	1学期	3	2	423
	EDU360M 見玉 弥生	3年			
	英語科教育法 A	1学期	3	2	
	EDU250C 休講	3年			
	英語科教育法 A	1学期	3	2	424
	EDU250C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	
	EDU251C 休講	3年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	425
	EDU251C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 C	1学期	3	2	426
	EDU252C 伊藤 健一	3年			
英語科教育法 D	2学期	3	2	427	
EDU253C 細川 博文	3年				
社会科教育法 A	1学期	3	2		
EDU240C 休講	3年				
社会科教育法 B	2学期	3	2		
EDU241C 休講	3年				
社会科教育法 C	2学期	3	2	428	
EDU242C 吉村 義則	3年				
社会科教育法 D	2学期	3	2	429	
EDU243C 下地 貴樹	3年				
公民科教育法 A	1学期	3	2	430	
EDU244C 下地 貴樹	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	公民科教育法B EDU245C 吉村 義則	2学期	3	2	431
	3年				
	道徳教育指導論 EDU262M 黒田 耕司	2学期	2	2	432
	2年				
	特別活動論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	433
	2年				
	教育方法学 EDU260M 黒田 耕司	1学期	2	2	434
	2年				
	生徒・進路指導論 EDU261M 楠 凡之	2学期	2	2	435
	2年				
	教育相談 EDU264M 楠 凡之	1学期	2	2	436
	2年				
	教育実習 1 EDU380C 黒田 耕司 他	2学期	3	2	437
	3年				
教育実習 2 EDU480C 未開講	1学期	4	2	438	
4年					
教育実習 3 EDU481C 未開講	1学期	4	2	439	
4年					
教職実践演習 (中・高) EDU490C 未開講	2学期	4	2	440	
4年					
■選択科目	教育心理学 PSY220M 五十嵐 亮	2学期	2	2	438
	2年				
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期	2	2	439
	2年				
	教育社会学 EDU225M 作田 誠一郎	集中	2	2	440
	2年				
人権教育論 EDU228M 弓野 勝族	1学期	2	2	441	
2年					
生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	442	
2年					



外国語学部 国際関係学科 (2013年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育学	2学期	2	2	443
	EDU265M 大塚 一徳	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	444
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	445
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	446
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	447
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	448
	1年				
日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	449	
1年					
生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	450	
1年					
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	451	
1年					
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	452	
1年					
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 二宮 正人	1学期	1	2	453
1年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	454
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	455	
1年					
文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	456
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 大澤 津 他	1学期	1	2	456
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 閉講	1学期	1	2	457
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	458
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	459
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	2学期	1	2	460
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	461
		1年			
	市民活動論 RDE001F 休講	2学期	1	2	462
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	463
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	464
		1年			
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	465	
	1年				
国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	465	
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 小林 道彦	1学期	1	2	465	
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 休講	2学期	1	2	465	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	465	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ヨ一口ツバ道德思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	東洋史 HIS120F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	西洋史 HIS130F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	人文地理学 GEO110F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	土地地理学 GEO111F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	地誌学 GEO112F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
日本国憲法 LAW120F 閉講	1学期	1	2		
1年					
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	466
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 山本 浩二	2学期	1	2	467
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	468	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 休講	2学期	1	1		
1年					
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	2学期	1	2	469
	1学期未修得者再履				

外国語学部 国際関係学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現	2学期	2	2	470
	INF230F 浅羽 修丈	2年			
■専門教育科目 ■専門科目 ■その他	政治学		1	2	
	PLS100M 休講	1年			
■B群	国際法I	1学期	3	2	
	LAW250M 休講	3年			
	国際法II	2学期	3	2	
	LAW251M 休講	3年			
	政策過程論		3	2	
	PLC212M 休講	3年			
■自由選択科目	経済学入門A	1学期	2	2	471
	ECN110M 藤井 敦	2年			
	経済学入門B	1学期	2	2	472
	ECN111M 畔津 憲司	2年			
	アジア地域社会論		3	2	
	PLC222M 休講	3年			
	環境政策論		3	2	
	PLC216M 休講	3年			
	西洋政治史		3	2	
	PLS111M 休講	3年			
地域統合論		3	2		
PLS214M 休講	3年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	473
	EDU111M 黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	
	EDU110M 休講	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	474
PSY222M 税田 慶昭	2年				
教育制度論	1学期	3	2	475	
EDU227M 見玉 弥生	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育課程論	1学期	3	2	476
	EDU360M 見玉 弥生	3年			
	英語科教育法 A	1学期	3	2	477
	EDU250C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	478
	EDU251C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU252C 休講	3年			
	英語科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU253C 休講	3年			
	社会科教育法 A	1学期	3	2	479
	EDU240C 下地 貴樹	3年			
	社会科教育法 B	2学期	3	2	480
	EDU241C 下地 貴樹	3年			
	社会科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU242C 休講	3年			
	社会科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU243C 休講	3年			
	公民科教育法 A	1学期	3	2	
	EDU244C 休講	3年			
公民科教育法 B	2学期	3	2		
EDU245C 休講	3年				
道德教育指導論	2学期	2	2	481	
EDU262M 黒田 耕司	2年				
特別活動論	1学期	2	2	482	
EDU263M 楠 凡之	2年				
教育方法学	1学期	2	2	483	
EDU260M 黒田 耕司	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	484	
EDU261M 楠 凡之	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談	1学期	2	2	485
	EDU264M 楠 凡之	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	486
	EDU380C 黒田 耕司	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	
	EDU480C 未開講	4年			
教育実習 3	1学期	4	2		
EDU481C 未開講	4年				
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2		
EDU490C 未開講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	487
	PSY220M 田島 司	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	PSY223M 休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	
	EDU225M 休講	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	488
EDU228M 弓野 勝族	2年				
生涯学習学	1学期	2	2		
EDU220M 休講	2年				
教育工学	2学期	2	2	489	
EDU265M 大塚 一徳	2年				

# 歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

## 授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らずに、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 歴史と政治【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

## 授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。  
本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

# 異文化理解の基礎【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代に至るまでの家族・親族関係の変容

第4回 伝統的社会における親族関係

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教紛争と日常の中の宗教

第12回 不幸への対処としての呪術

第13回 中間テストの解説

第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 政教分離と世俗化

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート 40%、期末レポート 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

## キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

# ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			ことばの科学 LIN110F

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、棕田 直子訳、NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

## 授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- E・フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
  - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
  - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
  - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の変容(1)【高度産業社会】
- 5回 生活世界の変容(2)【テクネーの美】
- 6回 生活世界の変容(3)【複製技術と政治】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容(4)【全体主義と思考能力・前半】
- 9回 生活世界の変容(5)【全体主義と思考能力・後半】
- 10回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説・前半】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャ概説・後半】
- 13回 公私の区別とその起源(3)【古代ギリシャの公と私】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(1)【寛容の概念】
- 15回 宗教の私事性と公的領域(2)【衝突と共生】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%  
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)



# 生活世界の哲学 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと（例年2～3割の受講者が不合格となっている）。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。板書した内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

## キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

# 日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

## 授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

# 日本の防衛【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障と防衛(1)  
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第3回 安全保障と防衛(2)  
安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)  
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)  
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)  
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)  
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)  
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)  
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)  
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力  
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン  
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)  
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)  
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。  
安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生命と環境【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

## 授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、遺伝子や生物の多様性と進化、それに影響を与えてきた生命を取り巻く環境について広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高・中尾)
- 2回 ミクロとマクロの世界(日高・中尾)【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質(中尾)【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち(日高)【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞(日高)【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ(日高)【地球環境の変化と生物】
- 7回 生物の分類と系統(日高)【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性(日高)【有性生殖】【減数分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前(日高)【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線(日高)【放射性同位元素】
- 11回 科学と似非科学(日高・中尾)【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境(中尾)【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源(日高)【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 映画鑑賞(日高)
- 15回 質疑応答とまとめ(日高)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・小テスト 40%  
期末テスト 60%

# 生命と環境 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。  
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

## キーワード /Keywords

# 情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

# 情報社会への招待【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%  
日常の授業への取り組み ... 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

# 環境問題概論 【昼】

担当者名  
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

## 授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -干潟の仕組み-
- 第3回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -海はだれのものか-
- 第4回 伝統的な農村部の生活と自然環境
- 第5回 農業の環境保全的機能と大規模集約型農業について
- 第6回 農業の可能性と第6次産業化
- 第7回 山を守る人々 -守るために利用すること-
- 第8回 森林を焼き払う農業 -焼き畑農業は環境保全的か-
- 第9回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります)
- 第10回 日本人における自然観の変遷と考え方 -環境倫理-
- 第11回 生物多様性と日本の草原
- 第12回 国際的枠組み -SATOYAMAイニシアティブの取り組み-
- 第13回 食物連鎖と地域内物質循環
- 第14回 なぜ環境問題は生じるのか -レポート試験の実施- (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括と復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%  
 不定期に何回か実施する試験(レポート試験含む)：80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 環境問題概論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。  
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

## キーワード /Keywords

# 可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

## 授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、講義の中で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「15年戦争」史
- 3回 「中国革命」と日本の対応【山東出兵】【張作霖】
- 4回 満州事変【石原莞爾】【満蒙領有論】【関東軍】
- 5回 第一次上海事変と政党内閣の崩壊【朝鮮独立問題】【「満州国」】
- 6回 2・26事件と日中戦争への道【高橋是清】
- 7回 日中戦争【第二次上海事変】【ドイツ】【近衛文麿】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【ナチス・ドイツ】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
- 10回 第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
- 12回 太平洋戦争1【真珠湾攻撃】【ミッドウェイ海戦】【東条英機】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

※「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

# 現代社会と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

## 授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身に付けることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半は私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考がちな身体に関する文化についての講義を行い、文化を理解することについて考察を深める。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

## 教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

# 現代社会と文化【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々 / 第I部 まとめ

第10回 中間テスト

第II部 他者の内側

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識

第12回 身体の近代化

第13回 中間テストの解説

第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体

第15回 癒しの多様性

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト30%、期末テスト70%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

## キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

# 言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師  
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

## 授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%  
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

# 言語と認知 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

\* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。  
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論 SOW200F	

## 授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。



# 共生社会論 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ビジョン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

## 授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献は授業時にそのつど指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの身体観 1【プラトン】
- 3回 古代ギリシャの身体観 2【ソポクレス】
- 4回 古代ギリシャの身体観 3【通時的概観】
- 5回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 6回 身体の変容と限界 1【夢と現実のあいだ】
- 7回 身体の変容と限界 2【身体表現の可能性】
- 8回 身体の変容と限界 3【排除される身体】
- 9回 身体・家族・社会 1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会 2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会 3【差別される身体】
- 12回 身体・家族・社会 4【シミュレーバー症例】
- 13回 身体のポリティクス 1【全体主義】
- 14回 身体のポリティクス 2【統制される身体】
- 15回 身体のポリティクス 3【処罰される身体】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。  
「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

# 共同体と身体 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期末テストは授業範囲すべてに関わるものであり、比較的密度の濃い内容となる。そのため、当たり前のことだが、休めば休むほど成績上不利になる。単位取得のためには、かなりの努力と忍耐力が求められるだろう。卒業予定の4年生に対しても、同じく厳しい採点態度で臨むので、受講にあたってはこの点を十分に熟考しておくこと。

## キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

# 戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

## 授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサビエンスと戦争の起源(1)
- 第3回 ホモサビエンスと戦争の起源(2)
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割 ( 抑止概念、抑止条件、相互確証破壊 )
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし。ただし、「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 生命科学と社会 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

## 授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学とはどのようなもので、我々の生活をどのように変えてきたのだろうか。また、人間が遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのだろうか。本講義では人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための基礎知識を身につけることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の歴史1【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の歴史2【タンパク質】
- 4回 生命科学の歴史3【ヒトゲノム計画】
- 5回 遺伝子操作と遺伝子組換え作物【カルタヘナ法】
- 6回 DNA鑑定とその限界【PCR】【足利事件】
- 7回 食品と医薬品【生物資源】【医薬品】
- 8回 先端医療と生命科学【分子標的薬】
- 9回 人体と放射線(外部講師)【確率的影響】【がん】
- 10回 モデル生物と人間(外部講師)【動物愛護】
- 11回 運命と遺伝子【遺伝子診断】【出生前診断】
- 12回 生命科学と家族(神原)【遺伝的つながり】
- 13回 ニュースの話題より【ノーベル賞】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題(小テスト含む) 40%  
期末テスト 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師（放射線基礎医学等）および基盤教育センター・神原ゆうこ（文化人類学）とともに、さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。基礎部分をより体系的に学びたい者は2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解が深まるでしょう。

## キーワード /Keywords

# 情報社会を読む【昼】

担当者名  
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】 【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】 【GPS】
- 3回 演習1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 ソーシャルメディアがもたらすコミュニケーションの変化と集合知 【SNS】 【ミニブログ】
- 5回 ソーシャルメディアを利用したビジネスモデル 【ソーシャルコマース】
- 6回 演習2：ソーシャルメディアを利用した未来のサービスを読む
- 7回 「雲」の向こう側にある情報 【クラウドコンピューティング】 【データセンター】 【共有】
- 8回 全てがインターネットに接続されると何が起きるか 【IoT】
- 9回 カメラは何を認識できるか 【画像処理】 【画像認識】
- 10回 個人を特定できるコンピュータとその危険性 【顔画像認証】
- 11回 演習3：クラウドコンピューティング・画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 12回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 13回 近未来の入力装置 【モーション操作】
- 14回 演習4：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
- 15回 まとめ



# 情報社会を読む【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 50%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 40%、レポート・・・ 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループワークを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

## キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

# 地域資源管理論【昼】

担当者名 /Instructor 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
		地域資源管理論	
		ENV200F	

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。  
本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。  
①東京都国立市の国立マンション訴訟 - まちの景観を住民は守ることができるのか -  
②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -  
③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 - まちづくり会社 (TMO) の役割と権利の集約 -

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著 (2006) 『コモンズ論再考』 晃洋書房  
角谷 嘉則著 (2009) 『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』 創成社

# 地域資源管理論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨソ  
第2回 資源とは何か？  
第3回 地域資源管理のための最も望ましい形とは？
- 第4回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 - まちの景観を住民は守ることができるのか -  
：なぜこの問題が起きたのか？（問題背景）  
第5回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 : 法的な解釈と住民たちの意識とのズレについて  
第6回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 : 問題解決に向けた新たな法制度の提案  
第7回 ①地域資源管理における都市エリアの特徴 - 流動性の観点から -
- 第8回 ②地域資源を生かした地域活性化策 - フットパスの取り組み -  
第9回 ②フットパスとオルレの特徴 - 九州における歩く文化の創造と法的権利 -  
第10回 ②フットパスの実践家を招いたフットパス講義
- 第11回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 - まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約 - : 問題の背景  
第12回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 「まちづくり三法」と「まちづくり会社の役割」について  
第13回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 伝統的文化である「長浜曳山祭り」の継承という役割  
第14回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 新たな課題の出現とその解決策の提示
- 第15回 総括と復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

専門的知識の習得度（試験やレポートで確認）：80%  
授業への積極的参加姿勢や貢献度：20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養基礎演習I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

高校である程度生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。  
毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作ってもらいます。  
小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。  
この演習は2年生・3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：

本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、近年話題となった文庫を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指します。

## 教科書 /Textbooks

松田美佐2014『うわさとは何か』中公新書

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編)2009『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探し方
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマのを見つけ方
- 第9回 レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%  
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)  
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

# 教養基礎演習I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・ 第1回の授業は必ず出席してください。
- ・ 教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・ レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

## キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

## 教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養基礎演習I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。  
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- ( 1 ) 社会的なもの見方・考え方
- ( 2 ) 文献資料の調べ方
- ( 3 ) 質的調査の考え方とやり方
- ( 4 ) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

## 教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004  
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会  
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』( 1 )
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』( 2 )
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』( 3 )
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』( 4 )
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める( 1 ) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める( 2 ) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる( 1 ) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる( 2 ) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

# 教養基礎演習I【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40%      課題(レポート)... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジユメを準備すること。  
レジユメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジユメの作成方法については授業中に説明する)。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

## 教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%  
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

# 教養基礎演習I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジユメを精読してのぞむこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

## キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジユメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上



# 教養基礎演習I ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ( 戸蒔 )
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 教養基礎演習I ( 防衛セミナー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
教養演習科目

キーワード /Keywords

# 教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%

( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

# 教養基礎演習I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。  
なお、本基礎演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。  
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 I	GES101F

## 授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思います。  
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配付

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習(1)
- 13回 キャンプ実習(2)
- 14回 キャンプ実習(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養基礎演習I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。  
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永)と同時期に実施をします。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけではなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

## 教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業開始時に説明します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ



## 教養基礎演習II 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

指定回に着用しての受講となります。  
クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修（ホスピタリティ/サービス実践等）を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。  
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

### キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養基礎演習II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

### キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう（400字×10枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年、700円）。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。  
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。  
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。  
この演習は2年生、3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：  
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い（＝評価される）レポートが書けることは違います。本演習では、教養基礎演習Iの受講者の問題関心に近いテキストを輪読し、ディスカッションを通して、各自のテーマをさらに掘り下げることを通して課題発見能力を養います。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度度のレポートを書くことを目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

## 教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習に候補の本をいくつか持っていき、出席者と相談して決めます。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

## 教養基礎演習II 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%  
※レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。  
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

- ・原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートはとりあえず書けるけれど、いい（評価される）レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

### キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

## 教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養基礎演習II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

スキー実習は別途実習費が必要です。  
スキー実習は、教養基礎演習II(担当・高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords



# 教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。  
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
  - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
  - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
  - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
  - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
  - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
  - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。  
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

## 教科書 /Textbooks

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

# 教養基礎演習II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的社会調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題(レポート)...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

## キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

# 教養基礎演習Ⅱ 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。  
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

## 教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来） 20%  
専門的基礎知識の理解度 30%  
期末レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養基礎演習II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。  
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

### キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

# 教養基礎演習II ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 集中  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等へ行き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI( 教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI )を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中( 8月中下旬～9月上旬 )にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する( 500円程度+αのみかかります )。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

防衛白書

## 教養基礎演習II ( 防衛セミナー ) 【昼】

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）  
バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）+ 現地での研修（5時間）

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学（5時間）  
現地での研修（5時間）

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）  
バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）+ 現地での研修（5時間）

### 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50% + レポート50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

## 教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。  
（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 10 回 読解と議論 9
- 11 回 読解と議論 10
- 12 回 読解と議論 11
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%  
( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 15 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

## 教養基礎演習II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

### キーワード /Keywords



# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。  
また、学内から離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人との協調や、新たな自己発見、自己開示能力についても養ってきたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配付

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解するためには ( 1 )
- 3回 自分自身を理解するためには ( 2 )
- 4回 自分自身を人に理解させるためには ( 1 )
- 5回 自分自身を人に理解させるためには ( 2 )
- 6回 身体活動を用いた自己表現 ( 1 )
- 7回 身体活動を用いた自己表現 ( 2 )
- 8回 スキー実習についての講義 ( 1 ) ( 場所の選定 )
- 1 3回 スキー実習についての講義 ( 2 ) ( スキーの安全面 )
- 1 4回 スキー実習についての講義 ( 3 ) ( スキー技術 )
- 1 1回 スキー実習についての講義 ( 4 ) ( スキー実習について )
- 1 2回 スキー実習 ( 1 )
- 1 3回 スキー実習 ( 2 )
- 1 4回 スキー実習 ( 3 )
- 1 5回 スキー実習 ( 4 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ( スキー実習の参加を義務付け ) ... 80% レポート ... 20%  
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養基礎演習II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。  
スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。  
また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養演習 AI 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。  
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。  
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%

( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

# 教養演習 AI 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。  
なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。  
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
  - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
  - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。



# 教養演習 AI 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
- 第5回 情報を集める 1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する 2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
- 第7回 論文検討会 1
- 第8回 文献レビュー（テキスト批評） 1
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評） 2
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評） 3
- 第11回 文献レビュー（テキスト批評） 4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評） 5
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評） 6
- 第14回 文献レビュー（テキスト批評） 7
- 第15回 論文検討会 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、（ 1 ）文献概要、（ 2 ）内容要約、（ 3 ）論点整理、（ 4 ）議論等を記したレジюмеを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

## キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

民族問題・多文化との共生について考える：

本演習では、民族問題や多文化の共生に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて民族問題や多文化の共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。  
(候補：塩川伸明『民族とネイション』、塩原良和『共に生きる』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

# 教養演習 AI 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の講義で学生の関心が高い「民族」に関する問題をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

## キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、共生

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%  
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 A II」とセットで履修することを希望します。  
この演習は1年生、3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

# 教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教養演習 AI ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス（戸蒔）  
2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

# 教養演習 AI ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 教養演習 AI 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1年次までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」や「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。  
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 2学期 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。  
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム ( 1 )
- 3回 コミュニケーションゲーム ( 2 )
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画 ( 2 ) 安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画 ( 3 ) プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画 ( 1 ) 野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画 ( 2 ) 安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画 ( 3 ) プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施 ( 1 )
- 13回 スキー実習の実施 ( 2 )
- 14回 スキー実習の実施 ( 3 )
- 15回 スキー実習の実施 ( 4 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%  
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習 A II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。  
スキー実習は、教養基礎演習II（担当：徳永、高西）と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習 A II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1年次までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

### キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。  
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。  
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

## 教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000\\_4\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書は、初回の授業時に、紹介します。  
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

# 教養演習 A II 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。  
ゼミへの参加...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。  
受講申請にあたってはこの点に注意してください。  
①社会科教育法AまたはC，もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD，もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。  
なお最大でも10人程度を予定しています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

## キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】



# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

**授業の概要 /Course Description**  
ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

**教科書 /Textbooks**  
コピーして配布します。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
1回 演習運営方針に関する話し合い。  
2～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。  
15回 まとめ。

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**履修上の注意 /Remarks**  
毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。  
小林担当の「教養演習 AI」とセットで履修することを希望します。  
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

宗教と文化について考える：

本演習では、現代世界の宗教と文化に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教と文化に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストについて各自批判的によみ、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界の宗教と文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。  
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

## 教養演習 A II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「異文化理解の基礎（人間と文化）」で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

### キーワード /Keywords

現代社会、文化、宗教性

# 教養演習 A II ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 集中  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI( 教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI )を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中( 8月中下旬~9月上旬 )にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する( 500円程度+αのみかかります )。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

防衛白書

# 教養演習 AII ( 防衛セミナー ) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)  
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。なお、調査実習を行う可能性もある。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

# 教養演習 A II 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題(論文)...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

## キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

## 教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。  
（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 10 回 読解と議論 9
- 11 回 読解と議論 10
- 12 回 読解と議論 11
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%  
( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 15 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )



## 教養演習 A II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

### キーワード /Keywords

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。  
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%  
活動への参加度50%  
活動報告書30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%  
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習BI【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。  
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養演習BI【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは2年次までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%  
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。  
小林担当の「教養演習 AI・AII」「教養演習 BII」とセットで履修することを希望します。  
AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、2年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

# 教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

民族問題・多文化との共生について考える：

本演習では、民族問題や多文化の共生に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて民族問題や多文化の共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：塩川伸明『民族とネイション』、塩原良和『共に生きる』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

# 教養演習BI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の講義で学生の関心が高い「民族」に関する問題をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

## キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、共生

# 教養演習BI ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

# 教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

BI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
  - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
  - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

# 教養演習BI【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

## キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%

( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

# 教養演習BI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。  
なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。  
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords



# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていく。  
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務） ... 80% レポート ... 20%  
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習BⅡ【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。  
スキー実習は、教養基礎演習Ⅱ(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。  
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%  
活動への参加度50%  
活動報告書30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 40% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 40%、課題 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習BⅡ【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは2年次までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

### キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。  
第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。  
小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。  
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

宗教と文化について考える：

本演習では、現代世界の宗教と文化に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教と文化に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストについて各自批判的によみ、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界の宗教と文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 教養演習BⅡ【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「異文化理解の基礎（人間と文化）」で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

### キーワード /Keywords

現代社会、文化、宗教性



# 教養演習B II ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 集中  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI( 教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI )を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中( 8月中下旬～9月上旬 )にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する( 500円程度+αのみかかります )。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

防衛白書

# 教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)  
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BII
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。なお、調査実習を行う可能性もある。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題（論文）...70%

## 教養演習BⅡ【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、( 1 ) 文献概要、( 2 ) 内容要約、( 3 ) 論点整理、( 4 ) 議論を記したレジユメを準備すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

### キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

## 教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。  
（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 10 回 読解と議論 9
- 11 回 読解と議論 10
- 12 回 読解と議論 11
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%  
( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 15 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

## 教養演習BⅡ【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

### キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。  
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。  
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

## 教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000\\_4\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書は、初回の授業時に、紹介します。  
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

## 教養演習 B II 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①教育実習 1 を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

### キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】



# 自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科, 木下 靖子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

## 授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

## 教科書 /Textbooks

とくになし。適宜、参考文献を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

# 自然学のまなざし【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 木下
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラワーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 人類学のフィールドから
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 山と自然学

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (木下)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
- 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
- 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

講義は教室の中だけでは終わりません。  
そんなつもりで受講して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。  
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

## キーワード /Keywords

人類学  
環境学  
フィールドワーク

# 動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

## 授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。  
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

## 教科書 /Textbooks

テキストなし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 動物のみかた 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

## 授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円  
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円  
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円  
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目：まとめと演習

# 地球の生いたち【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%  
欠席の多い学生は減点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

## キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

# 自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

## 授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、( )内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館見学（1）ー博物館を楽しもう
- 3回 二次的自然と哺乳類（馬場）【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 4回 アンモナイトの古生物学（御前）【化石】【進化】【古生態】
- 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）【絶滅危惧】【生物多様性】
- 6回 ヒスイが語る地下深部の世界（森）【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 7回 アラビアの砂漠に棲む生き物たち（山根）【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 8回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）【化石】【生命史】【絶滅】
- 9回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 10回 深海生物ーその形と適応的意義ー（下村）【深海】
- 11回 昆虫の多様性と進化（葦島）【分類】【学名】
- 12回 森の移り変わりを考える（真鍋）【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 13回 化石が語る魚類の進化（蘆本）【魚類化石】
- 14回 自然史博物館見学（2）ー課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。  
授業への参加（授業中の課題）10%、期末レポート60%、期末テスト30%

# 自然史へのいざない【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

1回目の博物館見学は10月4日(日)、2回目は12月～1月のいずれかの日曜日を予定しています(変更の場合は掲示します)。  
授業スケジュールについての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# くらしと化学 【昼】

担当者名 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		くらしと化学	
		CHM001F	

## 授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工芸科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民は其中で、身近な問題での科学・技術情報の開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、科学・技術分野への一定の興味と基礎的な化学知識を必要とされます。

そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、自然界の現象で重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子の構造の関係を学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質と身近な問題との関わりを、生活に必要な生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境に影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

## 教科書 /Textbooks

芝原 寛泰、後藤景子：「身の回りから見た化学の基礎」：化学同人：2010/6/3015：¥1800+税：ISBN978-4-7598-1292-3

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）2200円、ISBN 978-4-621-04227-4

「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著(丸善) ¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として

○「沈黙の春」R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）

○「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

# くらしと化学【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 1章 化学ってなんだ? -化学の基本事項+補足
- 2) 14章 物質は自在に変わる -固・液・気の化学
- 3) 5章 もっとも身近でもっとも不思議な物質 -水の化学と(水の浄化・省く)
- 4) 2章 真水・お酢・石けん水の違って? -酸性・塩基性の化学, 石けんは4章
- 5) 8章 生活を彩る驚異の粒子 -コロイドの化学
- 6) 4章 環境にやさしい洗濯を -洗濯の化学
- 8) 12章 電気パワーが社会を明るくする -電池の化学
- 9) 6章 生活材料今昔物語 -プラスチックの化学
- 10) 7章 お料理は化学実験 -料理の化学 発酵 補足事項: 核酸、脂質
- 11) 9章 化学の力で命を守る -薬の化学
- 12) 15章 化学は未来をひらく -環境と調和する化学
- 13) 補足プリント、放射能・原子力
- 14) 補足プリント、放射能・原子力
- 15) まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な理解を確認するミニレポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくといい。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

## キーワード /Keywords

# 現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科  
中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師, 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

## 授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

# 現代人のこころ【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション  
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法  
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究  
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり  
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 やればできる？成長する考え方と成長できない考え方はどう違うのか？  
【動機づけ】【マインドセット】
- 第6回 その気にさせる心理学  
【動機づけ】【動因】【誘因】【フィードバック】
- 第7回 コミュニケーションとは？  
【認知】【スキーマ】【メンタルモデル】
- 第8回 わかりやすい文章作成，勝てるプレゼンテーション  
【影響力】【説得】【社会的認知】
- 第9回 人づき合いの技術  
【社会的スキル】【アサーション】【報告コミュニケーション】
- 第10回 三人寄れば文殊の知恵？船頭多くして船山に登る？  
【集団討議】【集団思考】【創造性】
- 第11回 組織を動かす心理学  
【リーダーシップ】【リスクマネジメント】【レジリエンス】
- 第12回 ストレスは人生のスパイス  
【ストレス理論】【ストレスマネジメント】【ソーシャルサポート】
- 第13回 人間の発達の心理学  
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第14回 感情はコントロールできるか？  
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。  
【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第15回 幸せの人間関係を求めて  
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。  
【積極的傾聴法】【私メッセージ】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・75% (範囲：第2～12回)  
課題(レポート)・・・25% (範囲：第13～15回)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

## 授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年(NHK出版新書)819円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 細胞とその構成成分【糖】【脂質】
- 3回 生命活動の主役・タンパク質【タンパク質】【アミノ酸】
- 4回 遺伝子とは何をするもの【核酸】【DNA】
- 5回 遺伝子が働くしくみ【RNA】【遺伝子の発現】
- 6回 遺伝子でどこまで決まるか【ゲノム】【体質】
- 7回 体はどのように作られるか【発生】【細胞の分化】
- 8回 細胞はどのように増えるか【細胞分裂】【細胞周期】
- 9回 細胞と個体の寿命【染色体】【テロメア】
- 10回 細胞のコミュニケーション【受容体】【シグナル】
- 11回 細胞社会の反逆者【がん遺伝子】
- 12回 万能細胞とは何か【ES細胞】【iPS細胞】
- 13回 体を守るしくみ【ウイルス】【抗体】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題 40%  
期末テスト 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科  
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	
		ENW001F	

## 授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

北九州市環境首都検定公式テキスト 2014年 900円+税  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～ (法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系 (外部講師)
- 4回 北九州における環境政策 (外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業 (マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学①～環境ミュージアム
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス (外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり (外部講師)
- 10回 北九州の環境経済 (経済学部・牛房)
- 11回 環境首都検定に向けて・小テスト (日高)
- 12回 環境問題と企業の取り組み (外部講師)
- 13回 社会が求める環境人材とは (外部講師)
- 14回 学生による環境問題への取り組み
- 15回 施設見学②～各自で実施

## 成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。  
環境首都検定の成績 (30%)、小テスト (30%)、期末レポート (20%)、授業への参加・授業中の課題など (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 環境都市としての北九州【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 環境首都検定は12月13日(日)の予定。
- ・ 施設見学①は11月15日(日)に北九州市環境ミュージアムを見学する予定。
- ・ 施設見学②は各自で都合の良い日を選んで関連施設を見学すること。尚、9月30日(水)にエコタウンバスツアーを予定しているが、こちらへの参加を以て施設見学②に当てることができる。事前に申込が必要なので掲示物に注意すること。
- ・ スケジュールは変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
- ・ 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。  
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

## キーワード /Keywords



# 未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 龍 有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~), 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19~)  
鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~), 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科  
泉 政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19~), 吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~)  
松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科, 佐藤 敬 / Takashi SATOH / 情報システム工学科 (19~)  
佐藤 雅之 / Masayuki SATO / 情報システム工学科 (19~), 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)  
城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~)  
櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)  
森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。	
	コミュニケーション力			
			未来を創る環境技術	ENV003F

## 授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する。

# 未来を創る環境技術【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会における環境技術の役割
- 第2回：バイオ燃料の製造技術
- 第3回：放射性物質の危険度
- 第4回：未来の環境分析
- 第5回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その1・燃料電池）
- 第6回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その2・エンジン、次世代発電システム）
- 第7回：環境に配慮した高精度高効率な精密加工法・最適設計法について
- 第8回：無人航空機システム～空から豊かで安全・安心な環境を創る～
- 第9回：ユニバーサルデザイン～人間の多様性に配慮した生活環境の設計～
- 第10回目：環境に配慮する建築デザイン
- 第11回目：地震の多い日本で安全な建物をつくり長く使うための技術
- 第12回目：都市・建築における省エネルギー・自然エネルギー利用と環境技術
- 第13回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生み出すバイオテクノロジー
- 第14回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について
- 第15回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 20%
- レポートおよび小テスト30%
- 期末課題50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にも目を通すようにすること。
- 私語をしないこと。 ノートはこまめにとること。
- 都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 文系学生にもわかりやすい授業内容です。

## キーワード /Keywords

- 環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

# 私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

## 授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 宗教の諸類型
- 4回 宗教の構成要素
- 5回 一神教について1（ユダヤ教）
- 6回 一神教について2（キリスト教とイスラム教）
- 7回 一神教について2（一神教の論理）
- 8回 仏教について1（インド仏教と日本仏教）
- 9回 仏教について2（中国の宗教と中国仏教）
- 10回 仏教について3（日本仏教の諸宗派）
- 11回 仏教について4（日本仏教の祖先崇拜・本覚思想）
- 12回 神道について1（日本の神と祭り）
- 13回 神道について2（神道の成立）
- 14回 神道について3（神仏習合）
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 平常の学習状況... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 私たちと宗教【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

事前に配布した資料については下読みしておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

## キーワード /Keywords

宗教、ユダヤ教、キリスト教、仏教、神道

# 思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

## 授業の概要 /Course Description

今年度は、サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、精神分析・音楽・文学・映画・倫理等のジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通してユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
  - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点(1)【概説】
- 3回 ユダヤ人の原点(2)【トーラー信仰】
- 4回 ユダヤ人の歴史(1)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(2)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(3)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 11回 文学の思想【カフカ】
- 12回 倫理の思想【ヨナス】
- 13回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・前半】
- 14回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・後半】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 期末テスト...60%  
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

第7回に確認テスト（第3回～第6回が試験範囲）を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。同じ原則は卒業予定の4年生に対しても等しく適用される。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

# 文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
			文化と表象
			MCC001F

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。  
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。  
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%  
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 文化と表象【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords



# 言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師  
 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語とコミュニケーション LIN001F

## 授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

# 言語とコミュニケーション【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
テーマ科目

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20%      レポート...20% × 4  
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

\* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

## 授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

今道友信『美について』（講談社現代新書）  
佐々木健一『美学への招待』（中公新書）  
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』（フィルムアート社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品のコンテキスト
- 3回 芸術作品に見るジェンダー 1：国内の事例
- 4回 芸術作品に見るジェンダー 2：海外の事例
- 5回 カワイイ文化と社会
- 6回 メイクと社会
- 7回 サブカルチャーと社会
- 8回 芸術とリアリティ
- 9回 引き算の美・足し算の美
- 10回 芸術と生活
- 11回 芸術の力×権力×暴力
- 12回 芸術と教育
- 13回 芸術と宗教
- 14回 北九州アートシーン
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

上記の講義内容は変更する場合があります。  
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代正義論 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。  
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [ 第3回~第7回まで 「正義」の応用問題（生命倫理と法） ]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、理解すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

## キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

# 民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

## 授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちには民主主義が当たり前になっているかもしれませんが、しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

## 教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜、紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 古代ギリシアの民主制

第3回 近代デモクラシーの基礎① 【秩序か権利か：ホブズとロック】

第4回 近代デモクラシーの基礎② 【一般意志と同調圧力：ルソーとトクヴィル】

第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【日本への輸入：福澤諭吉と中江兆民】

第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】 【ラディカル・デモクラシー】

第7回 現代日本の民主主義理論① 【集合行為問題・境界線の政治学】

第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】

第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】 【権威主義体制】 【全体主義体制】

第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】 【対立理論】 【ポピュリストモデル】

第11回 民主政治の形成と崩壊③ 【調和理論】 【民主化支援】

第12回 民主主義と有権者① 【政治参加】 【エリート民主主義】 【参加民主主義】

第13回 民主主義と有権者② 【政治的有効性感覚】

第14回 民主主義と有権者③ 【シティズンシップ教育】

第15回 民主主義と議会【代表・立法・審議・行政監視機能】 【二院制】 【ねじれ国会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ( 80% )、講義への参加態度 ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

# 民主主義とは何か 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

## キーワード /Keywords

なし



# 社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
社会学的思考			
SOC002F			

## 授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、階層と社会移動、社会的排除、グローバル化、排外主義等を予定している。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1：集合意識と行為
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2：『自殺論』
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1：理解社会学
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - フロム1：『自由からの逃走』
- 第9回 現代社会の解説1 - 階層と社会移動
- 第10回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除
- 第11回 現代社会の解説3 - 子どもの貧困
- 第12回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展
- 第13回 現代社会の解説5 - エスニシティ
- 第14回 現代社会の解説6 - ナショナリズムと排外主義
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%  
(総合的に判断する)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 社会学的思考 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

## キーワード /Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、理解社会学、社会階層、社会移動、社会的排除、貧困、グローバル化、エスニシティ、排外主義

# 政治のなかの文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			政治のなかの文化
			ANT001F

## 授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代国家的な政治体制や経済体制が世界中に共有される以前から、さまざまな共同体において統治の方法があったし（これもまた文化のひとつである）、近代国家的な制度が共有されるようになって、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、概念を問いかえすことが目的である。

## 教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』NTT出版
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
- 本多俊和ほか編2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入/グローバル化の時代と文化
- 第2回 理念の土着化は可能か？
- 第3回 伝統社会のなかの政治の始まり
- 第4回 互酬と社会
- 第5回 伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
- 第6回 価値観と文化
- 第7回 資本主義への対抗
- 第8回 中間テスト
- 第9回 政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
- 第10回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
- 第11回 開発の現場における文化と公共性
- 第12回 中間テストの解説
- 第13回 地域通貨の可能性とコミュニティの現在
- 第14回 「求められる市民参加」の時代
- 第15回 公共性と文化

# 政治のなかの文化【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト30%、期末テスト70%  
※そのほか講義への貢献を平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。このほか適宜授業への積極的参加を加点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目I「異文化理解の基礎」やビジョン科目II「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生は、授業の理解度が高まります。

## キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、互酬性、国家

# 人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			人権論
			SOC004F

## 授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

### 目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

## 教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要な参考書は授業時に紹介する。

# 人権論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%  
期末テスト50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。  
私語は厳禁  
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

「すべての人」  
「人間らしく生きる」

# ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

## 授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）  
適宜、補足資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）  
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）  
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

# ジェンダー論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

## キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」



# 障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

## 授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

# 障がい学【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor  
 今泉 恵子 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 高橋 衛 / 法律学科  
 植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科  
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科  
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科  
 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 中村 英樹 / 法律学科  
 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科  
 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共生の作法
			LAW001F

## 授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜指示する。

# 共生の作法【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(高橋)
- 第2回 法と道徳について(重松)
- 第3回 障害のある人の権利—日本国憲法から(植木)
- 第4回 生命の「自己決定」権?(中村)
- 第5回 行政活動と法治主義(福重)
- 第6回 犯罪とは何か(大杉)
- 第7回 刑事裁判とはなんだろう?(水野)
- 第8回 家族とは何か(小野)
- 第9回 契約とは何か(民法入門:契約の意義,種類,成立から終了まで)(福本)
- 第10回 商事(ビジネス)に関する法の特徴は何か(今泉)
- 第11回 民事訴訟とは何か(小池)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立,雇用関係の展開,雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 日本人の法・権利意識と歴史的基層(山口)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- レポートによる(100%,④に注意)。
- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから,テーマを1つ選び,レポートを1本作成して提出すること。
  - ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
  - ③ レポートには,所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
  - ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は,レポート提出があっても評価されないことがある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲(テーマ群)が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲(テーマ群)は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

## キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

# 法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

## 授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

## 教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'15』信山社(1,000円)をお勧めします。

# 法律の読み方 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

## 授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。  
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。  
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（１）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（２）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（３）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データファイルの作成（実習）1
- 第11回 データファイルの作成（実習）2
- 第12回 分布と統計量
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%  
(総合的に判断する。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題をきちんと提出すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

## キーワード /Keywords

量的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数



# 市民活動論【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

## 授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。  
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながらか授業を進めて行く予定である。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
  - 2回 検討の枠組みについて
  - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析①
  - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析②
  - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
  - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
  - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
  - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
  - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
  - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
  - 11回 中間まとめ
  - 12回 北九州市における市民活動のうねり
  - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
  - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
  - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

## 授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という意識）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家の生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのようには振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。  
また、レジユムも配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の最新の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002、その他、この論争を紹介している最近の資料を紹介していく。

# 企業と社会【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらない」?
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語 【資本主義】【市民社会】【ブルジョア社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか 【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程 【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生・英国のケース 【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉 【剰余価値】【利潤】【公表利益】(【公開】【開示】)
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業 【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会そのものの脆弱性 【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場 【恐慌と危機】【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機・市場回帰の新自由主義の台頭 【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食・システム統合危機から社会統合危機へ 【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合・マーケットとその外側(生活世界) 【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻りに聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物(私達の社会的産物)にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。それというのも、私達の社会的産物そのものが、私達自身に刃向かってくるのだから。

## キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【ブラック企業】  
 【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

# 現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

## 授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭利堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における人命の価値（6）【FLO】
- 9回 現代における差別の問題（1）【種差別の問題】
- 10回 現代における差別の問題（2）【種差別の諸相】
- 11回 現代における差別の問題（3）【工業化と経済格差】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【食糧問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【公平主義】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。  
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

# 現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
現代社会と新聞ジャーナリズム			
SOC001F			

## 授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活動している記者やデスクなどの講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 追跡・振り込め詐欺 / 深刻化する高齢者への犯罪 (社会部記者)
- 第3回 九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 第4回 人口減少社会を追う / 超高齢者社会の先にあるもの (社会部記者)
- 第5回 デジタル時代の新聞 / 電子メディアへの挑戦 (q B i x 編集長)
- 第6回 ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第7回 アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (前中国総局長)
- 第8回 地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第9回 新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 第10回 スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第11回 分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 第12回 報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 第13回 働く現場とは / 企画「働く 生きる」を取材して (生活特報部記者)
- 第14回 戦後70年を迎えて / 国の安全保障を考える (社会部記者)
- 第15回 北九州の現場から / 半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (3回)・・・100%  
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可 (D) とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、ネットなど多メディア時代における新聞の役割、価値について、少しでも理解を深めてくれれば幸いです。

## キーワード /Keywords

メディアリテラシー（メディアを読み解く力）



# 都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

## 授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

## 教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 【地域】 適宜文献や資料を紹介する。
- 【都市】 特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : 授業及び講師紹介
- 2回 地域 1 : 地域の概念：世界と日本の事例
- 3回 地域 2 : 地域をどのように学問するか：地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域間という考え方
- 5回 地域 4 : グループ討論：地域とはなにか？何が地域を規定するか？
- 6回 地域 5 : 地域事例紹介 1 ( 国内事例予定 )
- 7回 地域 6 : 地域事例紹介 2 ( 海外事例予定 )
- 8回 地域 7 : 課題レポート発表・討論
- 9回 都市 1 : 都市の概念
- 10回 都市 2 : 都市へ人や産業が集まる理由
- 11回 都市 3 : 都市問題、都市の衰退
- 12回 都市 4 : 今後の日本の都市のあり方を考える際に必要な視点
- 13回 都市 5 : 都市間の連携による政策推進
- 14回 都市 6 : 北九州の都市政策を考える ( 1 ) 【にぎわいづくり】
- 15回 都市 7 : 北九州の都市政策を考える ( 2 ) 【総合的な政策推進】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 【地域】 全体の50% : クイズ... 15% 授業内貢献... 10% レポート... 25%
- 【都市】 全体の50% : レポート... 35% 日常の授業への取り組み... 15%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 都市と地域【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

【地域】前半の「地域」のどこかで数回、クイズ(小テスト)を行う(当日発表)。レポートは各自印刷の上、地域7の授業に持参し授業終了後の提出とする。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。

【都市】特になし。レポート提出方法等については授業中に説明する。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。

【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い/悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ現状のようになっているのか」「今後どのように改善すべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

### キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市政策、にぎわい

# 開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

その都度配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『○○を知るための○章』シリーズ( 明石書店 )、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめると同時に		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回 韓国セウォル号沈没事件に見る韓国のガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回 セウォル号 問題の解決はどのようになされたのか？ 危機管理とガバナンス	担当：ソンミンホ・三宅	
第8回 韓国版水俣病の発現の実態		担当：ソンミンホ・三宅
第9回 健康被害を出さないための取組みはどこまで実施されているか？		担当：ソンミンホ・三宅
第10回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回 アメリカにおけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第12回 エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回 食品ロス削減運動に見るガバナンス	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回 まとめ～ガバナンスに関するグループワーク	【グループワーク】	担当：三宅

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 開発と統治【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

### キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

# テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

## 授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

# テロリズム論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)  
 定義が困難な理由について
  - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
  - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
  - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)  
 テロリズムの定義
  - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
  - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
  - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)  
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体  
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)  
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)  
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)  
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）  
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）  
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)  
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）  
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ  
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)  
 「大量」殺戮テロの始まり  
 化学テロと生物テロ  
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)  
 地下鉄サリン事件の概要  
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)  
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)  
 911の特異性  
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)  
 ビンラディンのプロファイル  
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際紛争と国連【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			国際紛争と国連
			IRL005F

## 授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

## 教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○  
その他の参考文献は、適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る 【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第5回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第6回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第7回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第8回 国連による平和の創出③：司法的解決 【国際司法裁判所（ICJ）】【法の支配】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

# 国際紛争と国連【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。  
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。  
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。  
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。  
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。  
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。  
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

## キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】



# 韓国の社会と文化【昼】

担当者名  
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

## 授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考え、それをグローバルなコミュニティに活かしてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業にて提示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国について概観
- 3 韓国の文学
- 4 韓国の歴史と政治
- 5 ハングルの誕生とその仕組み、韓国人の名字と名前
- 6 現代韓国社会の特徴 (外部講師)
- 7 韓国の公演文化と「韓流」について考える
- 8 遊び文化の過去と現在
- 9 韓国の食文化
- 10 知韓派日本人の見た韓国 (外部講師)
- 11 韓国の韓服
- 12 韓国の大学生とアルバイト
- 13 冠婚葬祭
- 14 異文化体験視点から日韓比較プレゼンテーション
- 15 まとめ

\* 上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズ、進行状況などにより変更となる場合もある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ( ミニペーパーやプレゼンテーション ) 40%  
中間レポート 20%、期末試験 40%

# 韓国の社会と文化【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 毎回のテーマについて「調べ」て「考え」ること。
- ・ 初回の授業には必ず出席する。
  - ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決する。
  - ・ 調べ事や発表等を積極的に行う。
  - ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは0点とする。
  - ・ グループで異文化理解のプレゼンテーションを行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

## 授業の概要 / Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実は一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

## 教科書 / Textbooks

レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) / References ( Available in the library: ○ )

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

# 歴史の読み方I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 明治維新と国民国家
- 3回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 4回 新渡戸稲造の『武士道』
- 5回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 6回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 7回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 8回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 9回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 10回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す
- 11回 「国語」とは何か
- 12回 網野善彦と日本史の多様性
- 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 14回 「桃太郎」と吉備王国
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

## 授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

## 教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 歴史の読み方II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

# そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科  
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			そのとき世界は	HIS002 F

## 授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示いたします。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨン(小林)  
第2・3・4回 日本(小林)【バブル経済】、【昭和の終焉】  
第5・6・7回 東南アジア(伊野)【ビルマの民主化運動】  
第8・9回 ドイツ(岩本)【ベルリンの壁崩壊】【ドイツ統一】  
第10・11回 アメリカ(寺田)【レーガン政権】  
第12・13回 中国(下野)【天安門事件】  
第14・15回 ポーランド(スピルマン)【「連帯」運動】【ソ連崩壊】  
以上、順序不同。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%  
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

# そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
		戦後の日本経済	
		ECN002 F	

## 授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 I 現代社会の理想と現実
  - 1. とある研究者の履歴を事例として
- 第3回 2. 家族モデルを巡る理想と現実
- 第4回 3. 戦後家族モデルのルーツ
- 第5回 II 「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
  - 1. 日本の敗戦と人口問題
- 第6回 2. 「高度経済成長」の目的 - 「所得倍増計画」とその背景 -
- 第7回 3. 「高度経済成長」の要因 - 「人口ボーナス」 -
- 第8回 4. 「裏日本」の誕生 - 「高度経済成長」と人口流動 -
- 第9回 III 「エコノミックアニマル」の誕生
  - 1. 上昇志向の時代
- 第10回 2. 「勤勉」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
- 第11回 3. 「豊かさ」の象徴 - 「大衆消費社会」と家族 -
- 第12回 IV 現代社会と「豊かさ」
  - 1. 「バブル崩壊」
- 第13回 2. 新たな時代の人口問題
- 第14回 3. 「失われた20年」における「豊かさ」
- 第15回 総括

# 戦後の日本経済【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

## キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代 人口問題

# もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史
			HIS003 F

## 授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 デザイン、広告、クレジット【情報化社会】【大量消費システム】
- 第12回 自動車の社会的費用【宇沢弘文】、【社会的費用】
- 第13回 原発事故を考える【原子力産業】、【地域振興】
- 第14回 原子力発電所と社会【NPT】、【反原発運動】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。  
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

## キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

# 人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

## 授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。  
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。  
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。  
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (既戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。  
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。  
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメイヤー・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだイギリス経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。  
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』(1869年)を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言える。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

## 教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義 (山崎)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)

○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)

○中村彰彦『保科正之』(中公新書)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』(ミネルヴァ書房、2008年)

# 人物と時代の歴史【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

( 新村 )

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】( 1 )

第5回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】( 2 )

第6回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】( 1 )

第7回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】( 2 )

( 山崎 )

第8回 イギリスとはどんな国か

第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー

第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎

第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか一雇われ外国人たちを中心に

第12回 経済学の父、アダム・スミス『と国富論』とはどんな本か

第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』

第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート( 70% )と平常の学習状況( 30% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

\* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

## 授業の概要 /Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・宗教・演劇・映画・音楽などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに内容を入れ替えており、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度と異なり、古代世界における道徳思想の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時にそのつど指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの道徳(1)【悲劇の誕生】
- 3回 古代ギリシャの道徳(2)【悲劇の生成】
- 4回 古代ギリシャの道徳(3)【道徳哲学の誕生】
- 5回 古代ギリシャの道徳(4)【道徳哲学の発展】
- 6回 古代ギリシャの道徳(5)【道徳哲学の完成】
- 7回 古代ローマの道徳
- 8回 古代ユダヤ教の道徳(1)【宗教民族史】
- 9回 古代ユダヤ教の道徳(2)【信仰の革新】
- 10回 ローマの中のユダヤ(1)【権力と隷属】
- 11回 ローマの中のユダヤ(2)【新時代の萌芽】
- 12回 古代キリスト教の道徳(1)【イエスからパウロへ】
- 13回 古代キリスト教の道徳(2)【新しい契約】
- 14回 古代キリスト教の道徳(3)【教義の生成】
- 15回 批判的総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。  
本講義の一部で扱うユダヤ思想の社会的背景と現代的展開については、同担当者によるテーマ科目「思想と現代」を受講すればより理解が深まるだろう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

## キーワード /Keywords



# 日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

## 授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』（講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年）
- 小熊英二『「日本人」の境界』（新曜社、1998年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球と近世・近代のアジア
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体と樺太
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%  
ミニツツペーパー... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未滿の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

## 授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、近年では経済成長も著しい。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの日本人に欠けている視点がある。歴史的な考察・分析といえる。  
そこで、中国における古代文明の誕生から隋唐時代までの歴史について、とくに政治史上の展開、支配システムの変遷、東アジア（日本をふくむ）・北アジア・東南アジアなどとの国際関係を中心に講義する。本講義では、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義のガイダンス
  - 第2回：中国の歴史と日本－日中交流史－
  - 第3回：秦の始皇帝と皇帝制度－古代文明の誕生から中国統一まで－
  - 第4回：前漢前期－楚漢戦争と郡国制－
  - 第5回：前漢中期－漢帝国と匈奴－
  - 第6回：前漢後期－儒教と「古典的国制」－
  - 第7回：後漢前期－統一帝国の再建と漢委奴国王印－
  - 第8回：後漢中期－「後漢の平和」－
  - 第9回：後漢後期－漢帝国の滅亡－
  - 第10回：三国時代－『三国志』の実像と邪馬台国の卑弥呼－
  - 第11回：西晋時代－三国統一から新たな動乱へ－
  - 第12回：東晋南朝時代－江南における貴族制－
  - 第13回：五胡北朝時代－華北における諸民族－
  - 第14回：隋唐時代－隋唐世界帝国とその影響－
  - 第15回：唐宋変革－安史の乱と唐の滅亡－
- 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%  
双方の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 西洋史【昼】

担当者名 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

## 授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
  - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
  - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
  - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
  - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
  - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
  - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
  - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
  - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
  - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
  - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
  - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
  - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
  - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
  - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%  
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。  
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

# 人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		人文地理学	GE0110F

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、日常の授業の取り組み ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

## 授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

## 教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

# 土地地理学 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
教職関連科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくにより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学 GE0112F

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論：自然環境、産業、EU統合と分離の動き
- 第3回 欧米地誌(2) フランス地誌
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) イタリア地誌
- 第7回 欧米地誌(6) ベネルクス地誌
- 第8回 欧米地誌(7) アメリカ合衆国地誌
- 第9回 日本地誌(1) 日本の自然・人文環境
- 第10回 日本地誌(2) 近世城下町の変容
- 第11回 日本地誌(3) 塩田地域の変容
- 第12回 日本地誌(4) 軍事都市の変容
- 第13回 日本地誌(5) 炭鉱地域の変容
- 第14回 日本地誌(6) 工業都市の変容
- 第15回 日本地誌(7) 港湾都市の変容

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、日常の授業の取り組み ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

## 授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのたがかりにしていきたい。

## 教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第3版)』(青林書院・2015年)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論①(人権総論)
- 第4回 人権論②(人権享有主体)
- 第5回 人権論③(幸福追求権)
- 第6回 人権論④(平等原則)
- 第7回 人権論⑤(信教の自由)
- 第8回 人権論⑥(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権・権力分立)
- 第10回 統治機構②(日本の政治制度)
- 第11回 統治機構③(日本の選挙制度)
- 第12回 統治機構④(日本の裁判制度)
- 第13回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第14回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第15回 平和主義③(憲法9条と裁判所)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 日本国憲法 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

特に必要なし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

**授業の概要 /Course Description**

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

**教科書 /Textbooks**

教科書はない。適宜資料を配布する。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房  
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

# メンタル・ヘルスI【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
  - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
  - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
  - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
  - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
  - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
  - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
  - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
  - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
  - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
  - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
  - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
  - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
  - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
  - 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

## 授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）について、精神病理や心理学、そして社会福祉学の観点から考えていく科目です。まずは自己分析を通して、自らの可能性を感じ、自己肯定感を高めるための方法について考えていただきます。さらに、実際の事例などを紹介しながら、生きづらさを感じ、メンタルヘルスが壊れるとはどういう事なのかを考えていきます。そして、何よりも「助けて」と言えることの大切さや、「お互い様」の中での支え合いで社会が作られているということを少しでも理解していただきたいです。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
適宜、紹介をします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

大平 健 (1995) 『やさしさの精神病理』岩波書店  
春日 武彦 (2004) 『援助者必携 はじめての精神科』医学書院  
他、適宜紹介をします。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、受講上の注意など。
- 2回 心理テキストに挑戦【自己分析】
- 3回 あるもの探し【ポジティブシンキング、ストレングス・パースペクティブ】
- 4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 10回 事例検討①【非行】
- 11回 事例検討②【虐待】
- 12回 事例検討③【ホームレス】
- 13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 14回 事例検討⑤【障害】
- 15回 助けてと言える力【受援力、援助力】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題の提出状況.....50%  
定期試験.....50%

# メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中島俊介先生の後を受けて、2015(平成27)年度より担当することになりました。私の専門は社会福祉学ですが、できるだけ受講生にとって、癒しの場であったり、笑いの場であったり、あるいはこれから生きていく上で、少しでも楽になるヒントをお伝えすることができれば幸いです。

## キーワード /Keywords

精神保健、心理学、社会福祉学、

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

## 教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義・演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。  
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。  
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、  
【笑顔】と【コミュニケーション】である。



# フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

**授業の概要 /Course Description**  
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

**教科書 /Textbooks**  
 授業時プリント配布

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
  - 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
  - 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
  - 4回 準備運動と整理運動
  - 5回 ストレッチング実習 <実習>
  - 6回 自分にとって必要な体力とは?
  - 7回 運動処方
  - 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
  - 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
  - 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
  - 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
  - 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
  - 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
  - 14回 運動・スポーツの動機付け
  - 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

# フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。  
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。  
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、  
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

# 自己管理論 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

## 授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. コミュニケーション【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
12. 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
15. 小試験（選択，記述）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
- ②外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室を禁止する。私語厳禁。
- ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

## キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 実技  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( サッカー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズI ( サッカー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( テニス ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

**授業の概要 /Course Description**  
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

**教科書 /Textbooks**  
なし

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
  - 2回 ストロークの基礎練習 ( 球出しによるフォアハンド練習 )
  - 3回 ストロークの基礎練習 ( ラリーの中でのフォアハンド練習 )
  - 4回 ストロークの基礎練習 ( 球出しによるバックハンド練習 )
  - 5回 ストロークの基礎練習 ( ラリーの中でのバックハンド練習 )
  - 6回 サービスの基礎練習
  - 7回 ボレーの基礎練習
  - 8回 スマッシュの基礎練習
  - 9回 ルールの説明
  - 10回 戦術の説明・実践
  - 11回 シングルスゲーム ( 1 ) ゲーム法の解説
  - 12回 シングルスゲーム ( 2 ) ゲームの実践
  - 13回 ダブルスゲーム ( 1 ) ゲーム法の解説
  - 14回 ダブルスゲーム ( 2 ) ゲームの実践
  - 15回 スキル獲得の確認

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**履修上の注意 /Remarks**  
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズI ( テニス ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バレーボール ) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズI ( バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 1単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 実技  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

スポーツルール百科

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 受講上の注意 )
- 2回 バレーボール ( 1 ) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール ( 2 ) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン ( 1 ) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン ( 2 ) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 ( 1 ) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 ( 2 ) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール ( 1 ) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール ( 2 ) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス ( 1 ) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス ( 2 ) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 ( 1 ) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 ( 2 ) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 ( 3 ) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 ( 選択種目 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

# フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

**授業の概要 /Course Description**  
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

**教科書 /Textbooks**  
なし

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
  - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
  - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
  - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
  - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
  - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
  - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
  - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
  - 9回 ルール説明
  - 10回 審判法
  - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
  - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
  - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
  - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
  - 15回 スキル獲得の確認

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**履修上の注意 /Remarks**  
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バレーボール ) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

**授業の概要 /Course Description**  
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

**教科書 /Textbooks**  
なし

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
  - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
  - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
  - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
  - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
  - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
  - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
  - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
  - 9回 ルール説明
  - 10回 審判法
  - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
  - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
  - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
  - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
  - 15回 スキル獲得の確認

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**履修上の注意 /Remarks**  
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 サッカーの基本技術 ( リフティング ) の習得と試しのゲーム ( 1 )
- 3回 サッカーの基本技術 ( パス ) の習得と試しのゲーム ( 2 )
- 4回 サッカーの基本技術 ( シュート ) の習得と試しのゲーム ( 3 )
- 5回 サッカーの戦術 ( ディフェンス ) の説明
- 6回 サッカーの戦術 ( ディフェンス ) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 ( オフェンス ) の説明
- 8回 サッカーの戦術 ( オフェンス ) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 ( 1 ) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 ( 2 ) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 ( 3 ) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 1単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 実技  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

## 授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

# キャリア・デザイン 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

## 授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

# キャリア・デザイン【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

# キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

## 授業の概要 /Course Description

### ●授業の概要（ねらい・テーマなど）

本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。労働政策研究・研修機構の調査（2013年）によると、若年者を採用する時に重視する資質として、「働くことへの熱意」（73.6%）、「積極性、チャレンジ精神、行動力」（62.0%）、「チームワーク」（52.5%）、「コミュニケーション能力」（51.7%）の順で高くなっており、特に「働くことへの熱意」「積極性、チャレンジ精神、行動力」「コミュニケーション能力」の割合が大きく増加しています。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動とは、以下の4つです。

1. いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
2. 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
3. 外へ出て視野を広げる
4. 失敗を恐れず挑戦して、振り返る

以上を理解するために、本授業は全てグループワークを通して実践をします。よって講義はほとんどありません。また、たくさんの先輩や社会人のゲストが登場します。目標となるかもしれない先輩や社会人（ロールモデル）との対話を通して、理解を深めてほしいからです。

まとめると、授業で実際に行動してみること、そしてロールモデルとの対話を通して、自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において実践して頂くことが目標です。最終授業では、以上の4つの行動を実践し、将来の見通しを具体的にし、叶えるために、どんな学生生活を過ごせばいいのかをプランしていただきます。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して持参してください。

# キャリア・デザイン 【昼】

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。  
以下書籍はその参考例です。  
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社  
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所  
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社  
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版  
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社  
○エドガー H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房  
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房  
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社  
○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社  
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社  
J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社  
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の4つの行動：【1】いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける、【2】長いスパンで考えて、今しかできないことをする、【3】外へ出て視野を広げる、【4】失敗を恐れず挑戦して、振り返る

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 アイデンティティ(大学生だからできること)【1】【2】【3】【4】
- 3回 地域活動に挑戦する(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 4回 アクティブ・リスニング(傾聴)【1】
- 5回 働くということ(社会人登壇)【2】【3】【4】
- 6回 アイデンティティ(自分の長所を活かす)【1】
- 7回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 8回 アサーション・トレーニング(爽やかな自己表現)【1】
- 9回 将来の見通しを立てる(企業団体研究)【2】
- 10回 ダイアログ(対話)とワールドカフェ【1】
- 11回 リーダーシップ【1】
- 12回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 13回 就職活動を知る(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 14回 計画された偶発性とセレンディピティ【1】【2】【3】【4】
- 15回 まとめ&発表(将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および、小テストもしくは実践レポート、グループ発表の相互評価：75%  
課題レポート(2回)：15%  
最終レポート(相互評価)：10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

### 【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。  
※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。  
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋先生の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。  
※曜日や時限を間違えて履修しても出席にはなりませんので注意してください。

### 【履修者調整について】

※1年生が優先的に受講できます。ただし、教室のキャパシティに余裕がある場合には、2、3、4年生も受講可能です。また、優先的に受講できる1年生であっても受講希望者が多数であれば、受講者数調整の対象になります。  
※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)と合わせて全8コマあります。グループワークの運営上、可能な限り各コマ均等な数に調整するため、第1回の授業で希望するコマを確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

## キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
			キャリア・デザイン
			CAR100F

## 授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

# キャリア・デザイン【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動



# コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		コミュニケーション実践	CAR111F

## 授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。

この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

# コミュニケーション実践【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために  
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性  
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック  
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心  
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする  
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション  
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く  
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)  
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①  
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②  
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート  
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り  
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表  
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ  
【授業のまとめ、総括】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。  
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。  
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

# グローバル・リーダーシップ論【昼】

担当者名 /Instructor 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	グローバル社会の潮流を予測および的確に捉え、多様な文化・価値観をもつ人々と共に、仕事や人生のプロジェクトを成し遂げる力を養う。
	社会的責任・倫理観	●	グローバル（地球）およびローカル（地域）の視点から、文化・価値観の多様性を尊重し、社会と人間性の発展に貢献できる力をつける。
	生涯学習力	●	世界的な人的ネットワークを構築し、常に大局観をもって世界と地域でおこる出来事に関心を抱き、自らこれに積極的に関わっていく姿勢を養う。
	コミュニケーション力		
		グローバル・リーダーシップ論	CAR112F

## 授業の概要 /Course Description

世界そして日本に押し寄せるグローバル化の波が、皆さんの将来の就職先となる企業や各種団体、さらに皆さん個人の人生にどのような影響を与えるかを考察し、学生時代に何をしておくべきかのヒントを与えます。  
また将来、皆さんが、多様な文化価値観をもつ人々が集まるグローバル社会の中で、リーダーシップを発揮し、活躍するための基本的な視点、心構え、能力、知識を習得します。

### < 授業の進め方 >

「講師の話を一方的に聞いて、メモして覚える」のではなく「講師や仲間の話しを傾聴し、主体的かつ積極的に質問と発言をしながら考える」ことに重点を置きます。そのために、次の5つを取り混ぜたインタラクティブな（対話型）授業になります。

- ① 国際舞台で活躍する社会人の講演（国際事業・経営の体験談と皆さんへのメアドバイス等）
- ② 海外インターン（研修）をおこなった先輩の体験談や受入企業担当者の評価
- ③ ケーススタディ、ロールプレイ、ゲーム等
- ④ グループワーク（8名程度のグループで、調査、討議、レポート作成・提出、プレゼンテーション）
- ⑤ 個人ワーク（レポート作成・提出、プレゼンテーション）

## 教科書 /Textbooks

なし（適宜プリントを配布します）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『国際ビジネス入門 1』（江夏健一・太田正孝・藤井健 編）中央経済社 ￥3,045
- 『採用基準』（伊賀泰代著）ダイヤモンド社 ￥1,575
- 『日本人こそ見直したい、世界が恋する日本の美德』（永田公彦著）ディスカバー出版 ￥1,050

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 グローバル展開に積極的な企業・団体の第一線で働く社会人の講演と補足講義で構成

（内訳） 社会人の講演（6回～リーダーシップ、国際ビジネス・経営に関する体験談と皆さんへのアドバイス）、講義（3回～グローバル事業経営の全体像、異文化マネジメントの基本概念、グローバルリーダーシップとの交流（1回～海外インターン体験）、グループワーク（3回～グローバル企業研究）の考察）、先輩

第15回 個人ワークと総括

# グローバル・リーダーシップ論【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業中の参加態度・・・70% ( クラス出席時に記入・提出する習得レポート及び積極的な質問と発言 )
- ② アサインメント・・・30% ( グループワーク、個人ワーク )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業のルール ( 10箇条 ) ~ 「積極的に、聴いて、質問して、発言する」

①~⑤は国際社会では当たり前です。⑥~⑩は社会人として最低限のマナーです。

- ① アクティブリスニング ( 相手の意見にしっかり耳を傾け反応する )
- ② 積極的に質問する ( 質問は恥ではなく糧だ ~ 質問5個ルール )
- ③ 積極的に発言する ( 講義中やグループワーク時に、反論も含め自分の考えを発信する )
- ④ 授業に「出る」のではなく「参加する」
- ⑤ 答えは「人から知らされて覚える」のではなく「自分で考えてつくる」
- ⑥ 私語厳禁
- ⑦ 携帯電話メール厳禁 ( マナーモードでバッグの中 )
- ⑧ 脱帽 ( 事情がある場合は事前にご相談下さい )
- ⑨ 飲食は禁止 ( 事情がある場合は事前にご相談下さい )
- ⑩ 作業時間は守る

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の主役は皆さん、つまり皆さんががつくる皆さんのための授業です。講師は、そのための基本的な枠組みやヒントを与えサポートする脇役です。

## キーワード /Keywords

リーダーシップ、グローバルビジネス、グローバル経営、ダイバーシティ、異文化マネジメント、主体的行動

# プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
			プロフェッショナルの仕事 I
			CAR210F

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス  
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行） / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製薬所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

# プロフェッショナルの仕事I【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...90%      最終レポート...10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。

※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

## キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、アイデンティティ

# プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる課題解決能力を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。

<進め方> 以下のスキームで地元企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、各チームで競います。

1. 地元企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。  
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。  
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる課題解決能力を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページおよび店舗訪問などして予習してください。

# プロフェッショナルの仕事II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～4回 各企業団体による課題提示
- 第5回 課題解決の方法についての講義
- 第6～10回 中間発表
- 第11～15回 最終発表

※2014年度の企業団体と課題：

- 株式会社名門大洋フェリー：LCCの出現に伴い、新幹線の安価販売など、モード間競争が激化する旅客輸送マーケットにおいて、北九州市や福岡市民のフェリー乗船客を増やすにはどうすればいいのか？
- 株式会社朝日新聞 西部本社：北九州市立大学の入学予定者に送付する、同社購読を促進する小冊子の企画制作。
- 株式会社井筒屋：井筒屋が「人生の大切なイベントの時に行く場所・ファッションアドバイザー」である価値を、特に若年層に認知させるにはどうすればいいのか？
- 株式会社タカギ：同社製品「キモチイISHOWER」を賃貸住宅利用者に対して、「付け替えブーム」を起こすにはどうすればいいのか？
- 北九州市役所 産業経済局 食の魅力創造・発信室：本市の食による産業振興・まちづくりをさらに進展させるため、「本市の食の魅力は何か」「本市の食の認知度が低い要因は何か」「それを市内外に発信するためにどのような取り組みを行うべきか」などを、調査・研究し、今後、市が取り組みを進める上での提案・アイデア出しをしていただきたい。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業への取り組み（相互評価）・・・75%
- プレゼンテーションに対する評価（企業団体からの評価）・・・20%
- 最終レポート・・・5%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員（mitate@kitakyu-u.ac.jp）までメールで連絡をしてください。
- ※2年次前期に「プロフェッショナルの仕事1」を受講していることが望ましい。
- ※授業および、授業時間以外でのグループワークの参加が必須となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体験することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに、将来の見通しのヒントを得ることを願っています。

## キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、職業統合的学習、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習



# 地域の達人【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

## 授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。  
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、  
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しません。

# 地域の達人【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス  
第2回～13回 地域の達人によるお話  
第14回 達人を振り返る  
第15回 まとめ

### 【2014年度登壇者】

デザイナー兼地域イベントプロデューサー、地域のヒーローキャラクター、FMラジオナビゲーター、古民家再生などのまちづくりデザイナー、公務員でありながら若者向けファンドを立ち上げた人、ソーシャル系大学学長、教育改革を目指すNPO法人に大卒新卒で入社した人、演劇団体主宰、サラリーマンでありながらミュージシャン、障がい者自立支援NPO法人代表、スポーツ誌ライター・ジャーナリスト、カフェオーナー、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事がどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、  
2015年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主

# サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。  
地域貢献活動へ参加する入門科目として、主に以下の点をねらいとします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた、受講生の地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動への参加通じた学びの実践

## 教科書 /Textbooks

レジメを配布します。  
講義時に適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①
- 第3回目 サービスラーニング概論②
- 第4回目 地域活動概論① 地域活動の紹介
- 第5回目 地域活動概論② コミュニティワークの紹介と応用
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①(予定)
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②(予定)
- 第8回目 ボランティア活動の紹介
- 第9回目 ボランティア参加に向けて①
- 第10回目 ボランティア参加に向けて②
- 第11回目 事前報告①
- 第12回目 事前報告②
- 第13回目 事前研修①
- 第14回目 事前研修②
- 第15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

事前レポート(30点) + 講義中の課題(70点) = 合計100点評価

# サービスラーニング入門I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本科目は、サービスラーニングへの実際の参加を前提をしています。  
従って、自ら参加したいボランティア活動を探し、実際に参加してもらうことになります。  
当然、単位もボランティアに参加する学生に対して与えられますので、この点、十分にご留意ください。  
詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。  
また、この講義は、基本的に第2学期開講の「サービスラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

## キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

# サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

## 授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この講義の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加しているボランティア活動の内容とそこでの学びを報告し、学生同士の議論を通じて、相互の学習を進めていきます。この講義を通じて多くの学びと気づきを得ることを期待します。

## 教科書 /Textbooks

レジメを配布します。  
講義時に適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 活動記録の方法
- 3 報告・ふりかえり・ディスカッション①【グループワーク①】
- 4 報告・ふりかえり・ディスカッション②【グループワーク②】
- 5 報告・ふりかえり・ディスカッション③【グループワーク③】
- 6 報告・ふりかえり・ディスカッション④【プロセスレコード作成】
- 7 報告・ふりかえり・ディスカッション⑤【プロセスレコードの発表】
- 8 報告・ふりかえり・ディスカッション⑥【活動の困りごと、課題の共有化】
- 9 報告・ふりかえり・ディスカッション⑦【課題の解決方法を考える】
- 10 報告・ふりかえり・ディスカッション⑧【体験のカタルシス】
- 11 報告・ふりかえり・ディスカッション⑨【活動報告作成】
- 12 報告・ふりかえり・ディスカッション⑩【活動報告のピアレビュー】
- 13 受講生によるシンポジウム①
- 14 受講生によるシンポジウム②
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加貢献 ( 50点 ) + 活動報告書 ( 50点 ) = 100点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本科目は、実際にボランティア活動に参加している、もしくは参加することを前提としています。  
授業では、実際のボランティア活動に関する自らの経験を報告してもらうことになりますので、受講に当たっては、ボランティアに参加することを念頭に置いてください。

# サービスラーニング入門II【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は「サービスラーニング入門I」と連動していますので、先に受講することをお勧めします。

## キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

# プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

# プロジェクト演習I【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動



# プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習II	CAR281F

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習IIの対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

# プロジェクト演習II【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

# プロジェクト演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロジェクト演習Ⅲ CAR380F	

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習Ⅰの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

# プロジェクト演習III 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

# プロジェクト演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
			プロジェクト演習Ⅳ
			CAR381F

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習IIの対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

# プロジェクト演習Ⅳ【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

# 教養特講I (北九州市の観光振興) 【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市観光協会、基盤教育センター 眞銅和博

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

## 授業の概要 /Course Description

地域経済の活性化策としてどの地域も力を入れている観光振興。  
本授業では、民間事業者や行政の様々な取組みや観光産業の現状、その他今後の方向性等を学習することによって、地域社会への貢献および観光振興に資する人材の育成を目指すことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

北九州市観光情報ファイル『彩遊季』

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（オリエンテーション）【北九州市立大学】
- 第2回：北九州市の観光産業【北九州市観光協会】
- 第3回：旅行会社からみた観光の現状【JTB九州】
- 第4回：観光客と地元を繋ぐ【法政大学】
- 第5回：門司・小倉の観光地と歴史について【北九州市自然史・歴史博物館】
- 第6回：八幡・若松・戸畑の観光地と歴史について【北九州市立大学】
- 第7回：北九州市の観光動態と施策【北九州市観光・コンベンション課】
- 第8回：産業観光と夜型観光【北九州市観光・コンベンション課】
- 第9回：近代化遺産について【北九州市門司麦酒煉瓦館】
- 第10回：北九州市の主要観光地の視察【観光案内ボランティア】
- 第11回：北九州市の主要観光地の視察【観光案内ボランティア】
- 第12回：北九州市の文学について【北九州市立文学館】
- 第13回：北九州市フィルムコミッションの取組みについて【広報室報道課】
- 第14回：北九州市観光案内ボランティア制度、活動について【観光案内ボランティア、北九州市観光協会】
- 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：40%
- ・ 理解度確認テスト：30%
- ・ レポート：30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養特講I ( 北九州市の観光振興 ) 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は北九州市観光協会提供の講義です。近代化遺産や産業観光などの観光振興の推進に力を入れている北九州市の現状について学んでいただきます。将来旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域活性化などに興味がある人には最適です。

## キーワード /Keywords

観光振興、人材育成、地域活動、横断的学習



# 教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

## 授業の概要 /Course Description

### 【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった＜関係性＞を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

### 【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

### 【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

## 教科書 /Textbooks

教科書はなし。  
講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)  
「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)  
「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

# 教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】【授業の進め方】【学習目標】【評価方法】
- 2回 ホスピタリティの歴史と文化 【ホスピタリティとは何か】【西洋のホスピタリティ文化】
- 3回 ホスピタリティとおもてなし 【東洋のホスピタリティ文化】【茶道】【仁】【おもてなし】
- 4回 ホスピタリティとサービスの語源と概念比較【ホスピタリティ】【サービス】
- 5回 ホスピタリティ産業の現状(その1) 【近年の航空事業の動向】【接客現場】【国際線業務】
- 6回 ホスピタリティと心理1 【EQ】
- 7回 ホスピタリティと心理2 【交流分析】
- 8回 ホスピタリティとコミュニケーション1 【ラポール】【言語非言語】【空間管理】【スマイル】
- 9回 ホスピタリティとコミュニケーション2 【聴き方の基本】【効果的な話し方】【敬意表現】
- 10回 中間のまとめ
- 11回 ホスピタリティとビジネス1 【プロ意識】【身だしなみ】【人間関係】【電話やメール】
- 12回 ホスピタリティとビジネス2 【顧客心理】【クレーム対応】【CS】
- 13回 ホスピタリティ産業の現状(その2) 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 14回 ホスピタリティと企業1【職場環境】【内部顧客】【メンタルヘルス】【企業の社会的責任】
- 15回 ホスピタリティと企業2【企業の社会貢献】【ホスピタリティの意義と可能性】 【暗黙知と形式知】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み 【①授業中に行う練習問題の取り組み ②中間のまとめ問題の提出】 50%

期末試験の成績 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

第1回目には、ｼﾞﾊﾞｽを持参のこと。

ホスピタリティを理解し、実践していくことを目的にしています。遅刻・途中退室・私語は慎んで下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

## キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知 コミュニケーション能力

# 教養特講II ( セクシュアル・ ライツ ) 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		教養特講II	
		SPL002 F	

## 授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。  
 本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。  
 具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。  
 本学教員と外部講師とによるオムニバス形式での授業を行う。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に配布するプリントに記載

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 ジェンダーチェック 【ジェンダー・バイアス】
- 3回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 4回 トランスジェンダー 【性同一性障害】 【性別違和】
- 5回 性的自立とリアリティ・ヘルス / ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 6回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 7回 セクシュアル・ハラスメント 【パワー・ハラスメント】 【アカデミック・ハラスメント】 【ホスピタル・ハラスメント】 【実習ハラスメント】
- 8回 デートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力とトラウマ 【PTSD】 【少年の性被害】 【強姦神話】
- 10回 トラウマの影響(「漂流少女」の事例を通して) 【二次被害】 【性依存】 【危機介入】
- 11回 性暴力裁判に見る二重基準(売春婦と主婦のケースから) 【フェミニスト・カウンセリング】
- 12回 メディアと性表現、性の商品化 【風俗営業法】 【児童買春・児童ポルノ禁止法】
- 13回 日本における公娼制度と売春の歴史 【からゆきさん】 【売春防止法】 【婦人保護施設】
- 14回 世界の売買春をめぐる動向 【セックスワーク】 【売春の合法化】 【性的自己決定】
- 15回 これまでの振り返り

## 教養特講II ( セクシュアル・ ライツ ) 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

特になし

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養特講Ⅲ ( まなびと講座 A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		教養特講Ⅲ	
		SPL003 F	

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とします。  
また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いです。  
この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当します。また、各大学からの受講生と一緒に学びます。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1日 5月17日(日)

～多様な価値観を感じる～【自分】

第2日 5月31日(日)

～地球は小さく偉い～【グローバル】

第3日 6月7日(日)

～みんなが住みやすい社会～【ローカル】

第4日 6月21日(日)

～「食べる」から自分を考える～【自分】

第5日 7月5日(日)

～微力だけど無力ではない私たちが考える「素敵な未来に向けての第一歩」～【アクション】

※各日程ともに10:30～16:00(休憩含む)で開講されます

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養特講III ( まなびと講座 A ) 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30~16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

### キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

# 教養特講Ⅳ ( まなびと講座B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。  
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。  
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
  - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
  - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
  - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
  - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
  - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

### 【2014年度実績】

- 1日目（第1回～第3回）
  - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等 - 九州工業大学提供
- 2日目（第4回～第6回）
  - ・ 国際理解 - 北九州市立大学提供
- 3日目（第7回～第9回）
  - ・ 誰もが住みやすい社会のデザイン - 西日本工業大学提供
- 4日目（第10回～第12回）
  - ・ 生物多様性から生命を学ぶ - 九州共立大学提供
- 5日目（第13回～第15回）
  - ・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来 - 北九州市立大学提供

# 教養特講Ⅳ ( まなびと講座 B ) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

## キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習



# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1-1.国1-2.再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

# データ処理【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - 3 . 国 1 - 4 . 再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

# データ処理【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

# データ処理【昼】

担当者名  
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

# データ処理【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

# 情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

## 情報表現【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。  
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

### キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン



# 情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

## 情報表現【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。  
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

### キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

# 情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

## 情報表現【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。  
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

### キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

# 情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報メディア演習
			INF330F

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間に与える影響について考える力を身に付けることである。現代の情報社会では、様々な情報メディアが存在する。それらの情報メディアを通じて、情報が正確に伝わり、有効に活用される場合はよいが、逆に、誤って伝わったり、有害になったりする場合もある。様々な情報メディアの特性を十分に理解した上で、それらを受け入れ、不要・過剰な情報を制限し、有効活用し、効果的な情報を新しくつくるのが大切である。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 様々な情報メディアの特性に関する知識
- 情報メディアが人間の心理や認知、学習に与える影響（情報受信）
- 効果的な情報発信の方法（情報発信）
- 情報メディアの有効活用の方法（情報活用）
- 様々な情報メディアの課題点と解決策

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

## 教科書 /Textbooks

坂元昂 監修、高橋秀明、山本博樹 編著：メディア心理学入門、学文社、2002年、2,592円。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

# 情報メディア演習【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か 【ガイドンス】【情報メディア】
- 2回目：情報メディアと人間の心理 【情報発信】【情報受信】
- 3回目：情報メディアとしての絵本・紙芝居 【知的発達】【情緒的発達】
- 4回目：情報メディアとしてのマンガ 【文字と絵】【記号】【コマ割り】
- 5回目：議論1：絵本・紙芝居・マンガが人間の心理に与える影響
- 6回目：映像の理解と心理 【映像技法】
- 7回目：分かりやすい映像のデザイン 【つくるリテラシー】【映像表現】【撮影・編集技術】
- 8回目：インターネットと映像 【動画投稿サイト】
- 8回目：議論2：映像が人間の心理に与える影響
- 9回目：電話・テレビ電話とコミュニケーション 【情報伝達】【認知過程】
- 10回目：インターネットとコミュニケーション 【ミニブログ】【SNS】
- 11回目：議論3：情報メディアの違いがコミュニケーションに与える影響
- 12回目：情報メディアと感性 【感性工学】
- 13回目：使いやすいデザインと面白いデザイン 【エモーショナル・デザイン】
- 14回目：問題提起4：デザインが人間の心理に与える影響
- 15回目：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・50%、日常の授業に対する積極的な取り組み・・・40%、授業中に実施するグループワーク課題・・・10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。  
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて、積極的に学習してもらいたい。分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。  
また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

## キーワード /Keywords

情報メディアと人間、コミュニケーション、認知、感性

# 英語I ( 国 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

## 授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト(3回)... 30% 日常の授業への取り組み... 15%  
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)  
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語I ( 国 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

## 授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

## 教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。  
その他、適宜プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。  
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語I ( 国 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

## 教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test  
(朝日出版社)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト... 30% 期末試験... 40%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語II ( 国 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

## 授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

## 教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。  
その他、適宜プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。  
初回授業に必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語II ( 国 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

## 授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト(3回)... 30% 日常の授業への取り組み... 15%  
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)  
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語II ( 国 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

## 教科書 /Textbooks

未定

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語III ( 国 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

## 授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

## 教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Laos, the Amazon of Asia
- 3 回China's Dirty Secrets
- 4 回China, Beyond the Lost Horizon
- 5 回UK, The Cost of Going Green
- 6 回Philippines, Living with Slums
- 7 回Indonesia, Rainforest Warriors
- 8 回Indonesia, Paper Tiger
- 9 回Thailand, Red and Yellow
- 1 0 回UK, The Generation Game
- 1 1 回UK, Snatched Kids
- 1 2 回UK, The Great British Wedding
- 1 3 回UK, Tax the Fat
- 1 4 回USA, City of the Century
- 1 5 回Student Presentations

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Reading and listening to news.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

## キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

# 英語III ( 国 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

## 授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Fun Flavor Book 1  
Optimal Levels! Project Book

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Travel-Introductions
- 第 3 回 Travel-Building Skills
- 第 4 回 Travel-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Shopping-Introduction
- 第 7 回 Shopping-Building Skills
- 第 8 回 Shopping-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Movies-Introduction
- 第11回 Movies-Building Skills
- 第12回 Movies-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

## キーワード /Keywords

# 英語III (国1-C) 【昼】

担当者名 /Instructor: マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 国1-C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

## 授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

## 教科書 /Textbooks

First Class Service 2: :Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Orientation
- Week 2: Answering the phone
- Week 3: Where are you from?
- W4: Saying sorry
- W5: Suggesting alternatives
- W6: Choosing options
- W7: Directions
- W8: Recommendations
- W9: Ordering in restaurants
- W10: Transportation
- W11: Reading manuals
- W12: Repeating information
- W13: Apologizing
- W14: Explaining rules
- W15: Thanking customers/final review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Attendance - 20%
- Homework - 20%
- Presentation - 2 X 15%
- Final exam - 20%
- Participation - 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語III ( 国 1-C ) 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

## キーワード /Keywords

Tourism



# 英語Ⅳ ( 国 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

## 授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

## 教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Egypt, Sisters of the Revolution
- 2 回Nigeria, the Legacy of Empire
- 3 回Africa, End of the Elephant
- 4 回Africa, The Curse of Gold
- 5 回Zimbabwe, Blood Diamonds
- 6 回Libya, The Gaddafi Years
- 7 回Kenya, School of Olympic Dreams
- 8 回UK, Getting the Balance Right
- 9 回Asia, The Spratly Islands
- 1 0 回UK, The Parent Trap
- 1 1 回Japan, Sayonara Baby
- 1 2 回New Zealand, Adrenalin Nation
- 1 3 回Australia's Hidden Valley
- 1 4 回European Union, Joining the Club
- 1 5 回Student Presentations

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 英語IV ( 国 1 - A ) 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

Reading and listening to news.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

### キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

# 英語Ⅳ ( 国 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

## 教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

goldfish365.com

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Introduction to the course.
- Week 2. Topic 1. Pair conversation.
- Week 3. Asking open and closed questions.
- Week 4. Topic 2. Group discussion.
- Week 5. Communication Strategy. Repeating.
- Week 6. Topic 3. Pair conversation.
- Week 7. Giving long answers.
- Week 8. Topic 4. Group discussion.
- Week 9. Confirmation. Understanding the speaker.
- Week 10. Topic 5. Pair conversation.
- Week 11. Agreeing and disagreeing.
- Week 12. Topic 6. Discussion.
- Week 13. Interrupting. Getting a word in.
- Week 14. Topic 7. Pair conversation.
- Week 15. Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.  
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語IV ( 国 1-B ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

キーワード /Keywords

# 英語Ⅳ ( 国 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to help you strengthen your speaking, and self-presentation skills through active participation in communicative activities. Working in pairs and small groups, you will be given the chance to develop your English ability to both research and discuss current world-events and lifestyle-related topics. Development of academic presentation and writing skills will also be stressed throughout the course.

## 教科書 /Textbooks

English in Common (Book 4): Longman

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Please bring an electronic dictionary (or smartphone).

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Course orientation
- 第 2 回: Timed speaking and Q&A - Self introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Relationships)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (In the Media)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Home sweet home)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Wealth)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Spare time)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Travel tales)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Lifelong learning)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Making changes)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (On the job)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Memories of you)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be through class projects and homework assignments.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

This course is non-elective and attendance is important.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please tell me what you think by speaking in English.

キーワード /Keywords

Communicate, have fun, make friends.

# 英語V ( 国 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

## 教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test  
( 朝日出版社 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語V ( 国 2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 国 2 - B / 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

## 授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	リスニング	プレテスト
2回	リスニング	ユニット1、リーディング ユニット1
3回	リスニング	ユニット2、リーディング ユニット1
4回	リスニング	ユニット3、リーディング ユニット1
5回	リスニング	ユニット4、リーディング ユニット1
6回	リスニング	ユニット5、リーディング ユニット1
7回	リスニング	ユニット6、リーディング ユニット1
8回	リスニング	ユニット7、リーディング ユニット1
9回	リスニング	ユニット8、リーディング ユニット1
10回	リスニング	ユニット9、リーディング ユニット1
11回	リスニング	ユニット10、リーディング ユニット1
12回	リスニング	ユニット11、リーディング ユニット1
13回	リスニング	ユニット12、リーディング ユニット1
14回	リスニング	ポストテスト
15回	まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語V ( 国 2 - B ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

## 履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語V ( 国 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

## 授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

## 教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語VI ( 国 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 国 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

## 教科書 /Textbooks

未定

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語VI ( 国 2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

## 授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

## 教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 (Second Edition)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%  
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語VI ( 国 2 - B ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語VI ( 国 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 国 2 - C / 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

## 授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット1
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット1
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット1
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット1
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット1
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット1
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット1
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット1
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット1
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット1
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語VI ( 国 2 - C ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

## 履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VII ( 国 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年次  
単位 /Credits 1単位 1単位  
学期 /Semester 1学期 1学期  
授業形態 /Class Format 講義 講義  
クラス /Class 国 2 - A 国 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

## 授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

## 教科書 /Textbooks

First Class Service 2: :Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Orientation
- Week 2: Answering the phone
- Week 3: Where are you from?
- W4: Saying sorry
- W5: Suggesting alternatives
- W6: Choosing options
- W7: Directions
- W8: Recommendations
- W9: Ordering in restaurants
- W10: Transportation
- W11: Reading manuals
- W12: Repeating information
- W13: Apologizing
- W14: Explaining rules
- W15: Thanking customers/final review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Attendance - 20%
- Homework - 20%
- Presentation - 2 X 15%
- Final exam - 20%
- Participation - 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 英語VII ( 国 2 - A ) 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

None

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

### キーワード /Keywords

Tourism

# 英語VII ( 国 2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

## 授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

## 教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Laos, the Amazon of Asia
- 3 回China's Dirty Secrets
- 4 回China, Beyond the Lost Horizon
- 5 回UK, The Cost of Going Green
- 6 回Philippines, Living with Slums
- 7 回Indonesia, Rainforest Warriors
- 8 回Indonesia, Paper Tiger
- 9 回Thailand, Red and Yellow
- 1 0 回UK, The Generation Game
- 1 1 回UK, Snatched Kids
- 1 2 回UK, The Great British Wedding
- 1 3 回UK, Tax the Fat
- 1 4 回USA, City of the Century
- 1 5 回Student Presentations

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

# 英語VII ( 国 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

## 授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1  
Optimal Levels! Project Book

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

## キーワード /Keywords



# 英語VIII ( 国 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 国 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to help you strengthen your speaking, and self-presentation skills through active participation in communicative activities. Working in pairs and small groups, you will be given the chance to develop your English ability to both research and discuss current world-events and lifestyle-related topics. Development of academic presentation and writing skills will also be stressed throughout the course.

## 教科書 /Textbooks

English in Common (Book 4): Longman

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Please bring an electronic dictionary (or smartphone).

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Course orientation
- 第 2 回: Timed speaking and Q&A - Self introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Relationships)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (In the Media)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Home sweet home)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Wealth)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Spare time)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Travel tales)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Lifelong learning)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Making changes)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (On the job)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Memories of you)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be through class projects and homework assignments.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

This course is non-elective and attendance is important.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please tell me what you think by speaking in English.

キーワード /Keywords

Communicate, have fun, make friends.



履修上の注意 /Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

# 英語VIII ( 国 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. Particular emphasis will be placed on world affairs. There will be plenty of pair and group work.

## 教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

goldfish365.com

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Introduction to the course.
- Week 2. Topic 1. Pair conversation.
- Week 3. Asking open and closed questions.
- Week 4. Topic 2. Group discussion.
- Week 5. Communication Strategy. Repeating.
- Week 6. Topic 3. Pair conversation.
- Week 7. Giving long answers.
- Week 8. Topic 4. Group discussion.
- Week 9. Confirmation. Understanding the speaker.
- Week 10. Topic 5. Pair conversation.
- Week 11. Agreeing and disagreeing.
- Week 12. Topic 6. Discussion.
- Week 13. Interrupting. Getting a word in.
- Week 14. Topic 7. Pair conversation.
- Week 15. Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.  
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

キーワード /Keywords

# 英語Ⅸ ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

## 授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文テキストなどを用いて、英語力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。

## 教科書 /Textbooks

配布プリント

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループ討論①
- 6回 グループ討論②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループ討論③
- 10回 グループ討論④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループ討論⑤
- 14回 グループ討論⑥
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験あるいは期末課題...30%、平常の学習状況 (小テストを含む)...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

初回授業に必ず出席すること。

# 英語IX ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語X ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語X	ENG311F

## 授業の概要 /Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけでなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが、求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう予定である。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに掲載する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 4
- 7回 Chapter 5
- 8回 Chapter 5
- 9回 Chapter 6
- 10回 Chapter 6
- 11回 Chapter 7
- 12回 Chapter 7
- 13回 Chapter 8
- 14回 Chapter 8
- 15回 プレゼンテーション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート...50% プレゼンテーション...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語X ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語XI ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

## 授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1  
 Optimal Levels! Project Book

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Humanity-Introduction
- 第 11 回 Humanity-Building Skills
- 第 12 回 Humanity-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

## キーワード /Keywords

# 英語XII ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
 単位 /Credits 1単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 英中国 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語ⅩⅡ	ENG312F

## 授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

## 教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2  
 Optimal Levels! Project Book 2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

## キーワード /Keywords

# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
  - (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
  - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解



# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小園 晃司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国1 - C  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II 【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国1 - A  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 小園 晃司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解



# 中国語II 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国1 - C  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅲ【昼】

担当者名 馮 戦兵 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国1 - A  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション



# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 戦兵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅴ【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国2-A  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解



# 中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小園 晃司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VI 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国2 - A  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解



# 中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小園 晃司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅶ【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国2 - B  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解



# 中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VIII 【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国2 - B  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅷ	CHN212 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

## 授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。  
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。  
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。  
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。  
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

## 教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月  
「体験漢語 - 公務編」

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて参考資料を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期  
第1回 第1課 単語練習、聴解練習  
第2回 第1課 会話、作文練習  
第3回 第1課 場面の体験  
第4回 第2課 単語練習、聴解練習  
第5回 第2課 会話、作文練習  
第6回 第2課 場面の体験  
第7回 第3課 単語練習、聴解練習  
第8回 第3課 会話、作文練習  
第9回 第3課 場面の体験  
第10回 第4課 単語練習、聴解練習  
第11回 第4課 会話、作文練習  
第12回 第4課 場面の体験  
第13回 第5課 単語練習、聴解練習  
第14回 第5課 会話、作文練習  
第15回 第5課 場面の体験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。  
できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

## キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章



# 上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語II	CHN311F

## 授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。  
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。  
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。  
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。  
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

## 教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月  
「体験漢語 - 公務編」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて参考資料を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 第6課 単語、聴解練習
  - 第2回 第6課 会話、作文練習
  - 第3回 第6課 場面の体験
  - 第4回 第7課 単語、聴解練習
  - 第5回 第7課 会話、作文練習
  - 第6回 第7課 場面の体験
  - 第7回 第8課 単語、聴解練習
  - 第8回 第8課 会話、作文練習
  - 第9回 第8課 場面の体験
  - 第10回 第9課 単語、聴解練習
  - 第11回 第9課 会話、作文練習
  - 第12回 第9課 場面の体験
  - 第13回 第10課 単語、聴解練習
  - 第14回 第10課 会話、作文練習
  - 第15回 第10課 場面の体験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。  
できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

## キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

# 上級中国語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英国済営比人 3年 /British Business and Economics 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。それと同時に、日本で同じ場面で中国（台湾・香港などを含む）の観光客を接客する際における活用方法も勉強する。また、中国語検定試験・中国語HSK試験などの能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』[改定版]王占華・劉慶 駿河台出版社、補充プリント

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『中国語学概論』(改訂版)王占華 他 駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 ホテルの予約【起点・終点】
- 15回 総合復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「外国語は用いる時になってはじめてその重要さを感じるものだ。」実力としての中国語運用能力を身につけておこう。  
「外国語は単なる知識ではなく、能力である。」車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

## キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

# 上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。それと同時に、日本で同じ場面で中国（台湾・香港などを含む）の観光客を接客する際における活用方法も勉強する。また、中国語検定試験・中国語HSK試験などの能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [ 改定版 ] 王占華・劉慶 駿河台出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 『中国語学概論』 ( 改訂版 ) 王占華 他 駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 15回 総合復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。( 就職活動・教育実習による欠席分について相談可。 )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「外国語は用いる時になってはじめてその重要さを感じるものだ。」実力としての中国語運用能力を身につけておこう。  
「外国語は単なる知識ではなく、能力である。」車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

## キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

# 朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

## 授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

## 教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

## キーワード /Keywords



# 朝鮮語Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2010年3月）、2,200円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

## キーワード /Keywords



## 履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

## キーワード /Keywords



## 履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

## 授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

李志暎 他 『新装版 できる韓国語初級II』、DEKIRU出版(2014年2月)、2,000円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 1年次の復習
- 3回 食べ方がけっこう違いますね。【動詞の現在連体形】【先行動作】
- 4回 食べ方がけっこう違いますね。【動詞の現在連体形】【先行動作】
- 5回 韓国へ行ったことがありますか。【動詞の過去連体形】【経験の有無】
- 6回 韓国へ行ったことがありますか。【動詞の過去連体形】【経験の有無】
- 7回 卒業したら何をするつもりですか？【動詞の未来連体形】【予定・意志形】
- 8回 卒業したら何をするつもりですか？【動詞の未来連体形】【予定・意志形】
- 9回 背の高い男は誰ですか。【形容詞の現在連体形】【名詞文の現在連体形】
- 10回 背の高い男は誰ですか。【形容詞の現在連体形】【名詞文の現在連体形】
- 11回 お忙しいところすみません。【説明・紹介形】
- 12回 お忙しいところすみません。【説明・紹介形】
- 13回 熱いから気をつけてください。【H不規則活用】【理由形】
- 14回 熱いから気をつけてください。【H不規則活用】【理由形】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語・無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。  
予習の課題が多いのでノートを作ること。テキストに出る文型や語句を覚えること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

## キーワード /Keywords



# 朝鮮語Ⅵ【昼】

担当者名 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅵ	KRN211F

## 授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

李志暎 他 『新装版 できる韓国語初級Ⅱ』、DEKIRU出版（2014年2月）、2,000円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞書 『朝鮮語辞典』 小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 外国語は毎日聴かなければなりません。【ㄷ不規則活用】【当為・義務形】
- 4回 外国語は毎日聴かなければなりません。【ㄷ不規則活用】【当為・義務形】
- 5回 風邪はすっかり治りましたか？【ㄴ不規則活用】【原因・理由形】
- 6回 風邪はすっかり治りましたか？【ㄴ不規則活用】【原因・理由形】
- 7回 A型とO型はどう違いますか？【ㄹ不規則活用】【確かめの表現】
- 8回 A型とO型はどう違いますか？【ㄹ不規則活用】【確かめの表現】
- 9回 赤い色はありませんか？【ㅇ不規則活用】【試問形】
- 10回 赤い色はありませんか？【ㅇ不規則活用】【試問形】
- 11回 私もメール送ります。【ㄹ不規則活用】【意志・約束形】
- 12回 私もメール送ります。【ㄹ不規則活用】【意志・約束形】
- 13回 人々が並んでいます。【完了状態の継続】【禁止形】
- 14回 人々が並んでいます。【完了状態の継続】【禁止形】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）、定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。  
予習の課題が多いのでノートを作ること。  
テキストに出る文型や語句を覚えること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

## 授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

## 教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。  
予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。  
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

## 授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

## 教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 朝鮮語VIII 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。

予習・復習をすること。

特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

### キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

## 授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

## 教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。  
予習の課題が多いのでノートを作ること。  
テキストに出る文型や語句を覚えること。  
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

## キーワード /Keywords



# 上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	
		KRN311 F	

## 授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

## 教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。  
予習の課題が多いのでノートを作ること。  
テキストに出る文型や語句を覚えること。  
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

## 授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか ( 小学館 )  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業概要、オリエンテーション ( 韓国語で自己紹介を含む )
2. 必要な文法事項確認及び練習：良い人間関係を維持する方法
3. 会話練習：良い人間関係について
4. 聞き取り：良い人間関係
5. 討論する：良い人間関係について
6. 必要な文法事項確認及び練習：公演情報を伝達する
7. 聞き取り：公演情報の
8. 会話練習：公演情報を伝達する
9. 必要な文法事項確認及び練習：余暇活動のおすすめ
10. 聞き取り：余暇活動の長所
11. 会話練習：余暇活動を勧める
12. 必要な文法事項確認及び練習：友達にアドバイスする
13. 聞き取り：感情表現
14. 会話練習：友達にアドバイスする
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト・プレゼンテーション 50% 定期試験 50%

毎回の小テストと暗記、筆記の課題と授業の参加態度も総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

## 授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業のオリエンテーション
2. 必要な文法事項確認及び練習：紛失物を探す
3. 聞き取り：地下鉄の紛失物センター
4. 会話練習：紛失した場所を推測する
5. 必要な文法事項確認及び練習：友達を説得する
6. 聞き取り：成功した人物の談話プログラム
7. 会話練習：友達を説得する
8. 討論する：異文化コミュニケーション
9. 必要な文法事項確認及び練習：異性問題の相談
10. 聞き取り：夫との出会い
11. 会話練習：異性問題についてアドバイスする
12. 必要な文法事項確認及び練習：失敗に関する言い訳
13. 聞き取り：言い訳
14. 会話練習：失敗に関する言い訳
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト・会話テスト 50% 定期試験 50%

毎回の小テストと暗記、筆記の課題と授業の参加態度も総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

## 授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

# ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

## 授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

## ロシア語II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 2学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

## 授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

## 授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。  
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНОЗ> 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 50% 授業への参加度 ... 50 %  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

# ロシア語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211 F

## 授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。  
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%  
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year  
単位 /Credits 1単位 / 1 Credit  
学期 /Semester 1学期 / 1 Semester  
授業形態 /Class Format 講義 / Lecture  
クラス /Class 中国2年 / 2 Year of School Entrance

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

## 授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 2回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 3回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 4回 第5課④ 【どうぞ、午後私に電話してください】
- 5回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 6回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 7回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 8回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 9回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 10回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 11回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 12回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 13回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 14回 ビデオ学習② 会話練習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212F

## 授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 2回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 3回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 4回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 5回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 6回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 7回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】
- 8回 第9課② 【買い物】、【値段】 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 10回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 11回 第10課①【モスクワの町】
- 12回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、  
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 13回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 14回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題 ... 30% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

## 教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぼうつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

# ドイツ語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

## 教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

# ドイツ語II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

# ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

# ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

『スツエーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 ( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ( 50% ) 学期末試験 ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

# ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 ( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ( 50% ) 学期末試験 ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

# ドイツ語VI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ( 50% ) 学期末試験 ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

## ドイツ語VII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス 中国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

# ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って進み、1学期は第11課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 アルファベを発音する、発音と綴り字
- 2回 挨拶をする
- 3回 名前、国籍、職業を言う
- 4回 主語人称代名詞、動詞 *etre* の直説法現在
- 5回 年齢を言う、家族を語る
- 6回 名詞の性と数、不定冠詞、動詞 *avoir* の直説法現在、否定文
- 7回 好きなものを言う、定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
- 8回 持ち物を言う、指示形容詞、所有形容詞、人称代名詞の強勢形
- 9回 友達について話す、形容詞
- 10回 尋ねる、疑問代名詞、疑問副詞
- 11回 近い未来、近い過去のことを語る、前置詞と定冠詞の縮約、中性代名詞 *y*
- 12回 時間、天候を言う、疑問形容詞、非人称構文
- 13回 数量を表わす、部分冠詞、数量の表現、中性代名詞 *en*
- 14回 紹介する、補語人称代名詞
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フランス語I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

## キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語



# フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って2学期は第12課から第21課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 一日を語る
- 2回 代名動詞
- 3回 頼む、命令する
- 4回 命令法、命令、義務を表わす表現
- 5回 未来のことを語る、直説法単純未来
- 6回 過去のことを語るI、直説法複合過去
- 7回 過去のことを語るII、直説法半過去と大過去
- 8回 人や物について語る、関係代名詞、指示代名詞
- 9回 比較する、比較級と最上級
- 10回 受け身の形を使う、現在分詞、ジェロンディフ
- 11回 仮定する、条件法現在
- 12回 条件法過去
- 13回 感情を表現する
- 14回 接続法現在と過去
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%

期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。  
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。  
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

## キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

# フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

## 授業の概要 /Course Description

初歩的な文法を学習して、日常の学生生活における自己伝達能力、特に読み、書く力を身に着けることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

「moi,je... モワ、ジュ・・・文法編」 ジャンリュック・アズラほか著 アルマ出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 0課 フランス語の文字と発音
- 2回目 1課 主語人称代名詞、男性形と女性形、動詞 <etre >
- 3回目 1課 否定形
- 4回目 2課 第一群規則動詞の活用
- 5回目 2課 疑問文と疑問副詞
- 6回目 3課 疑問代名詞
- 7回目 3課 疑問形容詞
- 8回目 4課 不定冠詞と部分冠詞
- 9回目 5課 定冠詞
- 10回目 6課 所有形容詞と品質形容詞
- 11回目 7課 直接目的語代名詞
- 12回目 7課 間接目的語代名詞
- 13回目 8課 強勢形代名詞と前置詞
- 14回目 9課 中性代名詞yとen
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(小テスト、宿題)40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、初歩的な文法を学習して、フランス語による日常的な伝達能力（特に読み、書く力）を身に付けることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

「moi, je... モワ、ジュ・・・文法編」 ジャンリュック・アズラほか著（アルマ出版社）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 10課 複合過去 動詞 <avoir> をつかうもの
- 3回目 10課 複合過去 動詞 <etre> をつかうもの
- 4回目 11課 半過去
- 5回目 11課 複合過去と半過去の使い分け
- 6回目 12課 近接未来形
- 7回目 12課 単純未来形
- 8回目 13課 代名動詞
- 9回目 14課 関係代名詞
- 10回目 15課 比較級
- 11回目 15課 最上級
- 12回目 16課 条件法
- 13回目 冠詞の復習
- 14回目 時制の復習
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（小テスト、宿題）40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

## 授業の概要 /Course Description

1年次に学習した文法を復習しながら、さらに伝達能力をアップさせるための文法を学習します。

## 教科書 /Textbooks

「フランス語ブルー2、トリコロール 文法編」 高橋信良ほか著（朝日出版社）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞と中性代名詞
- 2回目 2課 補語人称代名詞の語順
- 3回目 3課 非人称構文
- 4回目 4課 現在分詞
- 5回目 4課 ジェロンディフ
- 6回目 5課 知覚動詞
- 7回目 5課 使役動詞
- 8回目 6課 直説法大過去
- 9回目 7課 直説法単純未来と前未来
- 10回目 8課 接続詞
- 11回目 9課 条件法
- 12回目 10課 間接話法
- 13回目 11課 接続法現在
- 14回目 12課 接続法の用法
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

## 授業の概要 /Course Description

1学期に学習した文法をもとに、簡単な和文仏訳の練習をして、フランス語による伝達能力の向上を図ります。授業では、日本語とフランス語での表現方法の違いにも注目します。

## 教科書 /Textbooks

「フランス語 プラン2 - トリコロール 作文編」星野守之 ほか著 (朝日出版社)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞
- 2回目 2課 前置詞+関係代名詞
- 3回目 3課 現在分詞
- 4回目 3課 ジェロンディフ
- 5回目 4課 知覚構文
- 6回目 5課 使役文
- 7回目 6課 無生物主語
- 8回目 7課 強調構文
- 9回目 8課 非人称構文
- 10回目 9課 二つの文をつなぐ接続詞
- 11回目 9課 理由や結果などを表す接続詞
- 12回目 10課 時、条件、仮定を表す接続詞
- 13回目 10課 目的、譲歩を表す接続詞
- 14回目 11課 間接話法
- 15回目 12課 直説法が接続法か？

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year  
単位 /Credits 1単位 / 1 Credit  
学期 /Semester 1学期 / 1 Semester  
授業形態 /Class Format 講義 / Lecture  
クラス /Class 中国 2年 / China 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

## 授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

## 教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Présentation des étudiants 自己紹介
- 2 - Révisions des bases (1) 基本の復習 1
- 3 - Se repérer dans l'espace (1) 位置関係 1
- 4 - Se repérer dans l'espace (2) 位置関係 2
- 5 - Au restaurant (1) レストランにて 1
- 6 - Au restaurant (2) レストランにて 2
- 7 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 1
- 8 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 2
- 9 - Le corps et la santé (1) 身体と健康 1
- 10 - Le corps et la santé (2) 身体と健康 2
- 11 - Les vacances (1) バカンス 1
- 12 - Les vacances (2) バカンス 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 中国2年 / 中国2年 2 Year China / 2 Year China

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212 F

## 授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

## 教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - A la Poste (1) 郵便局にて 1
- 2 - A la Poste (2) 郵便局にて 2
- 3 - L'environnement (1) 生活と環境 1
- 4 - L'environnement (2) 生活と環境 2
- 5 - La vie quotidienne : la famille (1) 日常生活：家族 1
- 6 - La vie quotidienne : la famille (2) 日常生活：家族 2
- 7 - La vie quotidienne : le week-end (1) 日常生活：週末の過ごし方 1
- 8 - La vie quotidienne : le week-end (2) 日常生活：週末の過ごし方 2
- 9 - Rêves de futur (1) 将来の夢 1
- 10 - Rêves de futur (2) 将来の夢 2
- 11 - Les sentiments (1) 様々な感情 1
- 12 - Les sentiments (2) 様々な感情 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

## 教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』（2011年、朝日出版社）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

口ボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）  
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞a
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 不規則動詞活用（1）、指示詞
- 12回 不規則動詞活用（2）、所有詞と接続詞
- 13回 短文を読む（1）
- 14回 短文を読む（2）
- 15回 復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。

# スペイン語I【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

## キーワード /Keywords



# スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制ですが、現在完了形・過去形も学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインおよびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』  
短文のプリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』(ピアソンエデュケーション)  
『スペイン語とつきあう本』(寿里、東洋書店)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞活用、人称代名詞目的格
- 3回 直接目的格と間接目的格
- 4回 前置詞、前置詞と人称代名詞、gustar型の動詞(1)
- 5回 gustar型の動詞(2)
- 6回 再帰動詞(1)とその文例
- 7回 再帰動詞(2)とその文例
- 8回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 9回 命令法、不定詞
- 10回 過去分詞・現在分詞を使った表現
- 11回 直説法点過去(規則活用)
- 12回 受動文、現在完了
- 13回 直説法点過去(不規則型)
- 14回 特殊な動詞(知覚・使役・放任など)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方から始め、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。  
文法事項を押さえながら学べ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

## 教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。  
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、  
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞・目的格人称代名詞のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# スペイン語Ⅲ【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

なし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

## 教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。  
粕谷てる子『オラ！＜改訂版＞』第三書房、2014

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習
- 2回 ir/venirの表現「明日東京へ行きます。」
- 3回 「スペイン語を勉強するつもりです。」
- 4回 天候表現「今日はいい天気ですね。」
- 5回 時間表現「何時ですか？」
- 6回 gustar構文「私はバルサが好きです。」
- 7回 gustar型動詞「頭がいたいのか？」
- 8回 再帰動詞「私はマリといいます。」
- 9回 「もう行っちゃうの」
- 10回 比較級「フアンのほうが背が高い。」
- 11回 「フアンはクラスで一番絵が上手だ。」
- 12回 現在完了「楽しかった！」
- 13回 現在分詞「今掃除中です。」
- 14回 スペイン語でDVDを見る
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

## 授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』  
青木文夫・辻博子・マリアエルナンデス（共著）、弘学社（第2版）  
昨年スペイン語IとIIで使用したテキストの続きをします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞典：  
スペイン語中辞典（小学館）  
新スペイン語（研究社）  
現代スペイン語辞典（白水社）  
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）  
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）  
他多数有。  
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。  
和和辞典：  
和和辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）  
クラウン和和辞典（三省堂）  
その他  
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）  
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）  
スペイン（増田監修：新潮社）  
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）  
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）  
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）  
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）  
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

# スペイン語Ⅴ【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 4 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 5 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 6 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 7 進行形と複文・重文
- 8 進行形と複文・重文
- 9 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 10 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 11 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 12 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 13 視聴覚教材を使って
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材(テキストの会話部分)を視聴覚教材として随時学びます。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!



# スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』  
青木文夫・辻博子・マリアエルナンデス（共著）、弘学社（第2版）  
前期スペイン語Vのテキストの続きをします。最後まで終えて、スペイン語文法の全体を完成させたいと思います。最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

スペイン語中辞典（小学館）  
新スペイン語（研究社）  
現代スペイン語辞典（白水社）  
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）  
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）  
他多数有。  
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。  
和西辞典：  
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）  
クラウン和西辞典（三省堂）  
その他  
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）  
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）  
スペイン（増田監修：新潮社）  
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）  
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）  
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）  
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）  
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

# スペイン語VI 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 接続法現在の活用と命令形
- 2 接続法現在の活用と命令形
- 3 命令形の練習
- 4 命令形の練習
- 5 比較表現、感嘆表現
- 6 受け身文、無人称文
- 7 接続法の活用全般について
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法
- 10 接続法の用法
- 11 スペイン語版トトロを理解する
- 12 スペイン語版トトロを理解する
- 13 スペイン語版トトロを理解する
- 14 スペイン語版トトロを理解する
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材（テキストの会話部分）を随時学びます。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

## 授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。DVDなどを使い、スクリプトを使用している様々な場面に応じた会話表現を学んでいきます。映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。

## 教科書 /Textbooks

一部、前年度と同じテキストを使用します。（粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014）  
他、プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。  
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、  
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。  
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のビデオを理解する、授業内容について（前年度の教科書持参）
- 2回 スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習、自己紹介
- 3回 人についての表現
- 4回 一日の出来事
- 5回 日常の紹介（1）
- 6回 日常の紹介（2）
- 7回 買い物（1）
- 8回 買い物（2）
- 9回 自由な時間の過ごし方
- 10回 歌詞を理解する
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ？
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ、前期に使用した表現

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# スペイン語Ⅶ【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。  
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

## 授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。DVDなどを使い、スクリプトを使用しているいろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布（必要に応じて前年度使用したテキストを一部使用。前年度テキスト：粕谷てる子『オラ！＜改訂版＞』）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。  
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。詳細は開講時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！
- 3回 今日のメニューEl menu del dia
- 4回 何を食べる？
- 5回 何を作る？
- 6回 仕事の紹介
- 7回 この企業は？
- 8回 Misterio en Almagro
- 9回 都会と田舎
- 10回 過去の出来事、点過去と線過去
- 11回 小さかった時・・・
- 12回 その他の時制、法
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。  
スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## スペイン語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

# 日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。並行して「読み」では、輪読形式で一冊の本を読み進め、日本語の本を最後まで読み通したという自信を持ってもらう。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

## 教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ：トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】	
3回	大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】	読み(1)輪読
4回	大学生生活(3)【キャンパスツアー】	読み(2)輪読
5回	大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】	読み(3)輪読
6回	大学生生活(5)【図書館ツアー】	読み(4)輪読
7回	大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】	読み(5)輪読
8回	大学生生活(7)【講義の上手な受け方】	読み(6)輪読
9回	大学生生活(8)【演習に参加するコツ】	読み(7)輪読
10回	大学生生活(9)【大学の定期試験】	読み(8)輪読
11回	チュートリアル(1)【学習計画】	
12回	チュートリアル(2)【振り返り】	
13回	チュートリアル(3)【修正】	
14回	チュートリアル(4)【評価】	
15回	総括	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %  
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。  
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 精読 チュートリアル

# 日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

## 教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション  
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私



# 日本語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅲでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

## 教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)  
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なくさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Ⅰと日本語Ⅱは、日本語Ⅲと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

# 日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に「プレゼンテーション」に焦点を当てる。自己表現の手段としてのプレゼンテーション能力について「説明」と「説得」の二つの側面を考えながら育成する。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

## 教科書 /Textbooks

『プラクティカル・プレゼンテーション(改訂版)』(上村和美他、くろしお出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『アカデミックプレゼンテーション入門』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 セルフチェックしよう【発表・評価】
- 3回 国際空港の中を説明しよう【サンドイッチ構成】
- 4回 レシートのコンテンツを発表しよう【マトリクス思考】
- 5回 国際会議場の使用プランを立てよう【問題点と解決策】
- 6回 レジューメを作ろう【要点】
- 7回 パワーポイントを作成しよう【デジタル・プレゼンテーション】
- 8回 発表しよう・コメント/質問しよう【質疑応答】
- 9回 発表についてセルフチェックしよう【自己評価】
- 10回 同窓会の幹事をしよう【企画・進行】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。  
日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

デジタル・プレゼンテーション Contents(内容) Techniques(技術) Tools(道具)

# 日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

## 教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)  
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 スタディスキル(1)テーマを決める
- 3回 スタディスキル(2)インターネットで情報を探す
- 4回 スタディスキル(3)資料を読む(批判的な読み方)
- 5回 スタディスキル(4)図解で考える
- 6回 スタディスキル(5)表・グラフを描いてみる
- 7回 スタディスキル(6)レポートの特徴
- 8回 スタディスキル(7)レジュメを作成する
- 9回 スタディスキル(8)パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 10回 論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
- 11回 論理的思考力(2)イラストから読み取ったことを表現する
- 12回 論理的思考力(3)定義をする
- 13回 論理的思考力(4)順序を考えて書いてみる
- 14回 論理的思考力(5)論理的に考えて書いてみる
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。  
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

# 日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

## 教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。  
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

# 日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

## 教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一律性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改訂 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ【調査結果】
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

# 日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

## 教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。  
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

# 日本事情 ( 人文 ) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫  
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店  
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 授業外学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。  
授業外学生との作文交換活動を行う予定です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

文化 比較 交換

# 日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

## 教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学期終了後ではあるが、2月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。簡略ではあるが、着付けも授業で練習する。

## キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承



# 日本事情 ( 社会 ) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からのアベノミクスにいたるまでの問題をとりあげ考えていく。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年  
○井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 戦後の荒廃から復興へ
  - ① 第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱
- 第2回 ② 経済復興へ - 戦後の諸改革
  - 省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦
- 第3回 ③ 占領下の経済から復興へ
- 第4回 高度経済成長
  - ① 高度経済成長へ
- 第5回 ② 重化学工業の発展、国土開発政策の展開
- 第6回 ③ 経済発展と公害、四大公害訴訟
  - ④ 円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出
- 第7回 石油ショックと低成長
  - ① 石油ショックとその影響
- 第8回 ② “重厚長大”から“軽薄短小”へ
- 第9回 ③ 貿易・経済摩擦
- 第10回 ④ 円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出
- 第11回 バブル崩壊、不況
  - ① バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題
- 第12回 ② 長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加
- 第13回 ③ アジア諸国、中国経済の発展と日本経済
- 第14回 現在の日本経済の諸問題
  - ① 少子高齢化社会保障
- 第15回 長期不況とアベノミクス-日本経済は立ち直れるのかー

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 日本事情 ( 社会 ) A 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

授業以外の学習方法：受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本事情 ( 社会 ) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

イギリスと日本の交流 150 年間を見る。そのことによって日本がいかにイギリス、特にスコットランドから影響を受けて近代化を押し進めたのかを明らかにする。とかく現代の日本人はアメリカに眼を向ける傾向がある。パックス・ブリタニカにおける日本の近代化の実態を明らかにし、日英関係の重要性を再認識したい。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 イギリスとはどんな国か
- 第 2 回 長英戦争と薩英戦争-大根をモーリ、ミカンのことを「サツマ」と呼ぶのはなぜか
- 第 5 回 尊王攘夷と長英戦争およびグラバーと倒幕の志士
- 第 6 回 長州 5 傑がイギリス留学から学んだもの
- 第 7 回 回：長英戦争と高杉晋作
- 第 8 回 回：岩倉使節団が見たイギリス産業革命
- 第 9 回 回：大久保利光の殖産興業と雇われ外国人
- 第 10 回 日清戦争と下関条約
- 第 11 回 回：巨額の賠償金をめぐる各国の争い
- 第 12 回 回：官営八幡製鉄所と賠償金
- 第 13 回 回：日露戦争とは何か-朝鮮半島を脅かすロシア対策-
- 第 14 回 回：日露戦争と外債募集
- 第 15 回 回：バルチック艦隊の大遠征とカーディフ炭

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート 30%、期末試験 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 授業以外の学習方法：受講生へのメッセージ
- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英米文化概論I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文化(主にイギリス)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	英米文化(主にイギリス)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(国関) 英米文化概論I	ARE130M
(比文) イギリス文化史	ARE233M

## 授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

## 教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英米文学概論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文学（主にアメリカ）と文化的多様性についての基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 自ら調査・研究を行って多角的に思考する姿勢を身に付ける。
	英語力	
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文学概論Ⅰ

LIT130M

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の文学史を構成するものとして知られる作家やその作品を取り上げながら、作品が生まれた歴史的社会的背景を学びながら鑑賞する。合わせて国家概念や文学史の形成過程についても考察を深めることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

『作品ガイド150 たのしく読めるアメリカ文学』 高田賢一、野田研一、笹田直人編（ミネルヴァ書房）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『新版アメリカ文学史：コロナルからポストコロナルまで』 別府恵子、渡辺和子編（ミネルヴァ書房）
- 『21世紀から見るアメリカ文学史：アメリカニズムの変容』 早瀬博範、吉崎邦子編（英宝社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要、成績評価の方法、参考図書などの説明）
- 第2回 アメリカ文学史の全体像、植民地時代とネイティブ・アメリカンの文学
- 第3回 超越主義の時代：象徴としての自然
- 第4回 ロマン主義の時代（1）：ピューリタンの掟と情念
- 第5回 ロマン主義の時代（2）：理性と身体の間
- 第6回 リアリズム文学の時代（1）：相対化される「私」
- 第7回 リアリズム文学の時代（2）：ミシシッピー川を下って何処かへ
- 第8回 自然主義文学の時代：進化論の悲劇
- 第9回 女性作家と文学史：自我の目覚め
- 第10回 モダニズムの時代（1）：パリのアメリカ人
- 第11回 モダニズムの時代（2）：再生の希求、故郷との和解
- 第12回 アメリカ演劇の世界：さまよえる孤独な魂
- 第13回 エスニシティと多文化主義
- 第14回 現代のアメリカ文学（1）〈特別講義〉
- 第15回 現代のアメリカ文学（2）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、課題提出など）...60%  
学期末レポート...20%  
学期末試験...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者はできるだけ多くの作品に触れて外国作品を読む楽しみを味わうとともに、英米文化についてより深い教養を身に付けることを目指してもらいたい。

## キーワード /Keywords

# 英米文学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文学（主にイギリス）と文化的多様性についての基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 自ら調査・研究を行って多角的に思考する姿勢を身に付ける。
	英語力	
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文学概論II

LIT131M

## 授業の概要 /Course Description

イギリス小説の全体像を文化的背景とからめながら理解する。小説の内容だけでなく、叙述の様々な手法や批評用語も考える。全知の語り手、narrator=characterの設定、語り手の能力、視点と声、内的焦点化、提示と語り、視点的人物の設定、語り手の信頼性などをキー・ワードとして用いる。

## 教科書 /Textbooks

必要な者は『英国小説の「語り」の構造』（開文社出版）を購入する。  
授業はこのテキストのコピーやあらすじ、引用などを適宜プリントして配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

朱牟田夏雄『イギリス文学史』東京大学出版会  
G.C. Thornley, An Outline of English Literature (Longman)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方。視点と声。叙述の様々な型
- 第2回 トマス・ナッシュの『悲運の旅人』
- 第3回 『天路歷程』と『ロビンソン・クルーソー』
- 第4回 サミュエル・リチャードソンの『パミラ』
- 第5回 ヘンリー・フィールディングの『トム・ジョーンズ』
- 第6回 『トリストラム・シャンデイ』と『ロデリック・ランダム』
- 第7回 ジェーン・オースティンの『エマ』
- 第8回 チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』
- 第9回 『ジェーン・エア』と『嵐が丘』
- 第10回 ジョージ・エリオットの『フロス河畔の水車小屋』とトロロープのパーセットシャー年代記
- 第11回 トマス・ハーディの『テス』
- 第12回 ジョゼフ・コンラットの『ロード・ジム』
- 第13回 ジェームズ・ジョイスの『若き日の芸術家の肖像』
- 第14回 ヴァージニア・ウルフの『ダロウエイ夫人』
- 第15回 授業全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の取り組み 20%  
期末試験 80%



事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 経済学の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済学の基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済学の基礎的な理解に必要な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力	
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学の基礎

ECN100M

## 授業の概要 /Course Description

経済問題は、私たちの日常生活にも、地域にも国にも、また国際社会にも大きな影響を及ぼしています。経済を理解することで国際関係分野と地域研究分野でより深い理解を得ることができます。この授業では、経済の仕組みを理解するうえで最低限必要な経済学の知識と見方・考え方を身に付けることをめざします。この授業では、テキストにしたがって日常の経済取引を扱う「市場」に関する項目(ミクロ経済)から始めて、国全体の経済を扱う項目(マクロ経済)へと進めていきます。説明では複雑な数式は使わず、できるだけ具体的な事例を出しながら説明していきます。また、随時経済に関する時事トピックを取り上げて解説します。

## 教科書 /Textbooks

中谷武・中村保編著「1からの経済学」、碩学会、2010年

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

伊藤元重「はじめての経済学」(上・下)、日本経済新聞出版社、2004年 (○)  
岩田規久男「経済学への招待」、新生社、2007年  
宮崎勇・田谷禎三「世界経済図説 第三版」、岩波新書、2012年 (○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：経済学とわたしたち
- 2 分業の利益
- 3 価格メカニズム
- 4 市場の効率性
- 5 市場の失敗
- 6 市場の限界
- 7 労働市場（またはミクロ経済学について中間テスト）
- 8 GDPとは何か
- 9 何がGDPを決めるか
- 10 消費需要と投資需要
- 11 貨幣と金融
- 12 政府の役割
- 13 外国貿易と為替レート
- 14 経済成長と国民生活
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

テストまたはレポート(2回) ... 70%、平常点および課題... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

普段から身近な雇用・就職状況だけでなく、貿易や為替レートなどの状況にも関心を向けて、新聞や雑誌の経済記事に目を通しておくと、授業が理解しやすくなります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

市場 GDP 財政 貿易

# 政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、①現代政治に至るまでの国家と社会の変化、②構築されてきた制度、③制度の設計・維持に関わる人々（議員や市民）、④地方・国・国際等の異なるレベルの政治の関係を扱います。本講義を通じて、受講生が政治学の基礎的な概念を理解し、政治に対する理解を深めることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2 - 3枚）があります。テキストについては講義の初回に紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

伊藤光利編著．2009．『ポリティカル・サイエンス事始め-第3版-』有斐閣．  
加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦．2012．『現代政治学-第4版-』有斐閣．  
久米郁男・田中愛見・古城佳子・川出良枝・真淵勝．2011．『政治学 補訂版』有斐閣．  
川出良枝・谷口将紀．2012．『政治学』東京大学出版会．

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	
第2回	政治とは何か？	【権力】【権威】【正統性】
第3回	国家と社会①	【市民革命】【議会主義】【大衆社会】
第4回	国家と社会②	【行政国家】【福祉国家】
第5回	民主主義と自由主義	【民主主義】【自由主義】【自由民主主義】
第6回	政治制度①	【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
第7回	政治制度②	【小選挙区制】【比例代表制】【中選挙区制】【混合型】
第8回	政治制度③	【一院制】【二院制】
第9回	制度の視点	【集権】【分権】【制度補完性】
第10回	デモクラシーと代表①	【代表性】【政党】
第11回	デモクラシーと代表②	【政党システム】【二大政党制】【多党制】
第12回	デモクラシーと代表③	【政治参加】【政治的社会化】
第13回	地方自治	【団体自治】【住民自治】【ガバナンス】
第14回	国際政治	【グローバルイゼーション】
第15回	まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験（85％）、講義への参加態度（15％）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

## キーワード /Keywords

なし

# アメリカの社会【昼】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会の特性について理解する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの社会

ARE225M

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

## 教科書 /Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ 多民族社会における統合の現実（第3版）』有斐閣選書、2011年。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。  
その他多数。授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 多民族国家アメリカ—概観
- 第3回 同化の諸概念
- 第4回 新大陸で出会った三つの人種集団
- 第5回 アングロ・アメリカ社会の形成
- 第6回 国民的統合に向けて
- 第7回 2011年の最もカレントなトピックについて（小テストを兼ねる）
- 第8回 「新移民」の流入（1）—イタリア移民、ユダヤ人移民
- 第9回 「新移民」の流入（2）—中国と日本からの移民
- 第10回 自由の女神の涙
- 第11回 多民族国家アメリカ—続く移民の流れ
- 第12回 平等の達成（1）—移民法の改正、先住民
- 第13回 平等の達成（2）—アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
- 第14回 真の平等を求めて—多様性と統合の調和
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性が有る。その場合は授業中に指示する。

# アメリカの社会【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# イギリス研究Ⅲ【昼】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの政治・社会などについて専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスに関する専門的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス研究Ⅲ

ARE238M

## 授業の概要 /Course Description

現代イギリス社会の状況について、特にサッチャー改革がもたらしたものを検討する。サッチャー政権の大きな成果とされる民営化の意味を中心に新自由主義が及ぼした価値観の転換などを考え、1990年代以降のイギリス社会の動向について、考察を進める。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『国際関係学の第一歩』法律文化社、2010年。  
それ以外は授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 イギリスの現状(上)【イギリス】【現状】
- 3回 イギリスの現状(下)【イギリス】【2010年代】
- 4回 「強い個人」-サッチャーが目指したもの【社会保障】【労働組合】
- 5回 福祉国家の前提-サッチャーが壊したもの【リヴァプール】【失業者】
- 6回 1930年代と世紀末のイギリス【1930年代】【20世紀末】
- 7回 サッチャー主義【サッチャー主義】
- 8回 サッチャー主義と共同性(上)【競争社会】
- 9回 サッチャー主義と共同性(下)【共同性】
- 10回 サッチャー対労働組合(上)【労働組合】
- 11回 サッチャー対労働組合(下)【炭鉱スト】
- 12回 サッチャーの政策(上)【マネタリズム】【ビッグバン】
- 13回 サッチャーの政策(下)【民営化】【買う権利】
- 14回 今後の展望
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...90%  
小レポート...10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# イギリス研究III 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

わからない箇所があれば質問すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# イギリス研究Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの社会・政治などについて専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスに関する専門的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス研究Ⅳ

ARE239M

## 授業の概要 /Course Description

現代イギリス社会が抱えている問題について、特にジェンダー、世代、エスニシティにかかわる問題から検討する。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『国際関係学の第一歩』法律文化社、2010年。  
それ以外は授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 イギリスの形成【連合王国】
- 3回 イギリスの諸地域(1)【ウェールズ】
- 4回 イギリスの諸地域(2)【スコットランド】
- 5回 イギリスの地域問題【権限委譲】
- 6回 プリンセス・オブ・ウェールズ【チャールズ皇太子】
- 7回 ダイアナの時代【ダイアナ】
- 8回 ダイアナ現象【ダイアナの事故死】
- 9回 現代イギリスのメディア【君主制】
- 10回 現代イギリスにおける社会統合【家族関係】
- 11回 エスニシティとイギリス社会(1)【移民】
- 12回 エスニシティとイギリス社会(2)【多文化主義】
- 13回 帝国と現代イギリス社会【帝国】
- 14回 イギリス社会の行方【市民権テスト】
- 15回 展望とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...90%  
小レポート...10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# イギリス研究Ⅳ【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

わからない箇所があれば質問すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文化(主にアメリカ)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 英米文化(主にアメリカ)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力	
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文化概論II

ARE226M

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。

## 教科書 /Textbooks

前半はテキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）を使用する。同書のほかに、後半で基礎文献を追加する場合があるので注意すること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献リストをガイダンスで配付する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
- 第2回 英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
- 第3回 独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
- 第4回 19世紀アメリカの形成【合衆国憲法】【フェデラリスト】【ジェファソン民主主義】
- 第5回 市場革命【西部】【市場革命】【超絶主義】
- 第6回 奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
- 第7回 再建の時代【南部の再建】【憲法修正】【市民権】
- 第8回 19世紀後半から20世紀初頭のアメリカ社会【鉄道】【金ぴか時代】【移民】【ポピュリズム】【革新主義】
- 第9回 第一次世界大戦【100%アメリカニズム】
- 第10回 大衆消費社会と禁酒法【移民制限】【1920年代】
- 第11回 大恐慌の発生【世界恐慌】【ニューディール】
- 第12回 第二次世界大戦【冷戦】【日系人】
- 第13回 公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【人種問題】
- 第14回 多文化主義の興隆【ヒスパニック】【同性結婚】
- 第15回 これからのアメリカ社会【9.11】【21世紀】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%、期末試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。

## キーワード /Keywords

アメリカ 文化 歴史

# 現代中国の政治【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国政治とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国政治とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の政治

ARE211M

## 授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための基礎知識を習得する。授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

天見慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年(○)  
久保亨『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への挑戦 1945 - 1971』岩波新書、2011年(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 なぜ中国は共産主義を選じたのか
- 3回 中国が国際政治の変遷から受けた影響
- 4回 建国当初の中国はどのような国家だったのか
- 5回 社会主義化
- 6回 文化大革命I【1960年代後半】
- 7回 文化大革命II【1970年代前半】
- 8回 近代化の模索
- 9回 改革開放I【対外開放】
- 10回 改革開放II【経済改革】
- 11回 改革開放がもたらした歪み
- 12回 第二次天安門事件
- 13回 改革開放の加速と政治改革の停滞
- 14回 現代の課題
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90 %、 日常の授業への取り組み ... 10 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業で指示した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
- (2) 「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 現代中国の外交【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国外交とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国外交とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

\*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の外交

ARE212M

## 授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題について、総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾問題を検討する。海洋主権や地域主義・グローバリズムへの参加といった今日的課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

## 教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。  
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン～文献紹介と授業の進め方
- 2回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交I【イデオロギー、現実主義】
- 3回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交II【指導者と外交方針】
- 4回 対日関係I【国交正常化】
- 5回 対日関係II【ポスト毛沢東時代】
- 6回 中台関係I【基礎知識】
- 7回 中台関係II【中国の台湾政策】
- 8回 中台関係III【中台関係の現状分析】
- 9回 米中関係I【冷戦期】
- 10回 米中関係II【ポスト冷戦期】
- 11回 多国間外交：地域主義とグローバリズム
- 12回 経済外交・資源外交・安全保障I【概念】
- 13回 経済外交・資源外交・安全保障II【対外行動の分析】
- 14回 華僑華人と大陸中国
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- (1) テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
- (2) 「中国研究概論(旧カリ：地域研究入門中国)」「現代中国の政治(旧カリ：中国の政治外交I)」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。



## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国の思考・行動パターンを推察する手がかりを得て下さい。

## キーワード /Keywords

# 韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 韓国・北朝鮮の政治外交について、専門的知見を有している。
技能	専門分野のスキル	● 韓国・北朝鮮の政治外交について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

\*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

韓国・北朝鮮の政治外交 I

ARE213M

## 授業の概要 /Course Description

「近くて遠い国」とも言われる隣国、韓国の政治外交に関する講義です（北朝鮮については2学期に開講される「韓国・北朝鮮の政治外交II」にて集中的に探求します）。ご存知のように、韓国は日本植民地支配からの解放と南北分断以来、冷戦体制の最前線で、北朝鮮およびアメリカ・日本・中国・ロシアに対応しながら、民主化を実現し、経済発展をとげた国です。授業の前半では、独立から現在に至るまでの韓国現代史を、政治学と歴史学との接点という視点から概略的に振り返ります。その後、対日・対米・対北政策などの韓国の外交と、民主化・政党政治などの国内政治について考察を加えます。この授業が現代韓国に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心とした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

## 教科書 /Textbooks

木宮正史 『国際政治のなかの韓国現代史』（東京：山川出版社、2012年）、1620円。  
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

第1回イントロダクションの際に一応紹介しますが、その後授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜加えます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：韓国現代史をどうみるか
- 第2回 解放、冷戦と南北分断体制の形成
- 第3回 朝鮮戦争
- 第4回 李承晩政権の政治・外交・経済
- 第5回 朴正熙政権の政治・外交・経済
- 第6回 日韓国交正常化への道程
- 第7回 デタント、権威主義体制、産業化
- 第8回 脱冷戦と韓国の外交路線
- 第9回 民主化への道程
- 第10回 韓国の同盟政治
- 第11回 韓国の対日政策
- 第12回 韓国の統一政策（対北政策）
- 第13回 韓国の政党政治
- 第14回 韓国の課題
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答など平常点・・・30%、読書感想文・・・20%、期末試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

- (1) テキストなどは、講義と相互補完的關係にあるので、きちんと読むこと。
- (2) 本講義は内容的に2学期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交II」と深く関わっているため、併せて履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

韓国政治、韓国外交、南北分断体制、民主化、産業化、同盟、日韓関係、北朝鮮

# 韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 韓国・北朝鮮の政治外交について、専門的知見を有している。
技能	専門分野のスキル	● 韓国・北朝鮮の政治外交について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

\*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

韓国・北朝鮮の政治外交II

ARE214M

## 授業の概要 /Course Description

「謎に包まれた隣国」とも言われる北朝鮮の政治外交に関する講義です（韓国については1学期に開講される「韓国・北朝鮮政治外交I」にて集中的に探求します）。授業の前半では、建国から現在に至るまでの北朝鮮現代史を、政治学と歴史学との接点という視点から振り返ります。その後、北朝鮮の同盟外交と対日・対米・対南政策、国内政治、核・ミサイル問題などについて考察を加えます。この授業が北朝鮮に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心とした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

## 教科書 /Textbooks

平岩俊司 『北朝鮮：変貌を続ける独裁国家』（中公新書）（東京：中央公論新社、2013年）、886円。  
○ 和田春樹 『北朝鮮現代史』（岩波新書）（東京：岩波書店、2012年）、886円。  
その他、授業中に配布する資料。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

第1回イントロダクションの際に一応紹介しますが、その後の授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜加えます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：北朝鮮をどうみるか
- 第2回 朝鮮民主主義人民共和国の成立
- 第3回 北朝鮮からみる朝鮮戦争
- 第4回 金日成と主体思想（1）：国内政治の側面
- 第5回 金日成と主体思想（2）：対外政策の側面
- 第6回 劣勢に立つ北朝鮮：デタント、南北間の産業化競争
- 第7回 冷戦の終焉と北朝鮮の危機
- 第8回 金正日の先軍政治
- 第9回 金正恩政権と北朝鮮の選択
- 第10回 北朝鮮の同盟政治：朝中ソ3角関係
- 第11回 北朝鮮と日本、米朝関係
- 第12回 北朝鮮の統一政策（対南政策）
- 第13回 北朝鮮の核・ミサイル問題
- 第14回 東北アジア平和体制と北朝鮮問題
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答など平常点・・・30%、読書感想文・・・20%、期末試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

テキストは、講義と相互補完的關係にあるので、きちんと読むこと。なお、本講義は内容的に前期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交I」を引き継ぐため、併せて履修することが望ましい。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

北朝鮮、核・ミサイル、主体思想、日朝関係、金日成、金正日、金日恩

# 東南アジアの社会と歴史【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアの社会と歴史に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

\*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの社会と歴史

ARE215M

## 授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深めることである。授業の前半では歴史について取り上げ、後半では社会について取り上げる。歴史・社会いずれの側面においても、多民族社会である東南アジアをとらえ、東南アジアの事例を通じて多文化共生について考える視点を養うことに力点を置く。

## 教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション
- 2回 東南アジアにおける「くに」の形成とインド文明の受容(1~11世紀)
- 3回 王国の発展と新たな外来文明(イスラム教・仏教)の受容(11~15世紀)
- 4回 交易の時代(15~18世紀)
- 5回 東南アジアの植民地化(19~20世紀)
- 6回 植民地期の社会変容(19~20世紀)
- 7回 日本軍政と脱植民地化(20世紀後半~21世紀)
- 8回 開発の時代と権威主義体制(20世紀後半~)
- 9回 開発と社会是正:信仰への回帰(1970年代~)
- 10回 信仰と暴力とが結びつけられる時(1)事例紹介・分析
- 11回 信仰と暴力とが結びつけられる時(2)分析・解説
- 12回 多民族社会の現在
- 13回 多民族社会における共存の模索(1)導入・事例紹介
- 14回 多民族社会における共存の模索(2)事例紹介・分析
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 課題...10% 期末テスト...60%

小テスト実施日に欠席する/した場合は、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 東南アジアの社会と歴史【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえで本科目を受講すると、本科目の理解がより深いものになります。

小テストを2回実施するほか、授業中に課題を2回提出してもらう予定です。小テストおよび課題の成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	● 東南アジアの政治と外交に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
関心・意欲・態度	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの政治と外交

ARE216M

## 授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

## 教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN---新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡---'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦---「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を指して』アジア経済研究所、2012年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 ASEANのAPECへの参画
- 13回 ASEAN地域フォーラム(ARF)、ASEAN+3、東アジア首脳会議(EAS)
- 14回 ASEANの展望
- 15回 まとめ



# 東南アジアの政治と外交 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...45% 期末テスト...55%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえで本科目を受講すると、本科目の理解がより深いものになります。

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地域研究特講 【昼】

担当者名 /Instructor ODU 教員 / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会と文化についての諸問題について、専門的知識を身に付けている。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会と文化の諸問題を正しく理解し、情報の収集や分析ができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカの社会と文化	ARE222M
(国関) 地域研究特講	ARE200M

## 授業の概要 /Course Description

後日揭示。

## 教科書 /Textbooks

後日揭示。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

後日揭示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

後日揭示。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

後日揭示。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アメリカ史の争点【昼】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの歴史上の争点について理解する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの歴史上の争点に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力		
関心・意欲・態度	コミュニケーション力		

\*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ史の争点

ARE320M

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。授業を通して、アメリカ合衆国社会の特性について、総合的に理解することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

パップ・ンディアアイ著、明石紀雄監修『アメリカ黒人の歴史』想元社、2010年

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ジェームス・M・ヴァーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』（集英社新書、2007年）  
などをはじめとして、講義中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 19世紀前半までの黒人
- 第3回 南北戦争と奴隷制① - 綿花王国
- 第4回 南北戦争と奴隷制② - 戦争の経過
- 第5回 南部再建と人種関係の再編
- 第6回 近代黒人解放運動
- 第7回 二つの世界大戦と「市民」への道程
- 第8回 公民権運動と映画
- 第9回 公民権運動① - ブラウン判決以前の公民権運動
- 第10回 公民権運動② - 1950年代後半から1960年代前半
- 第11回 公民権運動③ - 混迷の時代へ
- 第12回 公民権運動を支えた人々
- 第13回 ポスト公民権運動期の黒人
- 第14回 アメリカにおけるアフーマティブ・アクションの導入と展開
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおく方が良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

# アメリカ史の争点【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 現代アメリカ政治【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの現代政治について専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの現代政治に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代アメリカ政治

ARE322M

## 授業の概要 /Course Description

現代アメリカ政治の基礎を講じる。

## 教科書 /Textbooks

久保文明ほか『アメリカ政治』（有斐閣 2010年）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回アメリカ政治の輪郭
- 第3回合衆国憲法の形成
- 第4回合衆国憲法の特徴
- 第5回大統領制
- 第6回議会
- 第7回司法
- 第8回連邦制
- 第9回選挙と政党制
- 第10回政党の機能
- 第11回メディアと圧力団体
- 第12回イデオロギー対立
- 第13回政策形成過程
- 第14回アメリカ民主政の現在
- 第15回授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は英米文化概論IIであつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、よく理解することができるようになります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

# アメリカ政治研究【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの政治について専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの政治に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ政治研究

ARE321M

## 授業の概要 /Course Description

革新主義期から第二次世界大戦までのアメリカ政治の発展を講じる。前半部分では、革新主義期に新しい国家秩序が形成された経緯を論じ、第一次世界大戦期に大国となったアメリカが1929年の恐慌を経て、ニューディール体制を建設し、アメリカ型の福祉国家体制を築き上げたこと、そして第二次世界大戦によって失業を克服したことを論じる。講義では、アメリカにおける公共性をめぐる視点の転換を説明するため、アメリカ特有の社会構造に焦点を当てる。その際にルイス・ハーツの自由主義社会論を起点として、近年の政治発展をめぐる制度論と政治文化論を取り入れて議論を進めていく。

## 教科書 /Textbooks

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回19世紀アメリカ政治の特質
- 第3回20世紀アメリカの出現
- 第4回革新主義とは何か
- 第5回TRの時代
- 第6回ウイルソン政権の内政外交
- 第7回第一次世界大戦とアメリカ
- 第8回市民的自由の追求
- 第9回1920年代のアメリカ
- 第10回フーヴァー政権と大恐慌
- 第11回FDRの時代
- 第12回ニューディール改革
- 第13回ニューディールの変容
- 第14回第二次世界大戦期のアメリカ
- 第15回総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

# アメリカ政治研究 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は現代アメリカ政治であつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アメリカ 20世紀前半



# 東アジア経済論【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア経済論

ECN352M

## 授業の概要 /Course Description

東アジア地域は長い期間にわたって経済発展を続けてきた地域でやかなり、今後東アジア経済の動向が世界の中で重要な意味を持つようになる。この授業のねらいは、一つには多様性に富んだ東アジア地域の代表的な国々の経済を概観し、その特徴を深く理解することである。もう一つには、東アジア経済に関連する共通した特徴や課題を理解することである。

授業では、まず東アジア地域全体の統計データを確認して、世界の中での東アジア経済の位置づけと全体像を把握する。次に、東アジア経済の特徴を「工業化」、「サービス化」、「移民」、「体制移行」という4つのキーワードで捉えて、それぞれの特徴について代表的な国の経済を紹介し、そのキーワードに関する理論的背景や歴史的な事情などを解説をしていく。次に、東アジア地域が共通して経験した問題点と、今後取り組むべき課題を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』、東洋経済新報社  
長谷川啓之編著『アジア経済発展論』、文真堂  
三木敏夫『東アジア経済発展論』、創成社  
郭洋春『現代アジア経済論』、法律文化社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、世界の中の東アジア
- 2回 韓国経済
- 3回 台湾経済
- 4回 東アジアの工業化戦略
- 5回 シンガポール経済
- 6回 香港経済
- 7回 国際金融・国際物流
- 8回 マレーシア経済
- 9回 インドネシア経済
- 10回 ASEANにおける華人経済
- 11回 中国
- 12回 その他移行経済（ベトナム、ミャンマー、北朝鮮など）
- 13回 国家と市場、開発独裁
- 14回 アジア通貨危機
- 15回 アジアにおける地域統合

# 東アジア経済論 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...40% 学期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

普段から東アジアの政治経済情勢について新聞、ニュースなどで接するようにしてください。また、経済学科以外の受講生は経済学の入門書を読んだり、経済関係の授業を受けて、経済用語に慣れ親しんでおくことを勧めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

工業化、サービス化、移民・華人、体制移行、アジア通貨危機、地域統合

# 東アジア地域秩序論I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
関心・意欲・態度	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論I

ARE315M

## 授業の概要 /Course Description

国際政治の観点から「東アジア共同体」を多元・重層的に捉え直し、アジア地域統合の課題や可能性を分析する。そして将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望する。

## 教科書 /Textbooks

山本吉宣等【編著】『国際政治から考える東アジア共同体』（ミネルヴァ書房、2012）、3200円

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中、随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の報告と補足講義で進行する。

- 第1回 教科書の紹介、第I部第1章 【地域統合】【理論】【制度】
- 第2回 第I部第2章 【東アジア共同体】【TPP】【アメリカの関与】
- 第3回 第I部第3章 【EU事例】【主権】
- 第4回 第I部第4章 【東アジア共同体憲章案】
- 第5回 第I部第5章 【ASEAN】【ヨーロッパ統合】
- 第6回 第I部第6章 【北東アジア】【朝鮮半島】
- 第7回 第I部第7章 【アジア太平洋】【中国】【アジア地域連携】
- 第8回 第I部第8章 【バルカン】【地域史】
- 第9回 第I部第9章 【地域安全保障】【中国】
- 第10回 第I部第10章 【安全保障】【地域秩序】
- 第11回 第I部第11章 【欧州共同体】【地域の不安定化】
- 第12回 第I部第13章 【人の移動】【マイノリティ】
- 第13回 第V部第14章 【アイデンティティ】【東アジア・アイデンティティ】
- 第14回 第V部第15章 【戦後ドイツ】【東アジア地域統合】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（20点）、レポート3本（80点）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去・現在に関心を持ち、明るい日本と東アジアの将来を展望し構想しよう。

キーワード /Keywords

# 東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

\*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論II

ARE316M

## 授業の概要 /Course Description

近代における東アジア地域秩序の変容を論じ、将来の東アジア地域秩序を考えること。そのため、講義II（後期）の授業では、東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）のナショナリズムの形成と展開を考察する。その過程で、三国それぞれのナショナリズムの特徴を比較考察する。また、ナショナリズム論も考察する。最後に、三国のナショナリズムと「グローバル化時代の東アジア」を対比し、それを調和させるべく、「東アジア共同体論」を検討する。講義全体のキーワードは【アジアからの視点】【文明論的視点】【ナショナリズム】【東アジア共同体】

## 教科書 /Textbooks

米原謙・金鳳珍・區建英著『東アジアのナショナリズムと近代-なぜ対立するのか-』大阪大学出版会、2011、3700円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テキストの精読、学生の報告、補足講義という形で行う。
- 1回 概説と教科書の序章【アジアからの視点】【文明論的視点】
  - 2回 第一章の一【国体論】【国体ナショナリズム】
  - 3回 第一章の二、三【中華世界像】【国民国家】【明治儒学と国体】
  - 4回 第二章の一、二【原初ナショナリズム】【近代ナショナリズム】
  - 5回 第二章の三、四【ナショナリズムの噴出と相克】
  - 6回 第三章の一、二【洋務運動】【戊術変法】【ナショナリズムの萌芽】
  - 7回 第三章の三【辛亥革命】【民族主義】【国粹主義】
  - 8回 第四章の一【脱亜】【興亜】【帝国日本】
  - 9回 第四章の二、三【戦争】【東亞協同論】
  - 10回 第五章の一、二【抵抗ナショナリズムの離散と噴出】【分極】
  - 11回 第五章の三、四【ナショナリズムの離合集散】【分裂と変質】
  - 12回 第六章の一、二【アジア主義】【抗日ナショナリズム】
  - 13回 第六章の三【アジア民族同盟】【統一戦線】【抗日戦争】
  - 14回 終章【ナショナリズムの相克】
  - 15回 まとめ【相生と相克】【東アジア共同体】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告 10%、3本のレポート 90%(1本30%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参考文献等、自主的に勉強すること。予習と復習。

## 東アジア地域秩序論II 【昼】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジア三国におけるナショナリズム形成と相克の歴史を学び、それぞれのナショナリズムを相対化する。それによって、東アジア国際関係の協調体制と来るべき東アジア共同体を構想しよう。

### キーワード /Keywords

# 国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論I

IRL211M

## 授業の概要 /Course Description

この講義では、国際開発援助の視点から途上国が抱える諸課題について学習します。まずは、政府開発援助の仕組みとその役割、国際開発援助レジームの発展についての専門的知識を学びます。次に、個別の 이슈ごとによどのような取り組みが行われているのかを学びます。

## 教科書 /Textbooks

○勝間靖編『テキスト国際開発論』ミネルヴァ書房、2012年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際開発援助の歴史的発展 1 (1960年代～1970年代)
- 第2回 国際開発援助の歴史的発展 2 (1980年代～現在)
- 第3回 国際開発援助レジームの発展と今後の展望
- 第4回 日本のODAの仕組みと働き
- 第5回 開発協力大綱の内容と問題点
- 第6回 貧困問題を捉える視点
- 第7回 貧困の克服に向けた取り組み
- 第8回 飢餓と食糧安全保障
- 第9回 健康問題と感染症
- 第10回 途上国における教育問題
- 第11回 途上国におけるジェンダーの問題
- 第12回 国際開発における国連の役割
- 第13回 国際開発におけるNGOの役割
- 第14回 援助を超える議論 - BOP、CSR -
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 30% 学期末試験... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 国際協力論I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

国際協力機構（JICA）や経済開発協力機構（OECD）のホームページを日頃から参照しておくこと、本講義の内容が理解しやすくなります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

## キーワード /Keywords



# 国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論II

IRL212M

## 授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。
- 篠田英明『平和構築入門』ちくま新書、2013年。
- 月村太郎『民族紛争』岩波新書、2013年。
- リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回 国家の破綻と崩壊1 - ユーゴスラヴィアのケース①【ユーゴ崩壊の過程】
- 第3回 国家の破綻と崩壊1 - ユーゴスラヴィアのケース②【ユーゴ崩壊の要因】
- 第4回 国家の破綻と崩壊1 - ユーゴスラヴィアのケース③【ビデオ】【ディスカッション】
- 第5回 国家の破綻と崩壊2 - ルワンダのケース①【ルワンダ内戦の経緯】
- 第6回 国家の破綻と崩壊2 - ルワンダのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第7回 国家の破綻と崩壊3 - ソマリアのケース①【ソマリア内戦の経緯】
- 第8回 国家の破綻と崩壊3 - ソマリアのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第9回 P K Oの包容と限界
- 第10回 「人道的介入」から「保護する責任」論へ
- 第11回 平和構築アプローチ
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①【平和へと向かう力、戦争に向かう力】
- 第14回 Do No Harm原則②【援助が持つ物質的影響、倫理的メッセージ】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)... 30% 学期末試験... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 国際協力論II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

新書や文庫で紛争地のルポルタージュなどを読んでおくと講義の理解に役立ちます。  
JICAのホームページから『課題別指針 平和構築』（2009年）をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

### キーワード /Keywords

# 国際社会論 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	様々な社会の抱える課題について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	様々な社会の抱える課題に関する情報の収集と分析を行うことができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際社会論

IRL210M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。

グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それにともなって、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。

授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、第2次世界大戦後の国際人口移動（労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民など）について概説する。その上で、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて、実証研究に基づいて、考察していきたい。

## 教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
  - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
  - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
  - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
  - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの説明 / 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 グローバル化と国際人口移動
- 第4回 さまざまな国際人口移動 - 労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民、ディアスポラ
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) - エスニシティと階級
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) - 移民と教育、移民と政治
- 第7回 日本社会と移民(1) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会1
- 第8回 日本社会と移民(2) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会2
- 第9回 日本社会と移民(3) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会3
- 第10回 日本社会と移民(4) - 日系ブラジル人と日本社会1
- 第11回 日本社会と移民(5) - 日系ブラジル人と日本社会2
- 第12回 排外主義・排外意識(1) - 排外意識の状況
- 第13回 排外主義・排外意識(2) - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%  
(総合的に判断する。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

# 国際人権論 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際人権論

IRL213M

## 授業の概要 /Course Description

人間の権利には、どのようなものがあるのか。それをいかに保護するのか。あるいは、なぜ保護する必要があるのか。現代世界においては、各々の国家が個別にこれらの問いに答えればよいというわけでは必ずしもない。  
講義では、主に国際政治学と国際法学の観点から、人権に関する規範と制度が国際連合においてどのように形成されているのかを考察し、その課題を探究する。

## 教科書 /Textbooks

『国際条約集2015年版』有斐閣、2015年。  
2014年版以前のものはいない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 人権概念の創出
- 第3回 国際社会と人権保護：19世紀まで
- 第4回 国際社会と人権保護：国際連盟の時代
- 第5回 国際連合における人権の規範と制度（国連憲章）
- 第6回 国際連合における人権の規範と制度（世界人権宣言）
- 第7回 国際連合における人権の規範と制度（社会権規約と自由権規約）
- 第8回 国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）概観
- 第9回 国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）ケース・スタディ
- 第10回 国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）概観
- 第11回 国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）ケース・スタディ
- 第12回 国際刑事裁判所の設立と活動
- 第13回 現代アジアと人権：人権外交と価値観
- 第14回 現代アジアと人権：近年の情勢
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト60%（3-4回） 期末試験40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用します。持参していない人は受講できません。  
ページ数のある教科書ですので、附箋と色ペンを用意すると便利です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際紛争論 【昼】

担当者名 西山 美久 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	紛争に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際紛争論

IRL214M

## 授業の概要 /Course Description

### 【授業の目的】

冷戦終焉後、内戦や地域紛争が世界各地で多発しています。これらの紛争はどのように発生し、激化したのでしょうか。本講義では、様々な事例（特に、旧ソ連地域における紛争）を通してポスト冷戦期における国際紛争を多面的に検証し、現代世界における平和の意味や条件について学んでいきます。

### 【授業の概要】

最初の講義では（第2回～第3回）、国際紛争を考える上で必要な歴史や理論を学びます。その上で、ポスト冷戦期に生じた紛争を学んでいき、専門的な知識の習得を目指します（第4回～第14回）。そして、平和の意味や条件について理解を深めていきます。なお、授業の内容・順序は以下のように考えていますが、進捗状況によっては講義内容を一部変更することがあります。

## 教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。毎回、（大量の）レジュメや資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 大芝亮編著『国際政治学入門』ミネルヴァ書房、2008年。
- 大芝亮・藤原帰一・山田哲也『平和政策』有斐閣、2006年。
- 長有紀枝『入門 人間の安全保障—恐怖と欠乏からの自由を求めて』中公新書、2012年。
- 小田健『現代ロシアの深層—揺れ動く政治・外交・経済』日本経済新聞出版社、2010年。
- 大野正美『グルジア戦争とは何だったのか』東洋書店、2009年。
- 菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
- 塩川伸明『ロシアの連邦制と民族問題—多民族国家ソ連の興亡III』岩波書店、2007年。
- 塩川伸明『民族浄化・人道的介入・新しい冷戦—冷戦後の国際政治』有志舎、2011年。
- 高橋良輔・大庭弘継編『国際政治のモラル・アポリア—戦争 / 平和と揺らく倫理』ナカニシヤ出版、2014年。
- 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2010年。
- 月村太郎『民族紛争』岩波書店、2012年。
- 月村太郎編『地域紛争の構図』晃洋書房、2013年。
- ナイ、ジョセフ（田中明彦・村田晃嗣訳）『国際紛争—理論と歴史（第9版）』有斐閣、2013年（旧版は図書館に所蔵されていますが、最新版をおススメします）。
- 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009年。

その他の文献については、授業中に紹介します。

# 国際紛争論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 冷戦期の国際紛争 : 【米ソ冷戦】【代理戦争】
- 第3回 冷戦終焉と「新しい戦争」 : 【内戦】【アイデンティティ】
- 第4回 ルワンダ・ジェノサイド : 【ジェノサイド】【フツ族、ツチ族】
- 第5回 旧ユーゴスラヴィア紛争(1) : 【国家の解体】【クロアチア】
- 第6回 旧ユーゴスラヴィア紛争(2) : 【ボスニア】【人道的介入】
- 第7回 チェチエン紛争(1) : 【第1次紛争】【ロシア連邦】【エリツィン】
- 第8回 チェチエン紛争(2) : 【第2次紛争】【プーチン】
- 第9回 ナゴルノ・カラバフ紛争 : 【アルメニア】【アゼルバイジャン】
- 第10回 9.11テロとアメリカ : 【テロリズム】
- 第11回 イラク戦争 : 【先制攻撃】
- 第12回 ロシア・グルジア紛争(1) : 【南オセチア】【未承認国家】
- 第13回 ロシア・グルジア紛争(2) : 【ロシア・グルジア関係】
- 第14回 ウクライナ危機 : 【ユーロ・マイダン】【米露関係】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

①定期試験(70%)

論述試験を行います(持ち込み「可」の予定)。評価にあたっては、講義内容の理解に加え、「論述展開の適切さ・明瞭さ」および「表記の適切さ」を基準とします(箇条書き、字句の羅列、図式化などは評価しません)。試験の詳細は講義で説明します。なお、試験について分からないこと、不安なことがあれば遠慮せずにお尋ねください。質問を歓迎します。

②レポート(30%)

講義中にコメント・シートを配布し、質問への回答を求めます(質問に対する回答などにより講義への参加意欲を評価します)。なお、コメント・シートを代筆する(代筆してもらう)など、不誠実な行動が判明した場合には、マイナス評価となります。ご注意ください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ①情報量の多い授業なので、出来る限り出席しノートをとるようにして下さい(毎回、大量のレジュメや資料を配布します)。
- ②配布レジュメや参考文献で予習・復習を行って下さい(特に、復習が大事です)。
- ③日頃から新聞に目を通しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際紛争や国際政治を勉強してきた学生、あるいはそれらに興味関心のある学生の受講を歓迎します。一緒に勉強しましょう!

## キーワード /Keywords

新しい戦争、国家の解体、ユーラシア地域、テロリズム、国家安全保障



# 地球環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地球環境に関して、専門的な知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 地球環境についての情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地球環境論

ENW200M

## 授業の概要 /Course Description

最近の新聞の見出しを見ると、例えば「燃料電池車の発売」「最近、冬が寒いのはなぜ？」「彗星の気体から有機物？」「無人飛行機（ドローン）・電気飛行機？」「メタンハイドレートの埋蔵量は？」「エルニーニョとラニーニャ？」「北極振動・偏西風蛇行」「炭素社会から水素社会に」「PM2.5ってなに？」「ナノマシン？」「宇宙太陽光発電？」などの記事が載っています。これらの内容をどのように理解すればよいのか？難しい世の中になりました。「理系の人間だからこれくらいのことは理解しているでしょう」とか、「文系の人間だから知らなくて当然です」と言いたくなるかもしれません。しかし、今の社会では、これら情報の理解度と真偽の判断が、各人のその後の人生に影響を及ぼすことがあります。

そこで、この授業では、受講する皆さんが地球の環境（地球の現在・過去・未来）について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします（もちろん、社会科学系の話もします。文系・理系の枠を超えた視点にチャレンジしています）。この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えながら話を聞いていただくことです。なるべく、数式や化学式を使わないように話していきますが、これらを利用する際には、基本的な話からはじめて、理解しやすいように工夫をしています。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。資料（ウェブ上より各自ダウンロードしてください）に沿って授業を進めます（パワーポイントを利用します）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書については、第1回目の講義で資料を基に説明します。

# 地球環境論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回「地球の歴史、何がわかっているの？そして、未来は？」【事実と意見の区別】【科学の特徴】【時間と空間のスケール】【授業概要】【参考図書を紹介】
- 2 回「宇宙の始まり」【自然の大きさ】【質量と重さ】【素粒子】【電磁波】
- 3 回「地球の誕生・生物の誕生」【年代測定】【ウイルスとの共生】【光合成生物】【カンブリア爆発】【スノーボール・アースイベント】
- 4 回「人間社会の形成」【ヒトの進化】【人間活動】【自然生態系と人工生態系】
- 5 回「熱収支と四季」【太陽放射と地球放射】【温室効果】【1日の最高気温は何時？】【1年で最も寒い月は？】
- 6 回「水と大気の大循環」【大気鉛直構造】【温度とは？】【大気の大循環】【海洋の深層大循環】
- 7 回「森林消失と生物種絶滅」【熱帯林の破壊】【乾燥地帯の農業】【再生への対処法】
- 8 回「オゾン層破壊・PM2.5」【紫外線】【オゾンとフロン】【オゾンホール】【PM2.5とは？】
- 9 回「温暖化モデルとIPCC」【カオス】【IPCCの作業原則】【予防原則】【最近の気温は？】【私の見解】【天気予報】
- 10 回「間氷期・氷期サイクルと太陽活動」【氷期サイクル】【ミランコビッチサイクル】【太陽活動の異変】
- 11 回「海洋・大気の周期的変動」【北極振動】【太平洋・大西洋の振動】【偏西風の蛇行】【エルニーニョ・ラニーニャ・南方振動】【黒潮の蛇行】
- 12 回「化石燃料から再生可能エネルギーへ」【石油・石炭・天然ガス】【シェールガス】【メタンハイドレート】【水力】【バイオ燃料】【地熱】【太陽電池】【風力】【波力】【原子力】
- 13 回「炭素社会から水素社会に」【燃料電池】【水素発電所】【水素ステーション】【人工光合成】
- 14 回「未来予測」【2050年までの取り組みが大事】【宇宙のこと】【イノベーション加速】【人口予測】【遺伝子工学】【コンピュータ・ロボット技術】【軌道エレベーター】【ナノマシン】【レプリケーター】【テラフォーミング】
- 15 回「まとめ」

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で配布する質問カードへの記入（感想、質問等を記入する）40%、学期末試験60%で総合評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、授業の終わりに質問カードに質問・感想等を記入する時間を取ります。しかし、5～10分程度の短い時間ですので、皆さんは短時間で疑問点や感想を箇条書きできるように、日頃から心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、概要・授業計画をみると分かるように、広範囲な地球の環境について取り上げています。前半は自然科学系の基本的な知識を中心に理解を深めてもらいます。中ほどでは最近、話題となっている地球環境に影響を与えている自然現象や人間活動などについて「その真偽」を中心にお話をします。後半は、基礎知識、最近の現象を踏まえて、これから望ましいエネルギー、社会構造、および未来の予測について、私の考えを述べます。なお、受講生の皆さんが高校の時に理系科目をあまり勉強していなくても、この授業を理解できるように工夫（たとえば、質問カードの記入）をしています。分からないことは遠慮せずにこのカードに書いてください。次回の授業では、質問に答えることが始まります。

## キーワード /Keywords

「事実と意見の区別」「時間・場所的スケール」「地球温暖化予測モデルの精度」「炭素社会から水素社会へ」

# 世界経済論 【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 世界経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 世界経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

世界経済論

ECN255M

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識と考え方を身につけることを目的とする。この授業では、直接投資と多国籍企業、南北問題(先進国と発展途上国の経済格差)や地球環境問題、国際人口移動など、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『第3版 グローバルエコノミー』有斐閣  
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと 第3版』有斐閣  
石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえる Ver.5』東洋経済新報社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の流れ、世界経済の概観
- 2回 直接投資と多国籍企業(1)： 企業・会社とは？
- 3回 直接投資と多国籍企業(2)： 直接投資と多国籍企業とは？
- 4回 世界の中の貧困と格差(1)： 発展途上国の現状と貧困認識
- 5回 世界の中の貧困と格差(2)： 南北問題の出現(1950年代)と開発援助アプローチの変遷(1960、70年代)
- 6回 世界の中の貧困と格差(3)： 開発援助アプローチの変遷(1980年代)、新展開(1990年代以降)
- 7回 アジアにおける地域統合(1)： 戦後アジアの政治経済、地域統合の背景
- 8回 アジアにおける地域統合(2)： アジア地域統合の歩み、ASEANとAPECの新たな展開
- 9回 アジアにおける地域統合(3)： TPPと日本の対応
- 10回 地球環境問題(1)： 地球環境の現状と持続可能な開発
- 11回 地球環境問題(2)： 地球温暖化の原因と現状
- 12回 地球環境問題(3)： 地球温暖化への取り組み
- 13回 国際人口移動(1)： 移民と国際労働力移動、主要国の移民政策
- 14回 国際人口移動(2)： 移民の社会・経済的効果、日本での現状
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...50% 期末試験またはレポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュースを見ると、世界情勢は特に経済の面で激動していることが分かります。この授業をきっかけにして世界経済に関心を持ち、世界経済について正しく理解した上で自分の意見を持てるようになればいいと思います。

## キーワード /Keywords

直接投資・多国籍企業、南北問題、開発援助、地域統合、地球環境問題、国際人口移動

# 国際関係特講Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 足立 カ也 / Rikiya Adachi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 集中 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係に関する特定の事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する特定の情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係特講Ⅰ

IRL290M

## 授業の概要 /Course Description

この講義の獲得目標は、  
①平和学・紛争解決学の基礎を理解すること  
②上記スキームを用いて、国際関係を科学的に分析する力を養うこと  
③平和構築の実践を科学的観点から可能にするキャパシティを養うこと  
である。  
そのために、  
①上記獲得目標に必要な科学的思考を養うための基礎を築く  
②平和学・紛争解決学の基礎を習得する  
③紛争と平和構築の歴史と現状を概観する  
④ケーススタディとしてコスタリカの国際関係を取り上げる  
という段階を踏む。

この授業を履修することによって、兄弟げんかから戦争などの国際紛争まで多様な幅の紛争解決および平和構築のスキルを習得することが期待される。

## 教科書 /Textbooks

「平和ってなんだろう 『軍隊をすてた国』コスタリカから考える」（足立カ也、岩波ジュニア新書、2009年）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「平和学をはじめ」第2版（池尾靖志編、晃洋書房、2004年）  
「ポーボキ、平和って、なに色？」（ロニー・アレキサンダー、エピック、2007年）  
「平和を創る発想術 紛争から和解へ」（ヨハン・ガルトウング、岩波ブックレット、2003年）  
「戦争はなぜ起こるか」（佐藤忠男、ポプラ社、2001年）  
「国際政治を見る眼 - 冷戦から新しい国際秩序へ -」（武者小路公秀、岩波新書、1977年）  
「丸腰国家 軍隊を放棄したコスタリカ 60年の平和戦略」（足立カ也、扶桑社新書、2009年）  
「イラク戦争を検証するための20の論点」（イラク戦争の検証を求めるネットワーク、合同出版、2011年）

# 国際関係特講I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回：定義I～平和学の「学」を定義する～
- 第二回：定義II～平和学の「平和」を定義する～
- 第三回：定義III～平和の「反対」を定義する～
- 第四回：どうやったら平和をつくれるか？～「積極的平和」と「消極的平和」
- 第五回：どうやったら紛争を解決できるか？～紛争解決学と「トランセンド法」
- 第六回：紛争解決・平和構築ワークショップ
- 第七回：世界の紛争の歴史I～抑止論と冷戦～
- 第八回：世界の紛争の歴史II～ポスト冷戦からポスト9.11、「対テロ戦争」まで～
- 第九回：世界の平和構築の歴史～国民国家の形成から民族自立と多文化共生社会まで～
- 第十回：ケーススタディ・コスタリカI～概要・コスタリカってどんな国？～
- 第十一回：ケーススタディ・コスタリカII～国内史・平和をつくる主体となるために必要なこと～
- 第十二回：ケーススタディ・コスタリカIII～外交史・紛争解決・平和構築の実例と実態～
- 第十三回：現代世界が抱える平和問題
- 第十四回：日本が抱える国際関係の中での平和問題
- 第十五回：平和学から未来の世界を展望する

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート：40点
- 日常の授業への取り組み：30点
- 小テスト（2回）：30点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 適宜グループワークを予定しています。
- また、授業中に発言を求めることがあります。
- そこでの発言が「日常の授業への取り組み」の評価対象となります。
- ハードルが高いと思うかもしれませんが、発言さえすれば最低限の点数は得られます。
- 評価のポイントは、知識量の多さではなく、思考がどれだけ科学的・論理的であるかです。
- そのためのポイントは講義の最初に伝えますので、難易度はそれほど高くありません。
- 参考文献は、全てではなくとも可能な限り事前に読んでおくことをお勧めします。
- 授業中は、スマホ・タブレット・PCの持ち込み・使用を自由とします。
- ただし、使うことは自由ですが、使われないよう、また他人の邪魔にならないように注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 平和学は国際関係だけでなく、日常のいろんなところで応用が利くスキルです。
- ぜひこの機会に履修をお勧めします。

## キーワード /Keywords

# 国際関係特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 村岡 美奈 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 集中  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係に関する特定の事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する特定の情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係特講II

IRL291M

## 授業の概要 /Course Description

This course explores the experience of the Jewish people in America. For centuries, Jewish people lived in different parts of the world, and they took diverse paths. Today, American Jewry is known as the largest and most prosperous Jewish community, yet, a century and a half ago, it was still only a minor community. Why did millions of Jews chose to migrate to the United States? The key for the answer can be found in the world events of the time.

This course has two goals. First, to introduce students to the issues associated with immigration, such as economic and political crisis, pogroms, and wars. Second, this course surveys American Jewish experience. Through examining various topics chronologically, the course explores the social, religious, and cultural development of Jewish life in America. The course combines lectures, in-class discussions, and films. We will also look closely to primary sources.

## 教科書 /Textbooks

レイモンド・P・シェインドリッ著 入江規夫訳 『ユダヤ人の歴史』河出文庫 2012年  
(Please read this short book before the first class.)

Additional documents will be provided.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- Martin Goodman ed., The Oxford Handbook of Jewish Studies (Oxford: Oxford University Press, 2003)
- Jeffrey Gurock ed., American Jewish History (New York: Routledge, 1997) 3 volumes.
- Jonathan Sarna, American Judaism: A History (Yale University Press, 2004)

## 国際関係特講II 【昼】

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Citizenship and Jews
3. The Rise of American Jewry
4. Immigrants from Central Europe
5. Commerce, and Economy
6. Immigrants from Eastern Europe
7. Community and Philanthropy
8. World War I
9. Antisemitism and Henry Ford's "The International Jew"
10. Interwar Period
11. World War II and American Jews
12. World War II, Holocaust, and the Establishment of the State of Israel
13. Post WWII
14. Religion and Politics
15. Conclusions

### 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation and Discussion 30%  
Quizzes and Reaction Papers 30%  
Final Paper 40%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

You are expected to arrive on time.  
Students are required to read assigned readings BEFORE class.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

A detailed and updated syllabus will be provided on the first day of the class.

### キーワード /Keywords



# 倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

## 授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

## 教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が毎回、参考文献を紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスとプラトンの倫理思想 【徳と国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想 【信と知】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) マキアヴェリの倫理思想 【共和政とヴィルトゥ】
- 第8回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【オランダの自由】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【理性の神話】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 近代の倫理思想(8) ハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクシヨン・ペーパーを含む) 40パーセント  
講義で紹介した参考文献のどれかを読んで書く期末レポート 60パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。適宜リアクシヨン・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむづかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

# 国際機構論I【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論I

IRL312M

## 授業の概要 /Course Description

現代世界では、少なくとも数百にのぼる国際機構が活動している。これらの機構は、国家や私たちの生活にとっていかなる意味をもつのか。この講義では、第1に、代表的な国際機構である国際連合に焦点を当てて、その設立、目的、任務、制度、活動状況、国家との関係、課題等を学習する。第2に、国際連合のような普遍的機構の先駆といえる国際連盟等にも着目することによって、国際機構の法体系と意思決定方式がいかなる史的展開をみえてきたのかを考察する。

## 教科書 /Textbooks

『国際条約集2015年度版』有斐閣、2015年。  
2014年度以前のものはいない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 国際機構の定義と理論
- 第3回 国際機構の歴史
- 第4回 国際連盟(1)設立の背景と組織
- 第5回 国際連盟(2)活動
- 第6回 国際連合(1)設立の背景
- 第7回 国際連合(2)組織
- 第8回 国際連合(3)活動
- 第9回 国際政治と国際機構(1)国連安保理:概論
- 第10回 国際政治と国際機構(2)国連安保理:ケース・スタディ
- 第11回 国際政治と国際機構(3)国連PKO:概論
- 第12回 国際政治と国際機構(4)国連PKO:ケース・スタディ
- 第13回 国際政治と国際機構(5)国連と日本:概論
- 第14回 国際政治と国際機構(6)国連と日本:ケース・スタディ
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)60%、期末試験40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用する。持参していない者、忘れた者は受講できない。  
ページ数のある教科書のため、附箋と色ペンを用意すると便利。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業では、おそらく最低限のことしか触れることができません。自発的に学んでください。  
日頃からなるべく多くの本を読み、新聞に目を通しましょう。

## キーワード /Keywords

# 国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論II

IRL313M

## 授業の概要 /Course Description

地理的に近接する諸国が独自の国際機構（地域的国際機構）を設立する動きは、現代世界における特質となっている。ヨーロッパ連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、北アメリカ自由貿易協定（NAFTA）、南部共同市場（MERCOSUR）、アラブ連盟、アフリカ連合（AU）、南アジア地域協力連合（SAARC）等は、活動目的や分野が異なれど、そのような動きの代表的なものである。このような動きは、日本が位置する東アジアないし環太平洋の地域でも例外ではなくなりつつある。講義では、第1に、このような動きの先駆となったEUに焦点を当てて、その設立、組織、活動状況を多面的に学びたい。第2に、地域的機構をもつ含意を、現代の日本を取り巻く状況から探究する。

## 教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU 欧州統合の現在 第3版』創元社、2012年。  
初版および第2版とは内容が異なる。第3版を準備すること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

鷲江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年。  
ほか講義中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 地域的国際機構の定義と理論
- 第3回 国際関係の中の地域的国際機構
- 第4回 テキスト「プロローグ」
- 第5回 テキスト第1章（ヨーロッパ共同体の設立）
- 第6回 テキスト第1章（EUの歴史）
- 第7回 テキスト第2章（EUの組織）
- 第8回 テキスト第2章（EUの政策決定）
- 第9回 テキスト第3章（EUの共通政策）
- 第10回 テキスト第3章（EUの人権保護）
- 第11回 テキスト第4章（EUの対外関係）
- 第12回 テキスト「エピローグ」
- 第13回 地域的国際機構とアジア太平洋（1）これまでの経緯
- 第14回 地域的国際機構とアジア太平洋（2）今後の展望
- 第15回 まとめ：主権国家はどのように解体するのか

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（3回）60%、期末試験40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用する。持参していない者、忘れた者は受講できない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業では、おそらく最低限のことが触れることができません。自発的に学んでください。  
日頃からなるべく多くの本を読み、新聞に目を通しましょう。

## キーワード /Keywords

# 国際政治経済論I 【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際政治経済に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際政治経済論I

IRL310M

## 授業の概要 /Course Description

「円安・円高」という言葉と共に為替レートに関するニュースが増加しています。為替レートの変動は貿易や企業の活動に影響を与えるものですが、為替レートとはどのように決まるのでしょうか。それには市場と国家が複雑に関係しているのです。今日の我々の生活を取り巻く環境は、政治と経済、政策決定の国際的要因と国内的要因とが交錯することに特徴があるといえるでしょう。

この授業では、ブレトンウッズ体制を中心とする戦後の国際経済体制の構築と変容を中心に検討し、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について理解を深めると同時に、関連する理論について学習します。

## 教科書 /Textbooks

とくに使用せず、プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門 [第3版]』(有斐閣、2007年)  
細谷千博監修 / 滝田賢治、大芝亮編『国際政治経済 「グローバル・イシュー」の解説と資料』(有信堂、2011年)
- 関下稔『国際政治経済学要論：学際知の挑戦』(晃洋書房、2010年)
- 山田高敬、大矢根聡 [編]『グローバル社会の国際関係論』[新版](有斐閣、2011年)。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. イントロダクション： 国際政治経済学とは何か
2. 現在の国際政治経済システムの特徴と課題【国家、グローバル化】
3. 国際対立の理論【重商主義、ゼロ・サム】
4. 国際協調の理論【自由主義、ポジティブ・サム】
5. マルキシズム【従属論、世界システム論】
6. ブレトンウッズ体制の成立と展開【金・ドル本位制、ワシントン・コンセンサス】
7. ブレトンウッズ体制の変容【ニクソンショック、プラザ合意】
8. GATTの成立と変遷【ITO憲章、例外規定、国際協定コード】
9. 保護貿易をめぐる政治と経済【戦略的通商政策、通商法301条】
10. WTO体制の展開【非関税障壁、紛争処理、コンセンサス方式】
11. 地域経済協定の増加【FTA、原産地規則】
12. 地域統合(1)：北米【地域統合の理論、NAFTA】
13. 地域統合(2)：欧州【EU、共通農業政策、ユーロ】
14. 地域統合(3)：アジア【ASEAN、APEC】
15. 授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：25% ミニレポート：15% 期末試験：60%

# 国際政治経済論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に参考文献を読んでおくことが望ましいです。  
日頃から国際政治経済関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 国際政治経済論II 【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際政治経済に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際政治経済論II

IRL311M

## 授業の概要 /Course Description

「国際政治経済論I」に引き続き国際政治経済の主要な理論について学び、それぞれの理論における異なる世界観、国際問題のとりえ方、問題の位置付けを整理し、理解を深めることを目的としています。

政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題、特に多国籍企業やNGOの活動、地球環境問題、グローゼーションと貧困問題などの学習を通じて、政治（国家）と経済（市場）の相互作用についての理解を深めます。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門 [第3版]』(有斐閣、2007年)
- 細谷千博監修 / 滝田賢治、大芝亮編『国際政治経済 「グローバル・イシュー」の解説と資料』(有信堂、2011年)
- 関下稔『国際政治経済学要論』(見洋書房、2010年)。
- 田中明彦、中西寛 [編]『新・国際政治経済の基礎知識』[新版] (有斐閣、2010年)。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. イントロダクション：ポスト冷戦期の国際政治経済
2. ネオ・リアリズム【覇権安定論、パワー概念】
3. ネオ・リベラリズム【国際レジーム論、囚人のジレンマ】
4. 多国籍企業の発展とグローバルな生産【直接投資、企業誘致】
5. 科学技術と政治経済【テクノ・ナショナリズム、IT革命】
6. グローバリゼーションと知的財産権【TRIPs協定、医薬品特許】
7. コンストラクティビズム【アイデア、構造的変化】
8. 前半の総括
9. 資本規制・自由化の政治経済【協動的資本規制、包括的為替管理、「金融化」】
10. 通貨・金融危機の政治経済【中南米、アジア、IMF】
11. 貧困国の累積債務問題【債務危機、構造調整プログラム】
12. 新興国の台頭と課題【BRICs、G20】
13. ヒトの移動をめぐる国際政治経済【移民政策、移民送金】
14. 食料安全保障と国際政治経済【食料需給、アグリビジネス】
15. 講義のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：25% ミニレポート：15% 期末試験：60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に参考文献を読んでおくことが望ましいです。  
日頃から国際政治経済関係に関する出来事について関心を持ち、新聞を読む習慣を身につけておいてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法I

LAW250M

## 授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。  
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

## 教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○  
参考文献は、初回講義時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

# 国際法I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。  
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。  
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。  
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

## キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

# 国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

## 授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。  
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

## 教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○  
参考文献は、初回講義時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 第1回 コースガイダンス

#### 第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

#### 第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

#### 第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

## 国際法II 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

### キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

# 政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

## 授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 ( J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 ( Elite論・ 多元主義論と Issue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、 無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、 政策の窓 [ Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 ( 首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構 )とその構造 ( 補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係] について理解してもらう。

## 教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 ( 早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730 )
- 『公共政策学の基礎』 ( 秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『現代日本の政策過程』 ( 中野実著 東京大学出版会 ¥ 2,940 )
- 『政治過程論』 ( 伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥ 2,625 )
- 『日本政治の政策過程』 ( 中村昭雄著 芦書房 ¥ 3,568 )
- 『政策過程分析入門』 ( 草野厚著 東京大学出版会 ¥ 2,625 )

# 政策過程論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 ( 事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ )
- 4回 政策過程の理論1 ( 政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc. )
- 5回 政策過程と事例分析1 ( 新聞、インターネットで検索した事例分析 )
- 6回 政策過程の理論2 ( アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓 )
- 7回 政策過程の理論3 ( 無意思決定論、相互浸透理論など )
- 8回 政策過程と事例分析2 ( 新聞、インターネットで検索した事例分析 )
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 ( 実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach )
- 11回 政府間関係と自治体の政策I ( 政府間関係、利益誘導政治 )
- 12回 政府間関係と自治体の政策II ( 地方の変革・ 事例：名古屋市 )
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 ( 個別事業 ) を選び、その政策過程を分析、検討

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表-30%、本のレポート-20%、 期末試験-50%  
( レポートの未提出者・ 発表をしていない学生は期末試験を受けることができない。 )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・ 授業内容については、  
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>  
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>  
を参照し、準備する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

公私、社会的ディレンマ、  
公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、  
利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、  
ネットワーク。



# 英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A

ENG161M

## 授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

Get Your Message Across / Nan'un-do, 2008.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文法書

※"Grammar in Use" シリーズなど

○Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.

○『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

# 英文法・英作文A【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス ( テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明、Writing Guide )
- 第2回 Chapter 1: What is a Paragraph? パラグラフとは？
- 第3回 Chapter 2: The Topic Sentence 主題文とは？
- 第4回 Chapter 3: Supporting Sentences 支持文とは？
- 第5回 Chapter 4: Time Order 時間の順序
- 第6回 Chapter 5: Space Order 空間の順序
- 第7回 Chapter 6: Process and Direction 過程・手順と指示
- 第8回 Chapter 7: Cause and Effect 因果関係による展開
- 第9回 Chapter 8: Examples 例示による展開
- 第10回 Chapter 9: Definition 定義による展開
- 第11回 Chapter 10: Classification 分類による展開
- 第12回 Chapter 11: Comparison and Contrast 比較・対照による展開
- 第13回 Chapter 12: Review まとめと復習
- 第14回 Chapter 13: From a Paragraph to a Short Essay パラグラフから小論文へ
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テストや課題提出含む ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

## キーワード /Keywords

# 英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A

ENG161M

## 授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

Get Your Message Across / Nan'un-do, 2008.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

英文法書

※"Grammar in Use" シリーズなど

○Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.

○『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

# 英文法・英作文A【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス ( テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明、Writing Guide )
- 第2回 Chapter 1: What is a Paragraph? パラグラフとは？
- 第3回 Chapter 2: The Topic Sentence 主題文とは？
- 第4回 Chapter 3: Supporting Sentences 支持文とは？
- 第5回 Chapter 4: Time Order 時間の順序
- 第6回 Chapter 5: Space Order 空間の順序
- 第7回 Chapter 6: Process and Direction 過程・手順と指示
- 第8回 Chapter 7: Cause and Effect 因果関係による展開
- 第9回 Chapter 8: Examples 例示による展開
- 第10回 Chapter 9: Definition 定義による展開
- 第11回 Chapter 10: Classification 分類による展開
- 第12回 Chapter 11: Comparison and Contrast 比較・対照による展開
- 第13回 Chapter 12: Review まとめと復習
- 第14回 Chapter 13: From a Paragraph to a Short Essay パラグラフから小論文へ
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テストや課題提出含む ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

## キーワード /Keywords

# 英文法・英作文A 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A

ENG161M

## 授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

Get Your Message Across / Nan'un-do, 2008.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文法書

※"Grammar in Use" シリーズなど

○Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.

○『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

# 英文法・英作文A【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス ( テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明、Writing Guide )
- 第2回 Chapter 1: What is a Paragraph? パラグラフとは？
- 第3回 Chapter 2: The Topic Sentence 主題文とは？
- 第4回 Chapter 3: Supporting Sentences 支持文とは？
- 第5回 Chapter 4: Time Order 時間の順序
- 第6回 Chapter 5: Space Order 空間の順序
- 第7回 Chapter 6: Process and Direction 過程・手順と指示
- 第8回 Chapter 7: Cause and Effect 因果関係による展開
- 第9回 Chapter 8: Examples 例示による展開
- 第10回 Chapter 9: Definition 定義による展開
- 第11回 Chapter 10: Classification 分類による展開
- 第12回 Chapter 11: Comparison and Contrast 比較・対照による展開
- 第13回 Chapter 12: Review まとめと復習
- 第14回 Chapter 13: From a Paragraph to a Short Essay パラグラフから小論文へ
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テストや課題提出含む ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

## キーワード /Keywords

# 英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A

ENG161M

## 授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

Get Your Message Across / Nan'un-do, 2008.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文法書

※"Grammar in Use" シリーズなど

○Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.

○『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

# 英文法・英作文A【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス ( テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明、Writing Guide )
- 第2回 Chapter 1: What is a Paragraph? パラグラフとは？
- 第3回 Chapter 2: The Topic Sentence 主題文とは？
- 第4回 Chapter 3: Supporting Sentences 支持文とは？
- 第5回 Chapter 4: Time Order 時間の順序
- 第6回 Chapter 5: Space Order 空間の順序
- 第7回 Chapter 6: Process and Direction 過程・手順と指示
- 第8回 Chapter 7: Cause and Effect 因果関係による展開
- 第9回 Chapter 8: Examples 例示による展開
- 第10回 Chapter 9: Definition 定義による展開
- 第11回 Chapter 10: Classification 分類による展開
- 第12回 Chapter 11: Comparison and Contrast 比較・対照による展開
- 第13回 Chapter 12: Review まとめと復習
- 第14回 Chapter 13: From a Paragraph to a Short Essay パラグラフから小論文へ
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テストや課題提出含む ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

## キーワード /Keywords



# 英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B

ENG162M

## 授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

## 教科書 /Textbooks

Ready to Write 3 / Pearson Education, 2010.  
Karen Blanchard and Christine Root

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文法書

※"Grammar in Use" シリーズなど

○Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.

○『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

# 英文法・英作文B【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス ( テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
第2回	Chapter 1 Getting Ready to Write 英文パラグラフライティングの復習 ( 1 )
第3回	Chapter 2 Writing Paragraphs 英文パラグラフライティングの復習 ( 2 )
第4回	Chapter 3 Revising and Editing 英文ライティングの修正・訂正方法の復習
第5回	Chapter 4 Writing Essays 英文エッセイライティングの基本を学ぶ
第6回	Chapter 5 Process Essays 過程を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
第7回	Chapter 6 Division and Classification Essays 分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
第8回	Review (1)
第9回	Chapter 7 Cause and Effect Essays 原因と結果を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
第10回	Chapter 8 Comparison and Contrast Essays 比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ
第11回	Chapter 9 Problem-Solution Essays 問題解決型英文エッセイの書き方を学ぶ
第12回	Chapter 10 Writing Summaries 要約文の書き方を学ぶ
第13回	Chapter 11 Expressing Your Opinions 意見を述べる英文エッセイの書き方を学ぶ
第14回	Chapter 12 Writing Undergraduate and Graduate Application Essays 志望動機書の書き方を学ぶ
第15回	Review (2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テストや課題提出含む ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキスト以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

## キーワード /Keywords

# 英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B

ENG162M

## 授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

## 教科書 /Textbooks

Ready to Write 3 / Pearson Education, 2010.  
Karen Blanchard and Christine Root

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文法書

※"Grammar in Use" シリーズなど

○Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.

○『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

# 英文法・英作文B【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス ( テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Chapter 1 Getting Ready to Write 英文パラグラフライティングの復習 ( 1 )
- 第3回 Chapter 2 Writing Paragraphs 英文パラグラフライティングの復習 ( 2 )
- 第4回 Chapter 3 Revising and Editing 英文ライティングの修正・訂正方法の復習
- 第5回 Chapter 4 Writing Essays 英文エッセイライティングの基本を学ぶ
- 第6回 Chapter 5 Process Essays 過程を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第7回 Chapter 6 Division and Classification Essays 分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第8回 Review (1)
- 第9回 Chapter 7 Cause and Effect Essays 原因と結果を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第10回 Chapter 8 Comparison and Contrast Essays 比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第11回 Chapter 9 Problem-Solution Essays 問題解決型英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第12回 Chapter 10 Writing Summaries 要約文の書き方を学ぶ
- 第13回 Chapter 11 Expressing Your Opinions 意見を述べる英文エッセイの書き方を学ぶ
- 第14回 Chapter 12 Writing Undergraduate and Graduate Application Essays 志望動機書の書き方を学ぶ
- 第15回 Review (2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テストや課題提出含む ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキスト以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

## キーワード /Keywords

# 英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B

ENG162M

## 授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

## 教科書 /Textbooks

Ready to Write 3 / Pearson Education, 2010.  
Karen Blanchard and Christine Root

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文法書

※"Grammar in Use" シリーズなど

○Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.

○『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

# 英文法・英作文B【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス ( テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
第2回	Chapter 1 Getting Ready to Write 英文パラグラフライティングの復習 ( 1 )
第3回	Chapter 2 Writing Paragraphs 英文パラグラフライティングの復習 ( 2 )
第4回	Chapter 3 Revising and Editing 英文ライティングの修正・訂正方法の復習
第5回	Chapter 4 Writing Essays 英文エッセイライティングの基本を学ぶ
第6回	Chapter 5 Process Essays 過程を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
第7回	Chapter 6 Division and Classification Essays 分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
第8回	Review (1)
第9回	Chapter 7 Cause and Effect Essays 原因と結果を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
第10回	Chapter 8 Comparison and Contrast Essays 比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ
第11回	Chapter 9 Problem-Solution Essays 問題解決型英文エッセイの書き方を学ぶ
第12回	Chapter 10 Writing Summaries 要約文の書き方を学ぶ
第13回	Chapter 11 Expressing Your Opinions 意見を述べる英文エッセイの書き方を学ぶ
第14回	Chapter 12 Writing Undergraduate and Graduate Application Essays 志望動機書の書き方を学ぶ
第15回	Review (2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テストや課題提出含む ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキスト以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

## キーワード /Keywords

# 英文法・英作文B【昼】

担当者名 富永 美喜 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B

ENG162M

## 授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

## 教科書 /Textbooks

Ready to Write 3 / Pearson Education, 2010.  
Karen Blanchard and Christine Root

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文法書

※"Grammar in Use" シリーズなど

○Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.

○『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

# 英文法・英作文B【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス ( テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
第2回	Chapter 1 Getting Ready to Write 英文パラグラフライティングの復習 ( 1 )
第3回	Chapter 2 Writing Paragraphs 英文パラグラフライティングの復習 ( 2 )
第4回	Chapter 3 Revising and Editing 英文ライティングの修正・訂正方法の復習
第5回	Chapter 4 Writing Essays 英文エッセイライティングの基本を学ぶ
第6回	Chapter 5 Process Essays 過程を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
第7回	Chapter 6 Division and Classification Essays 分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
第8回	Review (1)
第9回	Chapter 7 Cause and Effect Essays 原因と結果を示す英文エッセイの書き方を学ぶ
第10回	Chapter 8 Comparison and Contrast Essays 比較対照型英文エッセイの書き方を学ぶ
第11回	Chapter 9 Problem-Solution Essays 問題解決型英文エッセイの書き方を学ぶ
第12回	Chapter 10 Writing Summaries 要約文の書き方を学ぶ
第13回	Chapter 11 Expressing Your Opinions 意見を述べる英文エッセイの書き方を学ぶ
第14回	Chapter 12 Writing Undergraduate and Graduate Application Essays 志望動機書の書き方を学ぶ
第15回	Review (2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テストや課題提出含む ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキスト以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

## キーワード /Keywords



# English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A

ENG101M

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.  
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%  
Assignments 20%, Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum1A 【昼】

担当者名  
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A

ENG101M

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.  
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%  
Assignments 20%, Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A

ENG101M

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.  
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%  
Assignments 20%, Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A

ENG101M

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.  
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%  
Assignments 20%, Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B	ENG111M
---------------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.  
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Recap of first semester  
Week 2 Unit 6: Food  
Week 3 Unit 6: understanding visuals  
Week 4 Unit 7: Our Active Earth  
Week 5 Unit 7: using transitions  
Week 6 Unit 8: Cultures  
Week 7 Unit 8: making inferences  
Week 8 Unit 8: evaluating ideas  
Week 9 Unit 9: Species Survival  
Week 10 Unit 9: graphical organization  
Week 11 Unit 9: cause and effect  
Week 12 Unit 10: Entrepreneurs  
Week 13 Unit 10: evaluating information  
Week 14 Unit 10: speculating  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%  
Assignments 20%, Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# English Practicum1B 【昼】

専門教育科目  
外国語科目  
英語必修

## 履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# English Practicum1B 【昼】

担当者名  
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B

ENG111M

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.  
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Recap of first semester  
Week 2 Unit 6: Food  
Week 3 Unit 6: understanding visuals  
Week 4 Unit 7: Our Active Earth  
Week 5 Unit 7: using transitions  
Week 6 Unit 8: Cultures  
Week 7 Unit 8: making inferences  
Week 8 Unit 8: evaluating ideas  
Week 9 Unit 9: Species Survival  
Week 10 Unit 9: graphical organization  
Week 11 Unit 9: cause and effect  
Week 12 Unit 10: Entrepreneurs  
Week 13 Unit 10: evaluating information  
Week 14 Unit 10: speculating  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%  
Assignments 20%, Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# English Practicum1B 【昼】

専門教育科目  
外国語科目  
英語必修

## 履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# English Practicum1B 【昼】

担当者名  
/Instructor

アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B

ENG111M

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.  
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Recap of first semester  
Week 2 Unit 6: Food  
Week 3 Unit 6: understanding visuals  
Week 4 Unit 7: Our Active Earth  
Week 5 Unit 7: using transitions  
Week 6 Unit 8: Cultures  
Week 7 Unit 8: making inferences  
Week 8 Unit 8: evaluating ideas  
Week 9 Unit 9: Species Survival  
Week 10 Unit 9: graphical organization  
Week 11 Unit 9: cause and effect  
Week 12 Unit 10: Entrepreneurs  
Week 13 Unit 10: evaluating information  
Week 14 Unit 10: speculating  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%  
Assignments 20%, Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# English Practicum1B 【昼】

専門教育科目  
外国語科目  
英語必修

## 履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# English Practicum1B 【昼】

担当者名  
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B

ENG111M

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.  
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Recap of first semester  
Week 2 Unit 6: Food  
Week 3 Unit 6: understanding visuals  
Week 4 Unit 7: Our Active Earth  
Week 5 Unit 7: using transitions  
Week 6 Unit 8: Cultures  
Week 7 Unit 8: making inferences  
Week 8 Unit 8: evaluating ideas  
Week 9 Unit 9: Species Survival  
Week 10 Unit 9: graphical organization  
Week 11 Unit 9: cause and effect  
Week 12 Unit 10: Entrepreneurs  
Week 13 Unit 10: evaluating information  
Week 14 Unit 10: speculating  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%  
Assignments 20%, Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# English Practicum1B 【昼】

専門教育科目  
外国語科目  
英語必修

## 履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A

ENG261M

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.  
Global Issues Towards Peace / Nan'un Do, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Global Issues Towards Peace (GITP) Unit 1: Education and Gender
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom or Expression?
- 第4回 GITP Unit 2: Global Warming
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 GITP Unit 3: Drinking Water
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 GITP Unit 4: Poverty and Hunger
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 GITP Unit 5: Fighting Disease
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 GITP Unit 6: Terrorism
- 第13回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第14回 GITP Unit 7: Internment
- 第15回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テスト、課題提出等 ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

# 英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A	ENG261M
--------	---------

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.  
Global Issues Towards Peace / Nan'un Do, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Global Issues Towards Peace (GITP) Unit 1: Education and Gender
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom or Expression?
- 第4回 GITP Unit 2: Global Warming
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 GITP Unit 3: Drinking Water
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 GITP Unit 4: Poverty and Hunger
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 GITP Unit 5: Fighting Disease
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 GITP Unit 6: Terrorism
- 第13回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第14回 GITP Unit 7: Internment
- 第15回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テスト、課題提出等 ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

# 英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 / 講義・実習 クラス /Class 2 - 3 / 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A

ENG261M

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.  
Global Issues Towards Peace / Nan'un Do, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Global Issues Towards Peace (GITP) Unit 1: Education and Gender
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom or Expression?
- 第4回 GITP Unit 2: Global Warming
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 GITP Unit 3: Drinking Water
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 GITP Unit 4: Poverty and Hunger
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 GITP Unit 5: Fighting Disease
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 GITP Unit 6: Terrorism
- 第13回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第14回 GITP Unit 7: Internment
- 第15回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テスト、課題提出等 ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

# 英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A

ENG261M

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.  
Global Issues Towards Peace / Nan'un Do, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Global Issues Towards Peace (GITP) Unit 1: Education and Gender
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom or Expression?
- 第4回 GITP Unit 2: Global Warming
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 GITP Unit 3: Drinking Water
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 GITP Unit 4: Poverty and Hunger
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 GITP Unit 5: Fighting Disease
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 GITP Unit 6: Terrorism
- 第13回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第14回 GITP Unit 7: Internment
- 第15回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テスト、課題提出等 ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords



# 英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B

ENG2B2M

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.  
Global Issues Towards Peace / Nan'un Do, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Global Issues Towards Peace (GITP) Unit 8: Atomic Weapons
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 GITP Unit 9: Genocide and Crimes against Humanity
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 GITP Unit 10: Landmines
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 GITP Unit 11: Refugees
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 GITP Unit 12: Nelson Mandela
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 GITP Unit 13: Aung San Suu Kyi
- 第13回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第14回 GITP Unit 14: The Red Cross and Red Crescent Movement
- 第15回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テスト、課題提出等 ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

# 英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B

ENG2B2M

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.  
Global Issues Towards Peace / Nan'un Do, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Global Issues Towards Peace (GITP) Unit 8: Atomic Weapons
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 GITP Unit 9: Genocide and Crimes against Humanity
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 GITP Unit 10: Landmines
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 GITP Unit 11: Refugees
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 GITP Unit 12: Nelson Mandela
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 GITP Unit 13: Aung San Suu Kyi
- 第13回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第14回 GITP Unit 14: The Red Cross and Red Crescent Movement
- 第15回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テスト、課題提出等 ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

# 英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 / 講義・実習 クラス /Class 2 - 3 / 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B	ENG2B2M
--------	---------

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.  
Global Issues Towards Peace / Nan'un Do, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Global Issues Towards Peace (GITP) Unit 8: Atomic Weapons
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 GITP Unit 9: Genocide and Crimes against Humanity
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 GITP Unit 10: Landmines
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 GITP Unit 11: Refugees
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 GITP Unit 12: Nelson Mandela
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 GITP Unit 13: Aung San Suu Kyi
- 第13回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第14回 GITP Unit 14: The Red Cross and Red Crescent Movement
- 第15回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テスト、課題提出等 ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

# 英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B

ENG2B2M

## 授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.  
Global Issues Towards Peace / Nan'un Do, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明 )
- 第2回 Global Issues Towards Peace (GITP) Unit 8: Atomic Weapons
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 GITP Unit 9: Genocide and Crimes against Humanity
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 GITP Unit 10: Landmines
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 GITP Unit 11: Refugees
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 GITP Unit 12: Nelson Mandela
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 GITP Unit 13: Aung San Suu Kyi
- 第13回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第14回 GITP Unit 14: The Red Cross and Red Crescent Movement
- 第15回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 ( 小テスト、課題提出等 ) 50%、学期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords



# English Practicum2A 【昼】

担当者名  
/Instructor

クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A

ENG201M

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman  
Paulette Dale

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction  
Week 2 Chapter 1: Getting Started  
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery  
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!  
Week 5 Speech 1: About Me!  
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object  
Week 7 Speech 3: My Worst Fear  
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews  
Week 9 Speech 4: Report on an Interview  
Week 10 Chapter 5: Explain It!  
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing  
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)  
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising  
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



キーワード /Keywords

# English Practicum2A 【昼】

担当者名  
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A

ENG201M

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman  
Paulette Dale

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction  
Week 2 Chapter 1: Getting Started  
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery  
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!  
Week 5 Speech 1: About Me!  
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object  
Week 7 Speech 3: My Worst Fear  
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews  
Week 9 Speech 4: Report on an Interview  
Week 10 Chapter 5: Explain It!  
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing  
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)  
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising  
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum2A 【昼】

担当者名  
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A

ENG201M

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman  
Paulette Dale

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction  
Week 2 Chapter 1: Getting Started  
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery  
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!  
Week 5 Speech 1: About Me!  
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object  
Week 7 Speech 3: My Worst Fear  
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews  
Week 9 Speech 4: Report on an Interview  
Week 10 Chapter 5: Explain It!  
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing  
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)  
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising  
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# English Practicum2B 【昼】

担当者名  
/Instructor

クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B

ENG211M

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman  
Paulette Dale

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction  
Week 2 Chapter 6: Demonstrate It!  
Week 3 Presentation 1: Demonstrate It!  
Week 4 Chapter 7: Communication Across Cultures  
Week 5 Presentation 2: A Culture Conflict  
Week 6 Chapter 8: Convince Me!  
Week 7 Persuasive Speech - Outlining and Writing  
Week 8 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1 and 2)  
Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3 and 4)  
Week 10 Persuasive Speech - Writing and Revising  
Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1 and 2)  
Week 12 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3 and 4)  
Week 13 Chapter 9: Let's Discuss It!  
Week 14 Discussion  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B

ENG211M

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman  
Paulette Dale

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Chapter 6: Demonstrate It!
- Week 3 Presentation 1: Demonstrate It!
- Week 4 Chapter 7: Communication Across Cultures
- Week 5 Presentation 2: A Culture Conflict
- Week 6 Chapter 8: Convince Me!
- Week 7 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- Week 8 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1 and 2)
- Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3 and 4)
- Week 10 Persuasive Speech - Writing and Revising
- Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1 and 2)
- Week 12 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3 and 4)
- Week 13 Chapter 9: Let's Discuss It!
- Week 14 Discussion
- Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum2B 【昼】

担当者名  
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B

ENG211M

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman  
Paulette Dale

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction  
Week 2 Chapter 6: Demonstrate It!  
Week 3 Presentation 1: Demonstrate It!  
Week 4 Chapter 7: Communication Across Cultures  
Week 5 Presentation 2: A Culture Conflict  
Week 6 Chapter 8: Convince Me!  
Week 7 Persuasive Speech - Outlining and Writing  
Week 8 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1 and 2)  
Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3 and 4)  
Week 10 Persuasive Speech - Writing and Revising  
Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1 and 2)  
Week 12 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3 and 4)  
Week 13 Chapter 9: Let's Discuss It!  
Week 14 Discussion  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum2B 【昼】

担当者名  
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B

ENG211M

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman  
Paulette Dale

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction  
Week 2 Chapter 6: Demonstrate It!  
Week 3 Presentation 1: Demonstrate It!  
Week 4 Chapter 7: Communication Across Cultures  
Week 5 Presentation 2: A Culture Conflict  
Week 6 Chapter 8: Convince Me!  
Week 7 Persuasive Speech - Outlining and Writing  
Week 8 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1 and 2)  
Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3 and 4)  
Week 10 Persuasive Speech - Writing and Revising  
Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1 and 2)  
Week 12 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3 and 4)  
Week 13 Chapter 9: Let's Discuss It!  
Week 14 Discussion  
Week 15 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語論文作成法I【昼】

担当者名  
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探索することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I

ENG361M

## 授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

## 教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning  
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process  
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph  
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph  
Week 4 Unit 6: Process Paragraph  
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph  
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph  
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph  
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph  
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph  
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph  
Week 11 Unit 13: About the Essay  
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay  
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning  
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches  
Week 15 Examination Essay

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%  
Class Performance 15%  
Assigned homework essays 60%

# 英語論文作成法I 【昼】

専門教育科目  
外国語科目  
英語必修

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語論文作成法I 【昼】

担当者名  
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I

ENG361M

## 授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

## 教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning  
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process  
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph  
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph  
Week 4 Unit 6: Process Paragraph  
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph  
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph  
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph  
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph  
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph  
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph  
Week 11 Unit 13: About the Essay  
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay  
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning  
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches  
Week 15 Examination Essay

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%  
Class Performance 15%  
Assigned homework essays 60%

# 英語論文作成法I 【昼】

専門教育科目  
外国語科目  
英語必修

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語論文作成法I【昼】

担当者名  
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I

ENG361M

## 授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

## 教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning  
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process  
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph  
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph  
Week 4 Unit 6: Process Paragraph  
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph  
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph  
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph  
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph  
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph  
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph  
Week 11 Unit 13: About the Essay  
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay  
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning  
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches  
Week 15 Examination Essay

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%  
Class Performance 15%  
Assigned homework essays 60%

# 英語論文作成法I 【昼】

専門教育科目  
外国語科目  
英語必修

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語論文作成法I【昼】

担当者名  
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探索することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I

ENG361M

## 授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

## 教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning  
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process  
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph  
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph  
Week 4 Unit 6: Process Paragraph  
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph  
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph  
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph  
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph  
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph  
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph  
Week 11 Unit 13: About the Essay  
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay  
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning  
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches  
Week 15 Examination Essay

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%  
Class Performance 15%  
Assigned homework essays 60%

# 英語論文作成法I 【昼】

専門教育科目  
外国語科目  
英語必修

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語論文作成法II 【昼】

担当者名  
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次  
/Year

単位 2単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 講義・実習  
/Class Format

クラス 3 - 1  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法II

ENG362M

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English.  
Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

## 教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning  
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

# 英語論文作成法II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%  
Mid and Final Semester Tests 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英語論文作成法II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%  
Mid and Final Semester Tests 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語論文作成法II 【昼】

担当者名  
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次  
/Year

単位 2単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態  
/Class Format

講義・実習

クラス 3 - 3  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法II

ENG362M

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English.  
Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

## 教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning  
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

# 英語論文作成法II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%  
Mid and Final Semester Tests 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語論文作成法II 【昼】

担当者名  
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次  
/Year

単位 2単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態  
/Class Format

講義・実習

クラス 3 - 4  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
	専門分野のスキル			
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。	
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法II

ENG362M

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English.  
Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

## 教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning  
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

# 英語論文作成法II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%  
Mid and Final Semester Tests 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# English Practicum3A 【昼】

担当者名  
/Instructor

ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A

ENG301M

## 授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 3 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A

ENG301M

## 授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum3A 【昼】

担当者名  
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A

ENG301M

## 授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum3A 【昼】

担当者名  
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A

ENG301M

## 授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# English Practicum3B 【昼】

担当者名  
/Instructor

ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B

ENG311M

## 授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B

ENG311M

## 授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum3B 【昼】

担当者名  
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B

ENG311M

## 授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# English Practicum3B 【昼】

担当者名  
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B

ENG311M

## 授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese-English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英語学に関する基礎的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 英語学に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力	
	其他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学概論

LIN130M

## 授業の概要 /Course Description

統語論、意味論、形態論、音声学等、英語の言語的側面を概観し、インターネットの利用や実践を通して理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

“First Steps in English Linguistics” by T. Kageyama et al. (くろしお出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 Introduction: Language 【onomatopoeia】
- 第2回 Linguistics 【language acquisition】 【overgeneralization】 【UG】
- 第3回 MorphologyI 【morpheme】 【Compound Stress Rule】 【Phrasal Stress Rule】
- 第4回 MorphologyII 【derivation】 【conversion】 【inflection】 【clipping】 【blending】
- 第5回 SemanticsI 【conceptual meaning】 【associative meaning】 【entailment】 【categorization】
- 第6回 SemanticsII 【hyponymy】 【meronymy】 【synonymy】 【antonymy】 【polysemy】 【metaphor】
- 第7回 SyntaxI 【movement】 【deletion】 【pro-form】 【coordination】
- 第8回 SyntaxII 【labeled bracketing】 【tree diagram】 【phrase structure】
- 第9回 Phonetics and PhonologyI 【pitch】 【intonation】 【accent】 【syllable】
- 第10回 Phonetics and PhonologyII 【organs of speech】 【vowels】 【consonants】
- 第11回 SociolinguisticsI 【world Englishes】 【regional dialects】
- 第12回 SociolinguisticsII 【American English】 【British English】 【Canadian English】
- 第13回 The History of EnglishI 【Old English】 【Middle English】 【Modern English】
- 第14回 The History of EnglishII 【Proto-Indo-European】 【Great Vowel Shift】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物を含む) 40%、期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。重要な専門用語を中心に、授業内容をまとめたノートを作成する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 原書講読【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	グローバル化社会の諸科目について、知識と理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	自ら調査・研究を行って、諸問題を多角的に捉え、思考することができる。
	英語力	●	英語で書かれた文献や学術論文などを正確に理解する高度な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原書講読

ENG312M

## 授業の概要 /Course Description

短編を読み進めて多文化社会の様々な声に耳を傾けることで、民族、人種、性、言語、宗教、思想等において多様な背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

Imagining America: Stories from the Promised Land (Revised Edition)  
Edited by Wesley Brown and Amy Ling (New York: Persea Books, 2002.)

※詳しくは第1回目の授業内で指示します。

※教科書をあらかじめ各自で入手しても構いません。その場合は授業開始時までに読み進めておくことをおすすめします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction ( 授業の概要、成績評価方法などの説明 )
- 第2回 "Private Property"
- 第3回 "The Man to Send Rain Clouds"
- 第4回 "American Horse"
- 第5回 "Desirée's Baby"
- 第6回 "Elethia"
- 第7回 "Boyz n the Hood" (film)
- 第8回 "They Won't Crack It Open"
- 第9回 "Japanese Hamlet"
- 第10回 "Silver Pavements, Golden Roofs"
- 第11回 "The German Refugee"
- 第12回 "A Letter to Harvey Milk"
- 第13回 "Thank God for the Jews"
- 第14回 "The Pilgrim"
- 第15回 "Children of the Sea"

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ( 発表・課題提出 ) ...40%  
小テスト...20%  
期末試験...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 原書講読【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

各回で扱う文献は必ず読んで授業にのぞんでください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は議論形式で進めるので、議論には積極的に参加してください。

### キーワード /Keywords

多様性、移動、文化的アイデンティティ

# 国際関係概論 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科  
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科  
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科  
阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科  
李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科, 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会科学の基本的な知識や個々の地域の特性についておおそ理解する。
技能	専門分野のスキル	●	一定の方向付けを受けて、自分の力で、情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係概論

IRL100M

## 授業の概要 /Course Description

新入生が中等教育段階までに習得した知識を確認し、それらを大学での専門分野に接合するため、双方をにらんだテーマ・素材を用いて、学生自身に考える機会を提供する。多様な地域を対象として、国民国家を中心とする国際社会の形成・変容や人々が生活する社会・環境の変化を踏まえ、現在の世界が抱える諸問題を検討する。

## 教科書 /Textbooks

授業の最初に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の最初に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールは、都合により順番が前後する場合がある。

- ガイダンス
- 資料収集の方法と基本的用語(1)【図書館】【語彙力】
- 資料収集の方法と基本的用語(2)【図書館】【語彙力】
- 近代国際社会の形成【ウエストファリア体制】【封建制】【植民地建設】
- 国民国家とナショナリズム【国民】【革命】
- 社会主義・共産主義【マルクス主義】【一国社会主義】
- 人の国際移動【移民】【同化】【国民統合】
- 植民地化と脱植民地化【国民国家】【帝国主義】【権威主義体制】
- 東アジアのナショナリズム【歴史克服】【和解】
- 文学作品における国際関係【文化的アイデンティティ】
- 国際関係に対する3つの見方【リアリズム】【リベラリズム】【コンストラクティヴィズム】
- 戦争の違法化と集団の安全保障【国際連盟】【国際連合】
- 新自由主義と貧困・格差【ワシントン・コンセンサス】【絶対的貧困】【相対的貧困】
- 地球環境問題【持続可能な開発】【京都議定書】【排出量取引】
- グローバリゼーションと地域主義【グローバリズム】【FTA】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・レポート(100%)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

各回の担当者の指示に従うこと。クラス単位の回があるので、注意すること。  
授業中の私語は厳禁。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質問などは授業中にするのが望ましいが、復習時に出てきた疑問などについてはオフィス・アワーを極力利用すること。

## キーワード /Keywords

# 国際関係の争点【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互関連性について理解している。
技能	専門分野のスキル	● 国際社会が抱える課題について情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の争点

IRL101M

## 授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的な脈絡からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

## 教科書 /Textbooks

日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』法律文化社、2013年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』有信堂高文社、2015年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第2回 「東アジアにおける安全保障環境の変化」(1)【米軍のリバランス戦略】【中国の海洋進出】【尖閣問題】
- 第3回 「東アジアにおける安全保障環境の変化」(2)【国家安全保障会議】【防衛装備移転三原則】【集団的自衛権】
- 第4回 「新しい安全保障観」【人間の安全保障】
- 第5回 「保護する責任」(1)【人道的介入】【コンゴ紛争】【内政不干渉原則】
- 第6回 「保護する責任」(2)【ICISS】
- 第7回 「人の非自発的移動」【難民】【国内避難民】【ディアスポラ】
- 第8回 「アフリカ情勢」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
- 第9回 「中東情勢」【イスラエル、パレスチナ】【アラブの春】【イスラム国】
- 第10回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第11回 「食と環境」【遺伝子組み換え作物】
- 第12回 「エネルギー問題」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第13回 「感染症」【HIV/AIDS】【結核】【マラリア】
- 第14回 「国家間貿易」【WTOレジーム】【TPP】【FTA/EPA】
- 第15回 「公正な貿易」【フェアトレード】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・30% 学期末試験・・・70%  
(レポートは上記教科書から課題を出します。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

平素から新聞を読んだり、関連の新书を読むように心がけると授業内容の理解に役立ちます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords



# 国際関係史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係史について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係史に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係史

IRL201M

## 授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

第1回～第7回、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』（慶応義塾大学出版会 2013）  
第8回～第15回、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』（有斐閣 2014）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、教科書の「はじめに」
- 2回 朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【征韓論】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 6回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 7回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 第二次世界大戦から冷戦へ 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本(1回分の量はA4用紙3～4枚程度) 50% 期末テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

二人の先生の担当授業です(1～7回金鳳珍、8～15回中野博文)。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習。関連文献を自主的によむこと。

## キーワード /Keywords

# 国際関係の理論【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係の理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の理論

IRL200M

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したこと、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したこと、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったことなどで表されます。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

## 教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. 国際関係学の誕生と展開【理想主義、現実主義】
2. 国際社会と主権国家【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. リベラリズム【相互依存、機能主義】
7. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
8. 前半の総括
9. コンストラクティヴィズム【アイデア、間主観性】
10. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
11. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
12. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
13. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
14. アクターとしてのNGO【規範起業家、プライベート・レジーム】
15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

# 国際関係の理論【昼】

専門教育科目  
専門基礎科目  
必修

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：25% ミニレポート：15% 期末試験：60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくことを期待します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国研究概論

ARE111M

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、主に社会科学の観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。建国から60年以上を経て中国は世界有数の経済大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、授業の前半では、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの問題を抱えたまま経済成長路線を走り続けなくてはならない中国の現状について解説する。後半では、国際社会との関係を軸に中国を論じる。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。  
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年
- 吉岡桂子『愛国経済 中国の全球化』朝日新聞出版、2008年
- 興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
- 2回 中国研究の基礎知識
- 3回 共産党一党支配体制I【経済体制】
- 4回 共産党一党支配体制II【政治体制】
- 5回 中央と地方
- 6回 メディアと情報統制
- 7回 経済格差I【所得】
- 8回 経済格差II【社会、民族】
- 9回 民族
- 10回 台湾I【日台関係】
- 11回 台湾II【中台関係】
- 12回 中国と国際関係
- 13回 中国脅威論
- 14回 日中関係
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90 % 日常の授業への取り組み ... 10 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。  
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の変化は大変激しいので、日々、新聞の紙面で何が起きているのか確認することが重要です。授業では、その日の講義内容と関連する最新ニュースを取り上げることがよくあります。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮半島研究概論 【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 近現代の朝鮮半島情勢について、基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 朝鮮半島情勢について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

朝鮮半島研究概論

ARE112M

## 授業の概要 /Course Description

いま不幸にも朝鮮半島は国土が南北に分断されているが、その社会の固有の文化は長きにわたって、日本社会に大きな影響を及ぼしてきた。この講義では、日本との関係を念頭に置きつつ、近代以来の朝鮮半島の歩みを概観することで、この最も親しい隣人と真の和解を遂げるための、基礎的な知識を習得する。なお、近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であったがゆえに、その経験を学ぶことで、東北アジア国際政治に対する理解を高める。

## 教科書 /Textbooks

- 趙景達 『近代朝鮮と日本』（岩波新書）（東京：岩波書店、2012年）、846円（税別）。
  - 徐仲錫 著・文京洙 訳 『韓国現代史60年』（東京：明石書店、2008年）、2400円（税別）。
- その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ブルース・カミングス 著、横田安司・小林知子 訳 『現代朝鮮の歴史-世界のなかの朝鮮』（東京：明石書店、2003年）。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：朝鮮半島から学ぶ。
  - 第2回 近代日本と朝鮮①：征韓論、日朝修好条規、壬午軍乱
  - 第3回 近代日本と朝鮮②：日清戦争、甲申政変、大韓帝国
  - 第4回 近代日本と朝鮮③：日露戦争、日韓併合
  - 第5回 日本の植民地支配①：近代化論vs.収奪論など
  - 第6回 日本の植民地支配②：反日運動、皇民化政策など
  - 第7回 日本の植民地支配③：日本の戦争と朝鮮半島
  - 第8回 解放と独立、南北分断
  - 第9回 朝鮮戦争
  - 第10回 李承晩政権の歩みと北朝鮮の動向
  - 第11回 朴正熙政権の歩みと北朝鮮の動向
  - 第12回 日韓国交正常化交渉における争点、日朝関係
  - 第13回 民主化と産業化、北朝鮮の選択
  - 第14回 南北関係と東北アジア国際政治
  - 第15回 まとめ：2つの朝鮮問題
- (注) 講義の進捗度によって変更あり。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答など平常点・・・50%、期末試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業で指定した資料・文献をきちんと読んだうえで授業に臨むこと。

# 朝鮮半島研究概論 【昼】

専門教育科目  
専門基礎科目  
選択

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮半島、植民地、解放、分断、日韓関係、民主化、産業化、朝鮮半島問題、北朝鮮



# 東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて基礎的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアに関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジア研究概論

ARE113M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国のうち主な国を取り上げて、各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する時事問題の読み解きや、東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

## 教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店、2004年。
  - 清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
- このほかにも講義の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「東南アジア」という地域概念の展開&地理の把握
- 3回 多様な東南アジア世界：自然環境、言語、宗教
- 4回 東南アジアの近現代史
- 5回 島嶼部諸国のプロフィール（1）インドネシア
- 6回 島嶼部諸国のプロフィール（2）マレーシア
- 7回 島嶼部諸国のプロフィール（3）シンガポール
- 8回 島嶼部諸国のプロフィール（4）フィリピン
- 9回 東南アジアと日本（1）第2次世界大戦前まで
- 10回 大陸部諸国のプロフィール（1）ベトナム
- 11回 大陸部諸国のプロフィール（2）カンボジア
- 12回 大陸部諸国のプロフィール（3）タイ
- 13回 大陸部諸国のプロフィール（4）ミャンマー
- 14回 東南アジアと日本（2）第2次世界大戦以降
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 40% 期末試験 ... 60%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試にはなるべく柔軟に対応していきます。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 久木・篠崎・下野・中野・山本・李

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会科学の立場から、自分の力で、基本的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求する方法を学ぶことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見を参考にしながら、自己の意見を形成し、表現する方法を学ぶことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人としての倫理観と目的意識について、基本的な題材から考えることができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を、様々な題材を用いて深めることができる。
	コミュニケーション力	●	他者と円滑にコミュニケーションする力を身につける。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

## 授業の概要 /Course Description

入門演習は、皆さんが大学で今後学習を進める上で最低限必要となる技法の習得を目指すために行なう演習形式の科目です。いわば大学での勉学に関するイロハを身につけるための演習です。「調べること」、「書くこと」、「レジュメを作ること」と「プレゼンテーションを行なうこと」に重点をおきます。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、各自あるいはグループで取り組む作業が中心になります。以下、授業で行う課題に沿って各回の進行を例示していますが、実際の内容は担当教員によって異なります。

- 第1回  
ガイダンス
- 第2-3回  
文献をどのように検索して入手するのか
- 第4-5回  
資料をどのように読むのか
- 第6回  
盗用とは何か、それをどのように防ぐのか
- 第7-11回  
文章、レポートおよび小論文をどのように作成するのか
- 第12-13回  
プレゼンテーションに向けたレジュメをどのように作成するのか
- 第14-15回  
プレゼンテーションをどのように行なうのか

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加状況、課題への取組み状況にしたがって評価します(100%)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 入門演習【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

入門演習は必修科目ですので、必ず履修してください。  
演習形式の授業で主体になるのは履修生です。皆さんの積極的な参加を求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 阿部・北・金・中野・山本・尹

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会科学の立場から、自分の力で、応用的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求する姿勢を身につける。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見を参考にしながら、自己の意見を形成し、自分なりに表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人としての倫理観と目的意識について、応用的な題材から考えることができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を、専門的な観点から深めることができる。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、協力的に目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

## 授業の概要 /Course Description

基礎演習は、入門演習で獲得した知識・力を伸ばすとともに、3年次の専門演習の学習に必要な技法の習得を目指す科目です。学術的な文献の読解に挑戦し、「調べる」、「書く」、「レジュメを作る」、「プレゼンテーションを行う」力を養います。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、各自あるいはグループで取り組む作業が中心になります。以下、授業で行う課題に沿って各回の進行を例示していますが、実際の内容は担当教員によって異なります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2～5回 文献をどのように読むのか1
- 第6～7回 プロジェクトワーク1
- 第8～10回 文献をどのように読むのか2
- 第11～14回 プロジェクトワーク2（このうち1回は合同プレゼン大会）
- 第15回 授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加状況、課題への取り組み状況にしたがって評価します(100%)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

基礎演習は必修科目です。必ず履修して下さい。  
演習形式の授業で主体になるのは履修生です。皆さんの積極的な参加を求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	● 他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	● 世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

この演習では「国際」という国と国との関係を超えて、国家以外の主体を含めた「グローバル協力」について学習します。その際、非政府組織（NGO）、企業、市民社会（CSO）の役割にも注目し、グローバル・ガヴァナンスがどのように発展してきているのかを学ぶとともに、どのような課題が残っているのかも考察します。

## 教科書 /Textbooks

○上村雄彦『グローバル協力論入門』法律文化社、2014年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

滝田賢治・大芝亮・都留康子編著『国際関係学 - 地球社会を理解するために』有信堂高文社、2015年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(ゼミの進め方、年間スケジュールなど)
- 第2回 第1章&ディスカッション
- 第3回 第2章&ディスカッション
- 第4回 第3章&ディスカッション
- 第5回 第4章&ディスカッション
- 第6回 第5章&ディスカッション
- 第7回 第6章&ディスカッション
- 第8回 第7章&ディスカッション
- 第9回 第8章&ディスカッション
- 第10回 第9章&ディスカッション
- 第11回 第10章&ディスカッション
- 第12回 第11章&ディスカッション
- 第13回 第12章&ディスカッション
- 第14回 第13章&ディスカッション
- 第15回 第14章&ディスカッション

課外活動としてゼミ合宿ないしはゼミ旅行(海外の可能性有り)を行う予定

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20% 議論への貢献度・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 専門演習I【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

受講生には、多くの関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べる事が求められます。  
国際協力論IおよびIIを履修済みであることが望ましい。未履修の場合は、この演習と併せて受講すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習で一番必要なことは積極的な姿勢です。恐れずに議論に参加しましょう。

### キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ地域研究の中でも、特にアフリカ系、アジア系、ヒスパニック系、ユダヤ系などいわゆる「ハイフンつきアメリカ人」と呼ばれる多様なエスニック・マイノリティの人々のアメリカ社会への統合モデルはいかなるものか、統合のための政策にはどのようなものがあるかなど、アメリカ合衆国の社会史、移民史、人種関係論を史的・総合的に学ぶ。授業を通して、アメリカ合衆国の地域の特性について、総合的に理解することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

Bruce J. Dierenfield, The Civil Rights Movement: Revised Edition [Paperback], New York: Longman, 2008.  
Roediger, David R. The Wage of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991]. (小原豊志ほか訳『アメリカにおける白人意識の構築：労働者階級の形成と人種』明石書店、2006年。)  
大森一輝『アフリカ系アメリカ人という困難：奴隷解放後の黒人知識人と「人種」』、彩流社、2014年。  
川島正樹『アフターマティヴ・アクションの行方：過去と未来に向き合うアメリカ』、名古屋大学出版会、2014年。  
などの中から、受講生の関心によってテキストを選びたい。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インタロダクション。  
第2～14回 テキスト輪読・討論  
第15回 まとめ  
その他、各自の研究テーマに基づいての発表など。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%  
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 専門演習I【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

文献講読を通じて現代東北アジアの政治外交に関する知識を広く深く習得するとともに、東北アジアを取り巻く政治事象について自ら考える力を養う。受講生は自らの研究テーマを定め、ゼミ論文作成のための準備を行う。

## 教科書 /Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 イントロ（進め方、テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など）
- 第2回 共通テキストの輪読・討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度 50%、提出物（レポートを含む） 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講生には、関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べる事が求められる。

# 専門演習I【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

恐れずに討論に参加しましょう。

## キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、（本ゼミのキーワードである）アジアからの視点と文明論的な視点で読み直す。

## 教科書 /Textbooks

指定せず、授業中に適宜、必要な教材をプリントして配布し、テキストとして活用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間 鄭観応・福沢諭吉・俞吉濬の比較考察』（九州大学出版会、2004）
- 李曉東『近代中国の立憲構想 嚴復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想』（法政大学出版会、2005）
- 大塚健洋編著『近代日本政治思想史入門』（ミネルヴァ書房、2008）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生は授業中に配布したテキストや参考文献から担当された部分を解説し、レジュメを作成・報告する。そして、参加者全員の討論を行う。ゼミ教官は討論を仲介しかつ必要な説明を補足する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席、報告・発表、討論、質疑応答、そしてゼミ論文を基に厳正に行う(100%)。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10%減点。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

東アジア地域研究に関心をもち、多数の文献を解説しようという意欲をもつこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、国際政治経済学の分析視角を用いて、相互にかつ多層的に関連しあう国際政治経済の諸問題を自分なりに捉え、分析し、発表できるようになることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に輪読用の文献を決める。さしあたり以下の文献を選定対象として考えている。  
 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』平凡社新書、2002年。  
 佐々木隆夫『国際公共財の政治経済学 危機・構造変化・国際協力』岩波書店、2010年。  
 小池洋一『社会自由主義国家 ブラジルの「第三の道」』新評論、2014年  
 坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション(テキストの決定、進め方の説明、報告順番の決定など)
- 第2回 グループワーク
- 第3回 レポートテーマの発表
- 第4回～第13回 テキストの輪読とレポート報告
- 第14回 IPEに関連するDVD教材の利用
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献...30% 各自の報告...40% レポート...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

輪読は毎回報告者を決め、報告者は担当する章の内容とそれに関連する事柄をカバーしたレジユメを用意して報告する。報告者以外も取り扱う章に目を通し、論点を用意しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 専門演習I【昼】

専門教育科目  
演習科目  
必修

キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

東南アジア地域研究に関する基本的な文献を輪読し、東南アジアに関する理解を深める。卒論において、自分が興味・関心を持って取り組みそうな地域・時代・テーマを見つけることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN  
2回～14回 テキストの輪読  
前半は『東南アジア現代政治入門』を扱う。  
後半は受講者の興味・関心を踏まえて、文献を別途指定する。  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %  
報告者が、正当な理由もなく欠席した場合、単位はない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 専門演習I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

毎回担当を立ててテキストの内容を要約してもらい、それをもとに討論する。自分が担当する箇所以外についても、テキストは毎回必ずよく読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

文献講読を通じて現代中国政治に関する知識を広く深く習得する。受講生は自らの研究テーマを定め、ゼミ論文作成のための準備を行う。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 イントロダクション ( テキスト・ 参考文献の紹介、報告順番の決定など )
- 第2回 共通テキストの輪読・ 討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 各自の研究報告
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・ 討論への参加度・ 発言内容 ... 50% 提出物 ( レポートを含む ) ... 50%  
報告レジュメ・ レポートの提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点

## 事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。



# 専門演習I【昼】

専門教育科目  
演習科目  
必修

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

## 教科書 /Textbooks

Edited by Peter Lassman and Ronald Spears  
Max Weber, Political Writings (Cambridge university press, 1994)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 introduction
- 第3-7回 The Nation State and Economic Policy
- 第8-13回 The Profession and Vocation of Politics
- 第14回 自由討論
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語文献なので十分に予習復習をして授業に望んでください。

## キーワード /Keywords

政治思想 近代 現実主義

# 専門演習I【昼】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

## 教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 共通の基礎的な日本語文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 専門演習I【昼】

専門教育科目  
演習科目  
必修

## 履修上の注意 /Remarks

報告準備を丁寧におこなうこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

国際機構は、基本的には国家が自らを生存させるための手段として運営されています。それはまた、各国に規範意識を促しつつ、さまざまな価値観をもち、さまざまな環境の下で生活する人間を念頭に活動する側面があります。  
このような観点に立ちながら、みずから「問い」をたて、それについてともに考え、掘り下げていく。それが、このゼミの目標です。  
主には、次のような関心をもっています。

- ・ 国際機構は、国家のもつ限界をいかに補えるか。人間のより良い生活のために、何をなすうるか
- ・ 国連やEUの活動をどのように評価するか
- ・ 日本とアジア太平洋諸国は、効果的で民主的な国際機構を創ることができるか。

専門演習Iでは、テキストを講読しつつ、卒業論文のおよそのテーマを決めたいと思っています。

## 教科書 /Textbooks

内田樹『街場の戦争論（シリーズ22世紀を生きる）』ミシマ社、2014年。  
各自で購入して、4月の初回に持参のこと。1,600円（税別）。生協販売はしません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 テキスト講読（1）
- 第3回 テキスト講読（2）
- 第4回 テキスト講読（3）
- 第5回 テキスト講読（4）
- 第6回 テキスト講読（5）
- 第7回 テキスト講読（6）
- 第8回 テキスト講読（7）
- 第9回 テキスト講読（8）
- 第10回 テキスト講読（9）
- 第11回 卒業論文に向けて（1）
- 第12回 卒業論文に向けて（2）
- 第13回 卒業論文に向けて（3）
- 第14回 卒業論文に向けて（4）
- 第15回 卒業論文に向けて（5）

# 専門演習I【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告20%、参加80%

- ※ 報告の内容は大切ですが、報告しない回の参加状況も等しく重視したいと思っています。
- ※ 事前連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 国際人権論、国際機構論I、国際機構論IIを履修することを推奨します。
- ・ ゼミの卒業論文集が学科資料室に配置されています。学科生は自由に閲覧できます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分のために学ぶのではなく、まわりを取り巻く多くの人たちのために、あるいは、まだ会ったことのない誰かのために学んでいただきます。期待しています。

## キーワード /Keywords

# 専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

## 授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢を経済の立場から理解し、自分の意見を発表できるようになることを目指す。この演習では、世界経済とアジア経済に関する本を購読して共通する基本的な理解を深めていく。まず、経済学の基礎的な文献を輪読して、経済学についての基礎的な知識と考え方に慣れる。それと並行して、受講生各自が関心を持つようになったテーマについて適宜選んで関連文献を読み進むこととする。

## 教科書 /Textbooks

石戸光「地球経済の新しい教科書」、明石書店、2010年。  
次は、授業の中で話し合って選ぶ。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(テキストの選定、報告順番の決定など)
- 2~14回 テキストの輪読と質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...60% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

経済学の基礎と世界経済論、または東アジア経済論の授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。  
ゼミでは発表担当者以外にも発言を求めます。該当箇所をあらかじめ読んでおいて、自分の意見を言えるようにしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段から新聞や雑誌に目を通して、日本と世界の動向に関心と理解を深めるように心掛けて下さい。

# 専門演習I【昼】

専門教育科目  
演習科目  
必修

キーワード /Keywords



# 専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

2学期に行われるこのゼミの前半部分では、国際開発援助の目的、動機、歴史、課題について、国際開発援助を主導してきたOECDが発行した最新の英語文献を用いて学びます。後半部分では、受講者の興味関心に沿った学術論文を輪読し、援助についてさらに詳しく学びます。

## 教科書 /Textbooks

上村雄彦『グローバル協力論入門』法律文化社、2014年。  
Brian Keeley, From Aid to Development: The Global Fight against Poverty, Paris: OECD, 2012.

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011年。
- 下村恭民ほか『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 上村 第15章&ディスカッション
- 第2回 上村 第16章&ディスカッション
- 第3回 Keeley Chap.1 & Chap. 2 ディスカッション
- 第4回 Keeley Chap. 3 ディスカッション
- 第5回 Keeley Chap. 4 ディスカッション
- 第6回 Keeley Chap. 5 ディスカッション
- 第7回 Keeley Chap. 6 ディスカッション
- 第8回 Keeley Chap. 7 ディスカッション
- 第9回 Keeley Chap. 8 ディスカッション
- 第10回 学術論文の体裁と読み方(講義)
- 第11回 学術論文の輪読①
- 第12回 学術論文の輪読②
- 第13回 学術論文の輪読③
- 第14回 学術論文の輪読④
- 第15回 学術論文の輪読⑤

ゼミ論文の提出：2015年1月31日  
課外活動としてゼミ合宿ないしはゼミ旅行を行う可能性があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題(ゼミ論文)・・・40% 議論への貢献度・・・60%

## 専門演習II【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

受講生には、多くの関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることが求められます。  
国際協力論IおよびIIを履修済みであることが望ましい。未履修の場合は、この演習と併せて受講すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習で一番必要なことは積極的な姿勢です。恐れずに議論に参加しましょう。

### キーワード /Keywords

# 専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ地域研究の中でも、特にアフリカ系、アジア系、ヒスパニック系、ユダヤ系などいわゆる「ハイフンつきアメリカ人」と呼ばれる多様なエスニック・マイノリティの人々のアメリカ社会への統合モデルはいかなるものが、統合のための政策にはどのようなものがあるかなど、アメリカ合衆国の社会史、移民史、人種関係論を史的・総合的に学ぶ。授業を通して、アメリカ合衆国の地域の特性について、総合的に理解することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

Bruce J. Dierenfield, The Civil Rights Movement: Revised Edition [Paperback], New York: Longman, 2008.  
Roediger, David R. The Wage of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991]. (小原豊志ほか訳『アメリカにおける白人意識の構築：労働者階級の形成と人種』明石書店、2006年。)  
大森一輝『アフリカ系アメリカ人という困難：奴隷解放後の黒人知識人と「人種」』、彩流社、2014年。  
川島正樹『アフターマティヴ・アクションの行方：過去と未来に向き合うアメリカ』、名古屋大学出版会、2014年。  
などの中から、受講生の関心によってテキストを選びたい。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インタロダクション。  
第2～14回 テキスト輪読・討論  
第15回 まとめ  
その他、各自の研究テーマに基づいての発表など。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%  
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 専門演習II【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

現代東北アジアの政治外交を理解するうえで重要な外交文書を輪読することで、東北アジアの国際関係に関する知見をさらに高める。

## 教科書 /Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

外交文書のコピを配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて、輪読する外交文書などに対して適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 イントロ（ゼミの進め方、テキストの紹介、報告順番の決定など）
- 第2回 外交文書の輪読・討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度 50%、提出物（レポートを含む） 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べるのが求められる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

恐れずに、積極的に討論に参加しましょう。

キーワード /Keywords

# 専門演習II【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、アジアからの視点と文明論的な視点で読み直す。それを通して、今日の東アジアとその中の日本を考えることや、将来の東アジア地域秩序の構想・構築のために有意義な観点を発見することを旨とする。

## 教科書 /Textbooks

指定せず、授業中に適宜、文献や資料をプリントして配布し、テキストとして活用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中、適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生はテキストや参考文献から担当された部分を解説し、レジュメを作成・報告する。そして、参加者全員の討論を行う。ゼミ教官は討論を仲介しかつ必要な説明を補足する。

2学期が終わる頃、ゼミ生はレポート（1万字程度）を作成し、提出する。

\*できれば、「ゼミレポート」を卒業論文（3~4万字程度）の土台にもらいたい。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表、討論、質疑応答を基に厳正に行う(100%)。原則的に毎回出席。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10~20%の減点。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

東アジア地域研究に関する多数の文献を自主的に読み、とくに関心のあるテーマを選び、卒業論文に備えること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文のテーマを早期決定しておくこと。

## キーワード /Keywords

東アジアの歴史、思想、文化、国際関係、「伝統」、「近代」、異種交配、変容

# 専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、国際政治経済学の視点が求められる様々な問題の中から、各自が関心のあるテーマを決定し、資料収集や発表を通じて卒業論文の準備作業を進める。個人研究報告と並行して、グループディスカッションやディベートを行うことで、習得した知識・フレームワークを活用して論理的な発表・議論ができるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

最初のゼミの時に知らせる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション（ゼミの進め方など）  
第2回～第14回 レポート報告、輪読・ディスカッション、共同研究報告  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献・・・20% 各自の報告・・・50% レポート・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 必要な文献、資料の調査や収集を進んで行うこと。
- ・ 議論への積極的な参加を期待する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 専門演習II【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	● 他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	● 世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

卒論で取り上げたいテーマについて、事実関係と先行研究の整理を行う。それをもとにゼミ論を作成し、卒論の作成につなげていく。

## 教科書 /Textbooks

報告者の関心に沿った文献。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス  
2～14回 各自の関心テーマに即した報告  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 課題 ... 30% 各自報告 ... 50 %  
報告担当者が、正当な理由もなく欠席した場合、単位はない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この科目の履修につながるよう、専門演習I終了時に課題を出します。この課題の評価は、専門演習IIの評価に組み込みます。なお成績評価の方法の一項目となっている「課題」には、さらに重要なものとして、ゼミ論があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、現代中国に関する様々な問題の中から受講生が設定した研究テーマを探究し、ゼミ論文を完成させることである。受講者の人数により、テキスト輪読と個人研究報告の回数を調整する。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。なお、受講生は定められた期日までにゼミ論文を提出し、口頭発表を行う。

- 第1回 イントロダクション(テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 各自の研究報告と討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 ゼミ論指導
- 第15回 ゼミ論について各自が口頭発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容...50%      ゼミ論...50%  
報告レジュメ・ゼミ論の提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

## 専門演習II【昼】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

夏休みの間に必ず情報収集を行うこと。  
どの新聞でも構わないが、紙媒体での新聞閲覧を習慣づけること。

### キーワード /Keywords

# 専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

## 教科書 /Textbooks

Edited by Quentin Skinner and Russell Price,  
Machiavelli: The Prince (Cambridge university press, 1988)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス 第2回 introduction 第3回 1-3章  
第4回 1-3章 第5回 4-6章 第6回 7章 第7回 8-10章 第8回 11-12章  
第9回 13-16章 第10回 17-19章 第11回 20-23章 第12回 24-26章  
第13回設定されたテーマに基づく討論 第14回自由討論 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語文献なので十分に予習復習をして授業に望んでください。

## キーワード /Keywords

政治思想 近代 現実主義

# 専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

## 教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 各自の研究テーマに関する日本語・英語文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 各自のテーマに関する報告
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

## 専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告準備を丁寧におこなうこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 専門演習II【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

国際機構は、基本的には国家が自らを生存させるための手段として運営されています。それはまた、各国に規範意識を促しつつ、さまざまな価値観をもち、さまざまな環境の下で生活する人間を念頭に活動する側面があります。  
このような観点に立ちながら、みずから「問い」をたて、それについてともに考え、掘り下げていく。それが、このゼミの目標です。  
主には、次のような関心をもっています。

- ・ 国際機構は、国家のもつ限界をいかに補えるか。人間のより良い生活のために、何をなすうるか
- ・ 国連やEUの活動をどのように評価するか
- ・ 日本とアジア太平洋諸国は、効果的で民主的な国際機構を創ることができるか。

専門演習IIでは、卒業論文のテーマに沿った文献紹介、中間報告を行なう予定です。

## 教科書 /Textbooks

使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 卒業論文に向けた文献紹介(1)
- 第3回 卒業論文に向けた文献紹介(2)
- 第4回 卒業論文に向けた文献紹介(3)
- 第5回 卒業論文に向けた文献紹介(4)
- 第6回 卒業論文に向けた文献紹介(5)
- 第7回 卒業論文に向けた文献紹介(6)
- 第8回 卒業論文に向けた文献紹介(7)
- 第9回 卒業論文に向けた文献紹介(8)
- 第10回 卒業論文の中間報告(1)
- 第11回 卒業論文の中間報告(2)
- 第12回 卒業論文の中間報告(3)
- 第13回 卒業論文の中間報告(4)
- 第14回 卒業論文の中間報告(5)
- 第15回 卒業論文の中間報告(6)

## 専門演習II【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

報告20%、参加80%

- ※ 報告の内容は大切ですが、報告しない回の参加状況をより重視します。
- ※ 事前連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなします。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 国際人権論、国際機構論I、国際機構論IIを履修することを推奨します。
- ・ ゼミの卒業論文集が学科資料室に配置されています。学科生は自由に閲覧できます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分のために学ぶのではなく、まわりを取り巻く多くの人たちのために、あるいは、まだ会ったことのない誰かのために学んでいただきます。期待しています。

### キーワード /Keywords

# 専門演習II【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

## 授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢について経済の立場から理解を深めていき、卒論の準備段階の作業を進めていくことを目指す。専門演習1と同様に、世界経済とアジア経済に関するテキストを講読するとともに、自分で関心の持つテーマを決めて個別に研究を進めてゼミレポートを作成する。

## 教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に数冊の候補の中から受講生の関心などに応じて決める。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(テキストの選定、報告順番の決定など)
- 2~14回 テキスト輪読または個別報告と討論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...60% ゼミレポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

世界経済論または東アジア経済論の授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段から新聞や雑誌に目を通して、日本と世界の動向に関心と理解を深めるように心掛けて下さい。  
自分で選ぶテーマについては、経済に関連があるのなら、幅広く対応します。

## キーワード /Keywords



## 中国近現代史Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅰ

HIS120M

## 授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」

アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）

※初回に必ずテキストを持参のこと。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1)：統治理念と版図の形成
- 3回 大清帝国素描(2)：対外観念と国際関係
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)：日清の朝鮮支配争い
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)：下関条約と東アジア国際関係の変動
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 反清朝革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡(1)：鉄道国有化問題
- 15回 辛亥革命と清朝の滅亡(2)：武昌起義と清朝の滅亡

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%

試験を主に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業前にテキストに目を通して出席すること。

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

# 中国近現代史I【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

## キーワード /Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

## 中国近現代史Ⅱ【昼】

担当者名  
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅱ

HIS121M

## 授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」

中華民国期(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

## 教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）

※初回に必ずテキストを持参のこと。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)：袁世凱政権の諸相
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)：北洋軍閥の抗争
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)：国共合作の成立
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)：上海政変と国共分離
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)：柳条湖事件と満州国の成立
- 8回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)：西安事変と抗日民族統一政権の成立
- 9回 日中全面戦争の勃発
- 10回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 中華人民共和国と辺境
- 15回 戦後の日中関係

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%

試験を主に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業前にテキストに目を通して出席すること。

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

# 中国近現代史II 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

## キーワード /Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九・一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

# イスパニア地域論【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スペインを中心にスペイン語圏の地域の成り立ちを理解している。
技能	専門分野のスキル	●	ヨーロッパの中のスペイン、あるいはスペイン語圏の位置を理解している。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	スペインとスペイン語圏の歴史的比較ができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	日本とスペインあるいはスペイン語圏との関係に関心を維持する。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(27年度以降 比文) スペイン語圏地域論 ARE243M

イスパニア地域論 ARE243M

## 授業の概要 /Course Description

あえて問う、スペインとは何であるかと。ニュートンによる万有引力の発見しかり、ソシュールの言語論しかり、広く当然のものとして受け入れられている事柄を疑うことはきわめて困難です。しかし先入見に阻害されて看過されているものは数多いのではないのでしょうか。この授業では、イベリア半島に位置し、今日スペインと呼ばれている国が、どのように「ひとつのネイション」として自分たちを認識するようになったか、すなわちネイション意識を獲得するようになったか、その必要性が生じた背景と経緯について、芸術のジャーナルでありながら強力な教育機能を有するメディアでもあった演劇に注目して、ひとつの仮説を提示します。ネイションという概念に関する社会学分野の研究を参照し、かつより特殊な関心に肉薄する形に改変しながら検討します。今日のスペインが直面する地域ナショナリズムの問題についても重要な視座を与えてくれるはずです。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT出版、1997。
- アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000。
- 大澤真幸ほか『ナショナリズム論・入門』有斐閣、2009。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション、授業運営と成績評価について
- 第2回 スペインというネイション
- 第3回 祖国への関心
- 第4回 ネイションを定義する難しさ(社会学のアプローチ)
- 第5回 言説分析というアプローチ
- 第6回 演劇の社会的機能
- 第7回 十八世紀の演劇
- 第8回 先行研究と方法の検討
- 第9回 作品の言説分析：ホペリャーノス『ムヌーサの死』
- 第10回 作品の言説分析：カダルソ『ソラーヤ、あるいはチエルケス人たち』
- 第11回 作品の言説分析：ロベス・デ・アヤラ『ヌマンシアの滅亡』
- 第12回 作品の言説分析：モラティン『グスマン・エル・ブエノ』
- 第13回 作品の言説分析：ガルシア・デ・ラ・ウエルタ『ラケル』
- 第14回 暫定的な結論と今後の展開
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% 定期試験50%

# イスパニア地域論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書は事前に入手して開講までに必ず目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン ネイション ナショナリズム 新古典演劇

## ユーラシアの多文化世界【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシア、カフカス、中央アジア、バルト地域などの多様な民族社会の存在を理解している。	
技能	専門分野のスキル	●	民族を結びつけている我々意識、言語、文化、宗教についての基本的アプローチ法を身につけている。	
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を自ら設定し、適切なアプローチ法を用いつつ、複眼的視野に基づいて考察し、解決できる。	
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）			
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	異なる民族文化の諸領域に対する関心を維持する。	
	コミュニケーション力			

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ユーラシアの多文化世界

ARE265M

## 授業の概要 /Course Description

民族を結びつけている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて考察する。  
事例研究では、ロシア・旧ソ連を重点的に扱い、多民族国家・社会における言語問題、民族対立、文化統合・国民統合などの問題について考察し、グローバル化社会における個人と帰属社会の関係について理解を深めることを狙いとする。  
到達目標は、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようになること。

## 教科書 /Textbooks

レジュメ配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 蓮実重彦、山内昌之『いま、なぜ民族か』 東京大学出版会 1994年
  - 原・和田ほか編『講座スラブの世界』全8巻、山川出版社、1994 - 1996年
  - 栗生沢猛夫『タタールのくびき』東京大学出版会、2007年
  - 宇山智彦編著『中央アジアを知るための60章』明石書店、2003年
  - 北川誠一ほか編著『コーカサスを知るための60章』明石書店、2006年
  - 田中・倉持・和田編『ロシア史』全3巻（世界歴史体系シリーズ）山川出版社、1994 - 1997年
- 以上の他に指定図書も10冊ほどあります。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族とは何か：【民族籍と国籍】、【民族アイデンティティ】
- 2回 民族社会と文化①文化の定義、人と文化、文化政策
- 3回 民族社会と文化②【クレオール】
- 4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
- 5回 言語と社会①【母語とは】、人と言語、民族言語
- 6回 言語と社会② 近代化と言語政策・言語問題
- 7回 ボルガ・ウラル地域の民族社会①タタール人
- 8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会②ウドムルト人
- 9回 北カフカスの諸民族、【ダゲスタンの諸民族】
- 10回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
- 11回 中央アジアの民族と社会：①自然風土、草原の民とオアシスの民
- 12回 中央アジアの民族と社会：②信仰と宗教、歴史・文化、新たな国造り
- 12回 南カフカスの諸民族、アルメニア人、グルジア人、アゼリ人
- 13回 ウクライナの民族・地域問題：歴史、言語、文化・宗教
- 14回 バルトの諸民族：エストニア、ラトビアの歴史と民族、文化
- 15回 旧ソ連の離散民：ロシアの朝鮮人、離散の歴史

# ユーラシアの多文化世界 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70%、小レポート30%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は受験資格を失います)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上の参考書や図書館2階の指定図書、あるいは講義内容に関係した図書文献を読み(本学北方図書館蔵書検索OPACで地域名等のキーワード検索をかければ複数冊ヒットするはず)、授業に備えてください。

## キーワード /Keywords

民族・少数民族・民族間関係・多民族社会・民族アイデンティティ・クレオール、近代化と真のナショナリズム、民族伝統文化維持、現代社会の宗教共同体(修行生活者)、ことばと社会・多言語社会、ロシア、ウクライナ、バルト地域(エストニア、ラトビア、リトアニア)、ポーランド、タタルスタン、シベリア、ウドムルト、ダゲスタン、中央アジア(カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスタン、タジキスタン、トルクメニスタン)、カフカス、ロシア、ユダヤ人、朝鮮人ディアスポラ



## 時事中国語講読I 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読 I

ARE311M

## 授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国经济・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国经济・社会に関する知識の習得を目指す。また可能であれば、現地資料の読解にも取り組んでいく。

## 教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国经济」 アジア経済研究所 ¥1400  
日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ¥630  
高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ¥700  
丸川知雄(2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 この他適宜授業中に提示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

\*但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% レポート 10% 輪読・発表等授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 時事中国語講読I 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 時事中国語講読II【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読II

ARE312M

## 授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国经济・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。  
中国经济・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。

## 教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国经济」 アジア経済研究所 ￥1400  
日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630  
高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ￥700  
丸川知雄(2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 この他適宜授業中に提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

\* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% レポート 10% 輪読・発表等授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 時事中国語講読II 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ビジネス中国語I【昼】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3 - 1・ 3 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

ビジネス中国語 I

CHN362M

## 授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

## 教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」  
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCTテストに挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習
- 4回 単語テスト・閲読練習
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・作文練習
- 7回 単語テスト・作文練習
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 単語テスト・閲読練習
- 11回 ヒアリング練習
- 12回 単語テスト・作文練習
- 13回 単語テスト・作文練習
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト40%、定期試験45%。

# ビジネス中国語I 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

## キーワード /Keywords

日常生活用語    ビジネス専門用語    B C T 受験    ( BCT初級、中・ 上級を含む )

# ビジネス中国語I 【昼】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3 - 3・3 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

ビジネス中国語 I

CHN362M

## 授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

## 教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」  
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCTテストに挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習
- 4回 単語テスト・閲読練習
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・作文練習
- 7回 単語テスト・作文練習
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 単語テスト・閲読練習
- 11回 ヒアリング練習
- 12回 単語テスト・作文練習
- 13回 単語テスト・作文練習
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト40%、定期試験45%。

# ビジネス中国語I 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

## キーワード /Keywords

日常生活用語    ビジネス専門用語    B C T 受験    ( BCT初級、中・ 上級を含む )



# ビジネス中国語Ⅱ【昼】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3 - 1・3 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。 中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語Ⅱ

CHN363M

## 授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

## 教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する  
その他の資料は授業中に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」  
セリングビジョン株式会社発行

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期（B）  
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。  
「ヒアリング・閲読」、「会話・作文」について繰り返して学習する。（BCT問題集を学習する。）  
ビジネス会話、作文に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 思考力、考える力に関する練習
- 3回 閲読練習
- 4回 単語テスト・ヒアリング練習
- 5回 単語テスト・ビジネス作文
- 6回 ヒアリング練習
- 7回 単語テスト・閲読練習
- 8回 ビジネス作文
- 9回 ビジネス会話
- 10回 ビジネス作文
- 11回 実践会話練習
- 12回 実践会話練習
- 13回 ビジネス作文
- 14回 実践会話練習
- 15回 総合発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

# ビジネス中国語II 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備、

できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてしてほしい。

## キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 BCT受験 (BCT初級、中・上級を含む)

# ビジネス中国語Ⅱ【昼】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3 - 3・3 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。 ● 中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語Ⅱ

CHN363M

## 授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

## 教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する  
その他の資料は授業中に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」  
セリングビジョン株式会社発行

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期（B）  
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。  
「ヒアリング・閲読」、「会話・作文」について繰り返して学習する。（BCT問題集を学習する。）  
ビジネス会話、作文に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 思考力、考える力に関する練習
- 3回 閲読練習
- 4回 単語テスト・ヒアリング練習
- 5回 単語テスト・ビジネス作文
- 6回 ヒアリング練習
- 7回 単語テスト・閲読練習
- 8回 ビジネス作文
- 9回 ビジネス会話
- 10回 ビジネス作文
- 11回 実践会話練習
- 12回 実践会話練習
- 13回 ビジネス作文
- 14回 実践会話練習
- 15回 総合発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

# ビジネス中国語II 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備、

できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてしてほしい。

## キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 BCT受験 (BCT初級、中・上級を含む)

## アジア地域社会論【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア地域社会論

PLC222M

## 授業の概要 /Course Description

今日、アジア諸国の経済成長や社会発展は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバリゼーションの中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域研究に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んで調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、韓国とバングラデシュを対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標とし、真の国際理解ができる人を目指してもらいます。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

## 教科書 /Textbooks

その都度配布

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- \* 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年
- \* バク・ジョンヒユン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、2008年、840円
- \* 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円
- \* クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円

# アジア地域社会論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明～アジア社会一般的特徴の解説を含む	
第2回	韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く	【スタディツアー】
第3回	統計数値、絵本を通しての両国の生活・文化の比較説明～グループ討論	【統計数値】 【絵本】
第4回	韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の二コマ「クラシック」を通して(1)	【映画部分鑑賞】
第5回	韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の二コマ「クラシック」を通して(2)	【映画部分鑑賞】
第6回	韓国におけるバングラデシュ人労働者～彼らの本音を探る	【バングラデシュ人労働者】
第7回	韓国における多文化家族に見る社会～途上国からの花嫁	【多文化家族】
第8回	韓国の現代史	【現代史】
第9回	韓国の宗教と文化	【価値教育】
第10回	韓国社会の国際化(留学事情、学歴社会)＝他国との比較	【国際化】
第11回	バングラデシュの都市社会(中産階層と清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童)	【雑業層】
第12回	バングラデシュの農村社会～イスラーム教の紹介を含む	【イスラーム】
第13回	バングラデシュのコミュニティ～日本のコミュニティ問題と比較して～グループ討論	【コミュニティ】
第14回	それでも、バングラデシュ! 小ネタ集～教員の仰天体験を通して?	【参与観察】
第15回	まとめ ～ 途上国に行く気になったか ～ グループ討論	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢...30% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施

上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き(映画鑑賞では泣きません)、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。

## キーワード /Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、韓国映画『ラブストーリー(原題「クラシック」)』、国際理解

# 環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

## 授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

## 教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 ¥3,240）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 ¥840）

# 環境政策論【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)  
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 日本の環境問題と歴史  
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1; 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2; 有料化、road pricing等
- 8回 発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ(試験などの質問)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 - 30%、レポート - 20%、期末試験 - 50%  
(レポートの未提出者は期末試験を受けることができない。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、  
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>  
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>  
を参照し、準備する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～!!  
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!  
また、エネルギーなしで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

## キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、  
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、  
地域エネルギーと原子力、  
グローバルな要素、ローカル要素。



## 西洋政治史 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史

PLS111M

## 授業の概要 /Course Description

この講義では、17世紀から現代までのヨーロッパ地域の国際関係と西洋諸国の政治史を学ぶ。受講者は、授業前に予習としてテキストや配布資料（日本語および英語）を読み、授業に積極的に参加することが求められる。必要に応じて、視聴覚資料なども随時利用する。

## 教科書 /Textbooks

岡義武『国際政治史』岩波現代文庫、2009年。  
ペーター・ガイス、ギヨーム・ル・カントレック『ドイツ・フランス共通歴史教科書【現代史】』明石書店、2008年。  
Richard Sakwa and Anne Stevens (eds.), Contemporary Europe, 3rd ed. Palgrave Macmillan, 2012.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 第1回 ガイダンス、ヨーロッパにおける国際社会の成立
- 第2回 絶対王政期のヨーロッパ【外交】【傭兵制】【勢力均衡】
- 第3回 国民国家形成期のヨーロッパ【フランス革命】【ウィーン体制】【イギリス】
- 第4回 帝国主義の時代【植民地】【東方問題】【独仏関係】
- 第5回 第一次世界大戦(1)【バルカン半島】【三国同盟】【三国協商】
- 第6回 第一次世界大戦(2)【民族解放運動】【ロシア革命】【労働者運動】
- 第7回 ヴェルサイユ体制と新しい国際対立【アメリカ】【ヴェルサイユ条約】【国際連盟】
- 第8回 第二次世界大戦(1)【世界恐慌】【ファシズム】【対独宥和政策】
- 第9回 第二次世界大戦(2)【三国同盟】【資本主義】【共産主義】
- 第10回 冷戦期(1)【戦勝国】【敗戦国】【東西対立】【ヨーロッパ統合】
- 第11回 冷戦期(2)【ベルリンの壁】【独仏関係】
- 第12回 ポスト冷戦【ドイツ統一】【EU】【東西格差】
- 第13回 ヨーロッパ政治の多様性(1)【キリスト教】【国家】【社会】【市場】
- 第14回 ヨーロッパ政治の多様性(2)【移民】【格差】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回以上 50%)と課題(50%)による。出席者数が多い場合は、課題の代わりに期末筆記試験(50%)を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 西洋政治史 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 担当教員に関する情報、講義の進め方、成績評価方法について第1回の授業で説明するので、履修予定者は必ず出席すること。
- ・ 学生が授業前にテキスト（日本語・英語）の該当部分を読んでいることを前提として、講義を進める。
- ・ 小テストおよび課題で、不正行為（インターネットに掲載されている文章を転記する、他の受講生と相談する等）を行った場合、全ての点数を0点とする。
- ・ 学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容の全てを扱うことはできなくなる点に留意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席せず、勉強せずに単位を取得することはできません。

## キーワード /Keywords

## 地域統合論 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論

PLS214M

## 授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ統合を分析する理論的側面として地域統合論を解説し、ヨーロッパ統合を現実に推し進めることになった理念とともに、EUの組織・機構や意思決定過程について学が予定である。また、EUにおける各分野の政策に関して、その発展過程を理解するとともに、成果と問題点を考察することを目指す。国際社会において、EUがアメリカとは異なる政策や立場を選択する事例や、国際組織やアジアとの関係についても触れ、ヨーロッパの統合過程において現れはじめている課題についても考えたい。

## 教科書 /Textbooks

森井裕一編『ヨーロッパの政治経済・入門』（有斐閣）、2012年。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』[第2版] ( 芦書房 )、2007年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

( 【 】 内はキーワード )

- 1回 授業の進め方の説明、EUの概要(1)【加盟国】
- 2回 EUの概要(2)【成果】
- 3回 地域統合論【地域】【統合】【新機能主義】【交流主義アプローチ】
- 4回 ヨーロッパ統合の理念と歴史【ECSC】【EURATOM】【EEC】【EC】【EU】
- 5回 EUの組織・機構と意思決定過程(1)【欧州委員会】【欧州理事会】
- 6回 EUの組織・機構と意思決定過程(2)【欧州議会】【閣僚理事会】
- 7回 域内市場政策【単一欧州議定書】【域内市場統合】【共通通商政策】
- 8回 単一通貨政策(1)【ウエルナー】【ECB】【ユーロ】
- 9回 単一通貨政策(2)【加盟国の財政政策】【通貨危機】
- 10回 共通農業政策(1)【CAP】【補助金】
- 11回 共通農業政策(2)【財政問題】【発展途上国】
- 12回 共通外交・安全保障政策【CFSP】【ESDP】【CSDP】
- 13回 国際社会における主体としてのEU【ASEM】【国連】
- 14回 ヨーロッパ統合における課題【拡大疲れ】【エリートvs. 大衆】【外国人排斥】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回以上 50%)と課題(50%)による。出席者数が多い場合は、課題の代わりに期末筆記試験(50%)を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 地域統合論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 担当教員に関する情報、講義の進め方、成績評価方法について第1回の授業で説明するので、履修予定者は必ず出席すること。
- ・ 小テストおよび課題で、不正行為（インターネットに掲載されている文章を転記する、他の受講生と相談する等）を行った場合、全ての点数を0点とする。
- ・ 授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。
- ・ 課題で英語の文献・資料を使用する点がある点に留意すること。
- ・ 「西洋政治史」および「政党政治論」を履修し、ヨーロッパの国際関係や国内政治に関する知識を身につけておくことで授業が理解しやすい。
- ・ 学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容の全てを講義することはできない点に留意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席せず、勉強せずに単位を取得することはできません。

## キーワード /Keywords

# 教職論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし（授業中に適宜紹介する）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と生徒指導	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の資質と適格性	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、教育の意義や役割について考え、現在の教師に求められる資質能力とこれからの社会における教師の役割を意識し、教師としての使命や責任感を考えていく。教育の原理として「教育とは何か」について省察することで、教師観の形成をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

- ・ 田嶋一 中野新之祐 福田須美子 狩野浩二 著 『やさしい教育原理』 有斐閣 (2011)
- ・ 他にも講義内で適宜配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 授業内で適宜紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション - 教職とは何か
- 第2回：教師に求められる資質能力 (教師の資質能力に関する文科省資料の確認)
- 第3回：教師の役割・社会的責任と使命
- 第4回：教員免許状と教員養成制度 (教員免許と専門性)
- 第5回：教育の思想と歴史の変遷 (コメニウスからルソーまで)
- 第6回：教育の思想と歴史の変遷 (フレーベル、デューイら 近代的教育思想へ)
- 第7回：教職のための基礎知識・教育六法1 (教育基本法・学校教育法・学校教育法施行規則・地公法)
- 第8回：教職のための基礎知識・教育六法2 (日本国憲法・子どもの権利条約など。関係する法規を調べる)
- 第9回：学習指導要領の変遷・観点別評価について
- 第10回：教育課程・カリキュラムについて
- 第11回：教育の実践現場における諸課題 (新聞、統計資料、生徒指導提要などを参考に)
- 第12回：教師教育のあり方・授業研究と専門性
- 第13回：教師教育のあり方・教材研究と同僚性
- 第14回：今日における教育改革と動向 (文部科学省ホームページ、答申などを参考に)
- 第15回：まとめ・どのような子どもを育てるのが  
定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 講義内での活動への参加度 (グループワークや質疑などへの参加)・・・20%
- 講義内での発表・報告・・・30%
- 最終試験・課題レポート・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。出席は全講義数の3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

## キーワード /Keywords

# 発達心理学【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である ( Butterworth, 1994 )。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著  
『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか ( いちばんはじめに読む心理学の本 3 )』  
ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

文部科学省 ( 2011 ) 「生徒指導提要」  
その他、授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育制度論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 学校制度の基本的事項(4) 就学
- 7回 教科書に関する制度 教科書、副教材
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 教員制度の基本的事項(3) 教員の待遇、福利厚生
- 11回 学校関係者による支援の制度 地域住民の学校への参画
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教育について興味・関心をもって臨むこと。  
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

**概要**  
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

**目標**  
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。  
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) 人の国際移動と教育
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 市民性教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房、2009年、2,500円  
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂、2009年 72円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD ( 師範授業 ) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD ( 師範授業 ) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 ( 中学校 ) 【1年生】
14. モデル授業 ( 中学校 ) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房、2009年、2500円  
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語編 英語編 開隆堂 2011年 158円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂 2012年、630円 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社  
 南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円 Onstage English Course I・II池田書店  
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II東京書籍、2012年、630円  
 山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円  
 Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II"開隆堂  
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II啓林館 2013年、650円  
 Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社  
 市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II"文英堂  
 Genius English Course Revised I・II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂 2012年、630円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語科教育法C【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「英語科教育法」は、中学校、高等学校の英語科教員を目指す人のために、実際に教壇に立って授業をすることはもとより、授業の準備、練習問題（試験問題）の作成、成績評価に至るまでを概括し、現代のニーズに応える英語教育を実践していくための、実践的な授業です。ただ講義を聴くのではなく、それをどのように実践力に変えていくのか、という目的意識を持っていただきたいと思ひます。ことに、高等学校では2013年から基本的に英語で授業が行なわれるという方針が示されています。模擬授業に関しては、他の人が授業を行なっているときも、自分の身に置き換えて、教育実習や実際に教員となったときに生かせるよう、積極的な姿勢で臨んでいただきたいと思います。板書の仕方、副教材の作成、生徒の学習動機づけ、などについても指導します。

なお、この授業は、森千鶴先生開講の「英語科教育法A」と整合性を保つよう考慮してはありますが、適正なクラスサイズで一貫性のある英語科教育法の授業を提供するために、原則として雪丸先生担当の「英語科教育法D」とあわせての受講をお勧めします。

## 教科書 /Textbooks

講師作成のプリント教材を用意します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語
- 文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

上記の文献については、かならずご一読ください。その他の参考文献は授業時に必要に応じて紹介します。なお、以下の教科書は教職資料室で保管していますので閲覧可能です。

- ・ ENGLISH NOW Revised Edition I・ II ( 開隆堂 )
- NEW WORLD ENGLISH COURSE I・ II ( 三友社 )
- Vivid Reading MEW EDITION ( 第一学習社 )
- Onstage English Course I・ II ( 池田書店 )
- EXCEED English Series New Edition I・ II ( 三省堂 )
- PROMINENCE English I・ II ( 東京書籍 )
- MAINSTREAM ENGLISH COURSE : Second Edition I・ II ( 増進堂 )
- Revised POLESTAR English Course I・ II ( 数研出版 )
- Revised Edition SUNSHINE English Course I・ II ( 開隆堂 )
- PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・ II ( 桐原書店 )
- ELEMENT English Course I・ II ( 啓林館 )
- Voyager English Course NEW EDITION I・ II ( 第一学習社 )
- NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・ II ( 文英堂 )
- Genius English Course Revised I・ II ( 大修館書店 )
- CROWN English Series New Edition I・ II ( 三省堂 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：新しい時代の英語教育を目指して
- 第02回 アジア諸国における英語
- 第03回 TESOLとは何か：TESLとTEFL
- 第04回 日本における英語教育と言語政策
- 第05回 言語理論の基礎
- 第06回 言語習得理論の基礎
- 第07回 アプローチとメソッド
- 第08回 コミュニカティブ・アプローチ
- 第09回 学習者とモチベーション
- 第10回 カリキュラム・シラバス・テスト
- 第11回 デイバート教育
- 第12回 ALTとのチーム・ティーチング
- 第13回 通訳教育からの提言
- 第14回 グローバル人材育成教育
- 第15回 英語科教員としての責任と課題(まとめ)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

本科目は講義科目と演習科目の両面の正確さを持っていますので、学期末試験の成績を基本として評価するつもりですが、それだけでなく通常の授業での発表やディスカッション等への参加姿勢を加味して、総合的に評価します。

# 英語科教育法C 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

英語を教える場は、必ずしも中学校、高等学校だけとは限りません。塾や民間の英会話スクールなどで英語を教えることもあるでしょうし、そういう人にとっても有益な授業となるでしょう。しかし、この授業は基本的に教職を目指す人のためのものであることを踏まえ、安易な気持ちでなく、責任感を持って参加していただきたいと思います。課題などをお願いする際は、必ず仕上げ、提出または発表をしていただきたいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

厳しいことをたくさん記しましたが、英語を学び教えることは、本来楽しいことです。楽しく、その上で気持ちをしっかりこめて、授業を行なっていきたいと思います。

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 細川 博文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

中学・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象に、模擬授業を通して実践的な指導力を育成する。現行学習指導要領では、生徒の「コミュニケーションを図ろうとする態度」および「能力」を養うことが求められている。また、高等学校においては「授業は英語で行うことを基本とする」という方針が出されている。受講者は本講座を通して訳読に頼らないコミュニケーション型な指導法を学ぶと共に、指導上求められる実践的英語力とは何かを模擬授業を通して学ぶ。授業は文科省の教育政策を概観した後、受講者による模擬授業へ移る。各模擬授業の後に振り返り討論を行うので、受講者全員の積極的な参加を求める。

## 教科書 /Textbooks

- ( 1 ) 『New Horizon English Course 3』( 中学検定教科書 )( 東京書籍 )
- ( 2 ) 『Unicorn English Communication 1』( 高校検定教科書 )( 文英堂 )
- ( 3 ) 『中学校学習指導要領解説( 外国語編 )』( 文部科学省 )( 開隆堂 )
- ( 4 ) 『高等学校学習指導要領解説( 外国語編・英語編 )』( 文部科学省 )( 開隆堂 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- ( 1 ) 『英語教育』( 大修館 )( 月刊雑誌 )
- ( 2 ) 石黒昭博( 2009 ) 『総合英語Forest』( 桐原書店 )
- ( 3 ) 卯城祐司( 編 )( 2011 ) 『英語で英語を読む授業』( 研究社 )
- ( 4 ) 卯城祐司( 編 )( 2014 ) 『英語で教える英文法』( 研究社 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：授業方針の説明及びインタラクティブな指導法解説
- 第 2 回：文科省の英語教育政策( 「行動計画」「5つの提言」「学習指導要領」 )
- 第 3 回：中学学習指導要領の解説及び指導案作成法( 細案の書き方 )
- 第 4 回：模擬授業( 導入指導の実践 )( 中学教科書使用 )
- 第 5 回：模擬授業( 会話文指導の実践 )( 中学教科書使用 )
- 第 6 回：模擬授業( リーディング指導の実践① )( 中学教科書使用 )
- 第 7 回：模擬授業( リーディング指導の実践② )( 中学教科書使用 )
- 第 8 回：模擬授業( 文法指導の実践 )( 中学教科書使用 )
- 第 9 回：高校学習指導要領の解説および高校教科書分析
- 第 10 回：模擬授業( 導入指導の実践 )( 高校教科書使用 )
- 第 11 回：模擬授業( リーディング指導の実践① )( 高校教科書使用 )
- 第 12 回：模擬授業( リーディング指導の実践② )( 高校教科書使用 )
- 第 13 回：模擬授業( 文法指導の実践 )( 高校教科書使用 )
- 第 14 回：模擬授業( タスク指導の実践 )( 高校教科書使用 )
- 第 15 回：総括( 指導法に関する質疑応答 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ( 1 ) 指導案作成( 20% )、模擬授業( 20% )、報告書( 10% )
- ( 2 ) 模擬授業振り返り報告書( 30% )
- ( 3 ) 授業及び討論参加度( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ( 1 ) 教員免許状を取得し将来の進路として教員を強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除いて、無断欠席は履修放棄とみなす。
  - ( 2 ) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで、教育実習と同じ想定で行う( 発表者はスーツ着用 )。
- 詳細については授業初回に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 英語科教育法D 【昼】

キーワード /Keywords



# 社会科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義の到達目標は3つである。①社会科の歴史的経緯を理解する。②社会科のめざす内容を把握する。③教材分析、授業案作りの基礎的知識を身につける。

この目標のもとに、社会科教育について学ぶことを通して、社会科の理念と目標について認識を深める。そして学習指導要領を検討し、生徒が学ぶべき内容の把握を行う。さらに学習指導案づくりとその批判検討を通して社会科の授業構成における基本的能力を養う。

本講義では、社会科が何を目標とするのか、その基本的な内容は何かについて学ぶ。さらに教員となった際に、生徒とともに考え、学ぶ方法について考察してゆく。そのためには学校教育とは何かについて理解を深め、教師となるための資質を磨く必要がある。講義を通じて、生徒たちが国際社会のひとりとして主体的に生きるために必要な自覚を持てるように指導する能力を養う。

## 教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 社会科の歴史と成立
- 第 3回 社会科のカリキュラム
- 第 4回 社会科の変遷 学習指導要領
- 第 5回 社会科の授業① 社会科の授業構成・授業実践事例
- 第 6回 社会科の授業② 授業研究の方法
- 第 7回 教材研究と授業研究の視点① 学習指導の在り方
- 第 8回 教材研究と授業研究の視点② 学習指導案の立て方
- 第 9回 授業案づくり① 教科書に触れる
- 第 10回 授業案づくり② 資料に触れる
- 第 11回 授業案づくり③ 資料を集める
- 第 12回 学習指導と評価の工夫① 生きる力と評価・社会科の目標と評価の観点
- 第 13回 学習指導と評価の工夫② 指導と評価の在り方
- 第 14回 授業案の発表① 学習指導案の発表・ディスカッション
- 第 15回 授業案の発表② 学習指導案の発表・ディスカッション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30%、演習への参加度 30%、レポート 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、教科書、資料などに触れる機会が多くあります。それらの機会を活かすためにも、日頃から社会の動きに注目して下さい。また、本講義では図書館を積極的に利用します。図書館には貴重な本や資料がたくさんあります。気になるもの、関心を持ったものは手にとってみましょう。

## キーワード /Keywords

# 社会科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

- ① 学習指導要領に基づき、中学校社会科の3分野に関する総合的で実践的な知識を修得する。
- ② 教材研究、資料精選、学習指導案作成など、社会科の授業実践に必要な基礎・基本的な技術を修得する。
- ③ 教科指導の実践を起点として教職全般への理解を深め、教育現場で必要とされる教師の資質を養う。

社会科教育法AおよびCで学習した理論的な知識と指導法の基礎をもとに、社会科のより実践的な指導力と、教科指導を中心とした教師としての総合的な指導力の習得をめざす。なお、模擬授業では担当教員の解説を毎時行う。

## 教科書 /Textbooks

- 『中学生の地理 世界のすがたと日本の国土』（帝国書院 文科省検定済教科書）
  - 『中学社会 歴史的分野』（日本文教出版 文科省検定済教科書）
  - 『中学校社会科地図』（帝国書院 文科省検定済教科書）
  - 『中学社会 公民 とともに生きる』（教育出版 文科省検定済教科書）
- ※各分野とも平成24年度版以降のものを用意すること

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『学習指導要領解説 社会編』（文部科学省 平成20年9月 平成26年1月一部改訂）
- 『詳説 日本史研究』（佐藤信ほか 山川出版社）
- 『新詳地理資料COMPLETE』（帝国書院）
- 『新詳 資料 地理の研究』（帝国書院）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義概要の説明 【授業とは何か】【社会科の特性】【“資格”と“資質”】【技術の前に…】
- 第2回 学習指導案の作成 【実践的な視点の指導案】【教材研究と指導】【指導と評価】
- 第3回 模擬授業・地理的分野① 【世界地理・総論】【世界地理の捉え方】
- 第4回 模擬授業・地理的分野② 【世界地理・各論】【州ごとの指導における着重点】
- 第5回 模擬授業・地理的分野③ 【日本地理・総論】【日本地理の捉え方】
- 第6回 模擬授業・地理的分野④ 【日本地理・各論】【地域ごとの指導における着重点】
- 第7回 模擬授業・歴史的分野① 【原始・古代】
- 第8回 模擬授業・歴史的分野② 【古代・中世】
- 第9回 模擬授業・歴史的分野③ 【中世・近世】
- 第10回 模擬授業・歴史的分野④ 【近世・近現代】
- 第11回 模擬授業・公民的分野① 【憲法】
- 第12回 模擬授業・公民的分野② 【政治】
- 第13回 模擬授業・公民的分野③ 【経済】
- 第14回 模擬授業・公民的分野④ 【現代社会】
- 第15回 まとめ、教育実習や採用試験に向けて 【教育現場】【生徒指導】【講師と教諭】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、指導案作成と授業への参加度 40%、平素の受講姿勢 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書については、文部科学省検定済教科書(中学校で実際に生徒が使用しているもの)を使用します。通常の書店では入手できませんので、ご注意ください。入手法については全国教科書供給協会のホームページで確認できます。  
また、学習指導要領は平成26年1月に一部改訂されました。製本済みのものを購入する場合はもちろん、文部科学省のホームページでダウンロードする場合も、一部改訂が反映されていることを必ず確認してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、模擬授業を通して学校教育の中核である「授業」の実践力を身につけることを目指しています。生徒が「分かる」「楽しい」「知りたい」と感じる授業は、教える側が「分かっている」「興味深い」「教えたい」と考えている授業ではないでしょうか。教材研究は大変な作業ですが、やりだすと非常に楽しい営みです。教壇に立ちたいと願う皆さんに、まず社会科の楽しさやおもしろさを感じてもらいたいと思っています。

# 社会科教育法D 【昼】

キーワード /Keywords

# 公民科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。  
公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。  
学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

## 教科書 /Textbooks

- 『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省 平成22年版 320円＋税
- 他にも講義内で適宜配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 1900円＋税
- 他に授業で紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
- 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
- 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
- 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 現代社会
- 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
- 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
- 第7回：公民科の授業づくり 教材研究・開発
- 第8回：公民科の授業づくり グループワークについて
- 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
- 第10回：公民科の授業づくり フィールドワークについて
- 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
- 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
- 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
- 第14回：政治および宗教に関する事項の取扱い
- 第15回：社会科教師に求められる資質・能力  
定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%  
最終試験・・・30%  
学習指導案作成・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。  
出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

## キーワード /Keywords

# 公民科教育法B 【昼】

担当者名 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

- (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
- (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
- (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
- (4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。

上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

## 教科書 /Textbooks

- ・ 授業の際に配布するレジュメ・資料等
- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版（平成22年）定価336円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 谷田部玲生ほか『高等学校 現代社会』第一学習社（平成26年）定価610円
- ・ 伊東光晴ほか『高校 現代社会』実教出版（平成25年）定価610円
- ・ 三浦軍三ほか『高等学校 政治・経済』第一学習社（平成26年）定価450円
- ・ 宮本憲一ほか『高校 政治・経済』実教出版（平成26年）定価450円
- ・ 越智貢ほか『高等学校 倫理』第一学習社（平成26年）定価450円
- ・ 矢内光一ほか『高校 倫理』実教出版（平成25年）定価450円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 学習指導案作成上の留意点
- 第 6回 学習指導案の作成
- 第 7回 生徒の実態を踏まえた教材研究
- 第 8回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第10回 模擬授業（現代社会の諸問題）
- 第11回 模擬授業（政治・経済・法）
- 第12回 模擬授業（現代の諸課題と倫理）
- 第13回 模擬授業（受験指導に焦点を当てる）
- 第14回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加・貢献度 80%、模擬授業の際に提出する指導案 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の理念と道徳の指導法、及び学習指導案の作成について学習する。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別活動論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

## 教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)  
高等学校学習指導要領 「特別活動」

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社  
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点  
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。  
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。  
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

# 教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし ( 授業中に適宜紹介する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章II第1節他)
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 (テキスト 第6章II第6節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その3 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。  
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

# 生徒・進路指導論【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

## キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

# 教育相談【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

## 教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房  
文科省編 「生徒指導提要」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第2章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第3章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性の問題行動など(テキスト 第3章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第4章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第5章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第7章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第9章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%  
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。  
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

# 教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

# 教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習 1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
6回 人権と教育	【人権】 【自尊感情】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
8回 学級経営・学級活動の進め方	【学級集団づくり】 【学級通信】
9回 特別活動の学習指導案と模擬授業	【学習指導案】 【模擬授業】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【指導事例】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動:授業展開)	【学習指導案】 【指導目標】
13回 模擬授業②(特別活動:指導技術)	【授業構成】 【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科:授業展開)	【授業展開】 【導入】 【展開】
15回 模擬授業④(各教科:指導技術)	【発問】 【説明】 【指示・助言】 【指導技術】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 学期末の提出物の評価(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

## 教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に随時情報を提供する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1) 【関心・意欲】
- 4回子どもの「学力」(2) 【知識・理解】
- 5回子どもの「学力」(3) 【思考・判断】
- 6回子どもの「学力」(4) 【表現・技能】
- 7回教育測定・評価(1) 【測定学力、目標学力】
- 8回教育測定・評価(2) 【評価基準、テスト作成】
- 9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式、教師の信念体系】
- 10回教師と授業づくり(2) 【学びの共同体、グラウンド・ルール】
- 11回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成、集団力学】
- 12回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習、協働学習理論】
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%  
レポート...20%  
学期末試験...50%  
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉症スペクトラム障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 集中  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

## 教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社  
 P.ブルデュー・J.-C.パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店  
 P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房  
 E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社  
 広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター  
 酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション  
 第2回：教育社会学の対象と方法  
 第3回：子どもの社会化と家族・学校  
 第4回：学校という組織  
 第5回：学校社会と生徒文化  
 第6回：学校社会と教師文化  
 第7回：文化的再生産論にみる学校社会  
 第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論  
 第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論  
 第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴  
 第11回：いじめ現象の構造とその特徴  
 第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題  
 第13回：グローバリゼーションと教育  
 第14回：情報化社会と教育  
 第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴  
 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 人権教育論【昼】

担当者名 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

## 教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 私の人権教育の創造をめざして
- 1, 気づきと発見の部落史授業 「出会い直しと新たな発見」
- 第1回 「もののけ姫」(導入)
- 製作の時代背景と人権確立の潮流
  - 物語の登場人物からのメッセージ
- 第2回 中世(平安～鎌倉～室町)
- 仏教の伝来とケガレ観
  - 社会や文化のしくみと差別意識の起こり
- 第3回 近世(安土桃山～江戸)
- 身分統制令、身分の制度化、法制化への変遷
  - 島原の乱と宗門改め帳・別帳通達と差別の強化
- 第4回 文学者の人権感覚に学ぶ(一茶・蕪村・芭蕉)
- 近代医学の夜明け(解体新書の腑分けの主人公)
- 第5回 近代(明治～)
- 「解放令」とその意義
  - 近代化と差別の再生産へのしくみ
- 第6回 竹田の子守唄と少女たちの叫び
- 教科書無償の取り組みと親たちの願い
- 2, 文部科学省「人権教育の指導方法の在り方」 「継承・挑戦・創造」
- 第7回 同和教育の遺産と教訓に学ぶ(成果と手法の評価)
- 第8回 人権尊重の精神に立った学習活動の創造(学力と進路の保障)
- 人権が尊重される授業づくり「7つの視点」
  - 自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係
  - 全国学力テスト結果の分析と課題
- 第9回 人間関係づくり
- 「なかまづくり」の原点と実践例
  - 金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」からのメッセージ
- 第10回 教育環境・雰囲気づくり
- 学級の人権文化の創造(子どもの居場所づくり)
- 第11回 隠れたカリキュラム・空間的意識の大切さ
- 人権教育の技能・スキル・態度
  - 金子みすず「東京大学入試問題」
- 第12回 ソーシャルスキル・アサーティブな表現を研く
- 教育現場の「具体的な実例」から考える
- 第13回 「体罰」と人権
- 文部科学省の調査
  - 教育現場の「体罰の実例」から考える
- 第14回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ」問題の現状を認識する
  - 「いじめ」の構図・しくみと解決への課題
- 第15回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ対策防止法」
  - 「いじめ対策の留意点8力条」(法務省委託研究・有識者検討委員会)

# 人権教育論 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 ( 30% ) 及び学期末のレポートによる評価 ( 70% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第4回社会教育施設と生涯学習施設 -管理運営と連携-
- 第5回生涯学習関連施策の動向 -社会教育の歴史と発展-
- 第6回学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第7回社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 第9回社会教育施設-公民館
- 第10回社会教育施設-博物館
- 第11回社会教育施設-図書館
- 第12回大都市における公民館-北九州市 -自治体行財政制度と施策立案・推進-
- 第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第14回成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第15回住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位 2学期  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円  
高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円  
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円  
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ( 【 】 はキーワード )
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
  2. 授業と教育方法【教育方法】
  3. 授業と教育技術【教育技術】
  4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
  5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
  6. 授業実施の技術【授業技術】
  7. 授業の評価【授業評価】
  8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
  9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
  10. 学習指導案の作成【学習指導案】
  11. 教材研究【教育メディアとその活用】
  12. 模擬授業【模擬授業】
  13. テストと学習内容の評価【テスト】
  14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
  15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

## 授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らずに、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 歴史と政治【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

## 授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。  
 (おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。  
 本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようだがみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

# 異文化理解の基礎【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代に至るまでの家族・親族関係の変容

第4回 伝統的社会における親族関係

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教紛争と日常の中の宗教

第12回 不幸への対処としての呪術

第13回 中間テストの解説

第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 政教分離と世俗化

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート 40%、期末レポート 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

## キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係



# ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

## 授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- E・フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
  - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
  - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
  - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の変容(1)【高度産業社会】
- 5回 生活世界の変容(2)【美とテクネー】
- 6回 生活世界の変容(3)【複製技術と政治】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容(4)【全体主義と思考能力・前半】
- 9回 生活世界の変容(5)【全体主義と思考能力・後半】
- 10回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説・前半】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャ概説・後半】
- 13回 公私の区別とその起源(3)【古代ギリシャの公と私】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(1)【寛容の概念】
- 15回 宗教の私事性と公的領域(2)【衝突と共生】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%  
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

# 生活世界の哲学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

# 日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

## 授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

# 日本の防衛【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障と防衛(1)  
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第3回 安全保障と防衛(2)  
安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)  
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)  
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)  
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)  
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)  
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)  
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)  
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力  
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン  
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)  
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)  
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。  
安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

## 授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、遺伝子や生物の多様性と進化、それに影響を与えてきた生命を取り巻く環境について広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高・中尾)
- 2回 ミクロとマクロの世界(日高・中尾)【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質(中尾)【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち(日高)【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞(日高)【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ(日高)【地球環境の変化と生物】
- 7回 生物の分類と系統(日高)【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性(日高)【有性生殖】【減数分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前(日高)【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線(日高)【放射性同位元素】
- 11回 科学と似非科学(日高・中尾)【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境(中尾)【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源(日高)【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 映画鑑賞(日高)
- 15回 質疑応答とまとめ(日高)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・小テスト 40%  
期末テスト 60%

# 生命と環境 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。  
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

## キーワード /Keywords

# 情報社会への招待【夜】

担当者名  
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

# 情報社会への招待【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%  
日常の授業への取り組み ... 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

# 環境問題概論 【夜】

担当者名  
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

## 授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -干潟の仕組み-
- 第3回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -海はだれのものか-
- 第4回 伝統的な農村部の生活と自然環境
- 第5回 農業の環境保全的機能と大規模集約型農業について
- 第6回 農業の可能性と第6次産業化
- 第7回 山を守る人々 -守るために利用すること-
- 第8回 森林を焼き払う農業 -焼き畑農業は環境保全的か-
- 第9回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります)
- 第10回 日本人における自然観の変遷と考え方 -環境倫理-
- 第11回 生物多様性と日本の草原
- 第12回 国際的枠組み -SATOYAMAイニシアティブの取り組み-
- 第13回 食物連鎖と地域内物質循環
- 第14回 なぜ環境問題は生じるのか -レポート試験の実施- (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括と復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%  
不定期に何回か実施する試験(レポート試験含む)：80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 環境問題概論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。  
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。  
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。  
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めてほしいと思います。

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

## 教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。  
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

# 教養基礎演習I【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定  
第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方
- 【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】  
第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス  
第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック  
第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）  
第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】  
第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション  
第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）  
第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）  
第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】  
第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション  
第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう  
第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション  
第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。  
具体的には、受講意識、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。総合的知識・理解については、分析に必要な理論や技術を習得し使いこなすことができるかどうか、人間の行動パターンを数値化してとらえることの意義を理解できているかどうかの観点から評価します。課題発見・分析・解決力については、実際のゲーム映像を分析することで、対象チームや選手個人の特徴を抽出するとともに、試合に勝つために必要なオリジナルの分析結果（解決案）を導き出すことができるかどうかの観点から評価します。生涯学習力については、競技としてのバレーボールとのかかわり方や授業や課題への取り組み姿勢といった観点から評価します。コミュニケーション力については、グループ作業へのかかわり方やプレゼンの状況といった観点から評価します。  
ゼミへの参加と観点評価...100%（4つの観点・各25%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。  
受講申請にあたってはこの点に注意してください。  
最大でも12人を予定しています。  
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きで、競技接点を持っており、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。  
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

## キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準



# 地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地球の生いたち
			GOL001F

## 授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円  
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円  
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円  
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目：まとめと演習

# 地球の生いたち【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%  
欠席の多い学生は減点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

## キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

# 思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

## 授業の概要 /Course Description

今年度は、サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、精神分析・音楽・文学・映画・倫理等のジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通してユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
  - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点(1)【概説】
- 3回 ユダヤ人の原点(2)【トーラーの宗教】
- 4回 ユダヤ人の歴史(1)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(2)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(3)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 精神分析の思想(3)【補足回】
- 11回 音楽の思想【シエーンベルク】
- 12回 文学の思想【カフカ】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・後半】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 40% 期末テスト... 60%  
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ユダヤ人問題の原点ともいえるべき「ユダヤ教」について、その基本的教義や古代史の側面から一層の知識を身につけたい場合には、同じ担当者によるテーマ科目「ヨーロッパ道德思想史」（2学期開講 / 2013年度以降の入学者のみ対象）の受講を推奨する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第7回に確認テスト（第3回～第6回が試験範囲）を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

## キーワード /Keywords

# 民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

## 授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちには民主主義が当たり前になっているかもしれませんが、しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

## 教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜、紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 古代ギリシアの民主制

第3回 近代デモクラシーの基礎① 【秩序か権利か：ホブズとロック】

第4回 近代デモクラシーの基礎② 【一般意志と同調圧力：ルソーとトクヴィル】

第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【日本への輸入：福澤諭吉と中江兆民】

第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】 【ラディカル・デモクラシー】

第7回 現代日本の民主主義理論① 【集合行為問題・境界線の政治学】

第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】

第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】 【権威主義体制】 【全体主義体制】

第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】 【対立理論】 【ポピュリストモデル】

第11回 民主政治の形成と崩壊③ 【調和理論】 【民主化支援】

第12回 民主主義と有権者① 【政治参加】 【エリート民主主義】 【参加民主主義】

第13回 民主主義と有権者② 【政治的有効性感覚】

第14回 民主主義と有権者③ 【シティズンシップ教育】

第15回 民主主義と議会【代表・立法・審議・行政監視機能】 【二院制】 【ねじれ国会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ( 80% )、講義への参加態度 ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

# 民主主義とは何か 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

## キーワード /Keywords

なし

# 人権論【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
			人権論	SOC004F

## 授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

### 目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

## 教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要な参考書は授業時に紹介する。

# 人権論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%  
期末テスト50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。  
私語は厳禁  
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

「すべての人」  
「人間らしく生きる」



# ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor カ武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

## 授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を身につける。さまざまな現象や表象されたものを対象に分析を実践する。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）  
適宜、補足資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）  
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）  
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

# ジェンダー論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

## キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

# 障がい学【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

## 授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第4回：自閉症とは①【自閉症観の変遷】
- 第5回：自閉症とは②【自閉症】
- 第6回：医療モデル的作品DVDの視聴①【医療モデル的作品】
- 第7回：医療モデル的作品DVDの視聴②【医療モデル的作品】
- 第8回：医療モデル的作品の解説・評価【3つのモデルとの関連で】
- 第9回：文化モデル的作品DVDの視聴①【文化モデル的作品】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴②【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第12回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

## 授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。  
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。  
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（１）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（２）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（３）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データファイルの作成（実習）1
- 第11回 データファイルの作成（実習）2
- 第12回 分布と統計量
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%  
(総合的に判断する。)

# 社会調査【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題をきちんと提出すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

## キーワード /Keywords

量的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

# 企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

## 授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という意識）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家の生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのようには振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。  
また、レジュメも配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012年(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012年)(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の最新の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002、その他、この論争を紹介している最近の資料を紹介していく。

# 企業と社会【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらない」?
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語 【資本主義】【市民社会】【ブルジョア社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか 【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程 【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生・英国のケース 【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉 【剰余価値】【利潤】【公表利益】(【公開】【開示】)
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業 【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会そのものの脆弱性 【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場 【恐慌と危機】【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機・市場回帰の新自由主義の台頭 【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食・システム統合危機から社会統合危機へ 【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合・マーケットとその外側(生活世界) 【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻りに聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物(私達の社会的産物)にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。それというのも、私達の社会的産物そのものが、私達自身に刃向かってくるのだから。

## キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【ブラック企業】  
 【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】



# 開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて探ります。

以上の概要を通して、開発されている社会の中でのガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

その都度必要資料の配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『○○を知るための○章』シリーズ( 明石書店 )、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめると同時に		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回 韓国セウォル号沈没事件に見るガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回 セウォル号沈没事件を引き起こさないために～危機管理の在り方		担当：ソンミンホ・三宅
第8回 韓国版水俣病の発現～その歴史と事実		担当：ソンミンホ・三宅
第9回 水俣病を繰り返さないための対策～ガバナンスとの関連で		担当：ソンミンホ・三宅
第10回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回 米国におけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第12回 エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回 日本の食品ロス削減運動に見るガバナンスのあり方	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回 まとめ～ガバナンスに関するグループワーク	【グループワーク】	担当：三宅

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 開発と統治【夜】

### 履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界や日本の地域社会の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

### キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 子ども会 食品ロス削減運動 グループワーク

# 国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			国際紛争と国連
			IRL005F

## 授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

## 教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○  
その他の参考文献は、適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る 【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第5回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第6回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第7回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第8回 国連による平和の創出③：司法的解決 【国際司法裁判所（ICJ）】【法の支配】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

# 国際紛争と国連【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。  
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。  
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。  
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。  
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。  
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。  
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

## キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

# 歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

## 授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

## 教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

# 歴史の読み方I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

## 授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。  
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。  
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。  
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心は無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (既戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。  
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。  
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだ世界経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。  
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言えよう。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

## 教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)  
口述講義 (山崎)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書  
 新渡戸稲造『武士道』( BUSHIDO )  
 ○藤沢周平『漆の実のみのる国』( 文春文庫 )  
 ○中村彰彦『保科正之』( 中公新書 )  
 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』( ミネルヴァ書房、2008年 )

# 人物と時代の歴史【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本,イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

( 新村 )

- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
- 第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営
- 第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】( 1 )
- 第5回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】( 2 )
- 第6回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】( 1 )
- 第7回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】( 2 )

( 山崎 )

- 第8回 イギリスとはどんな国か
- 第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー
- 第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎
- 第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか一雇われ外国人たちを中心に
- 第12回 経済学の父、アダム・スミス『国富論』とはどんな本か
- 第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』
- 第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』
- 第15回 まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明-

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ( 70% ) と平常の学習状況 ( 30% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

\* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

## 授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房  
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

# メンタル・ヘルスI【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
  - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
  - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
  - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
  - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
  - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
  - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
  - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
  - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
  - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
  - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
  - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
  - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
  - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
  - 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスII【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

**授業の概要 /Course Description**  
健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。  
そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

**教科書 /Textbooks**  
必要に応じてプリントを配布

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
必要に応じて紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
  - 2回 (講義) 運動と身体の健康
  - 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
  - 4回 (実習) 運動強度測定
  - 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
  - 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
  - 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
  - 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
  - 9回 運動の効果(身体的側面)
  - 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
  - 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
  - 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
  - 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
  - 14回 これからのスポーツ
  - 15回 まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

# データ処理【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理



# 情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

# 情報表現【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。  
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

## キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

# 経済学入門 A 【夜】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

## 授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社、2005年（○）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション  
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 経済学入門 A 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 経済学入門B 【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

## 授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。  
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著  
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN ( マクロ経済学とは何か? 講義の進め方についての説明 )
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

# 経済学入門B 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教職論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし（授業中に適宜紹介する）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と生徒指導	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の資質と適格性	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である ( Butterworth, 1994 )。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。  
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著  
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか ( いちばんはじめに読む心理学の本 3 )』  
ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

文部科学省 ( 2011 ) 「生徒指導提要」  
その他、授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教育制度論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 学校制度の基本的事項(4) 就学
- 7回 教科書に関する制度 教科書、副教材
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 教員制度の基本的事項(3) 教員の待遇、福利厚生
- 11回 学校関係者による支援の制度 地域住民の学校への参画
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教育について興味・関心をもって臨むこと。  
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育課程論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

### 目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) 人の国際移動と教育
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 市民性教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房 2009年、2500円  
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂 2009年 72円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD ( 師範授業 ) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD ( 師範授業 ) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 ( 中学校 ) 【1年生】
14. モデル授業 ( 中学校 ) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房  
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂 2012年 630円 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社  
 南村俊夫ほか著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社 2007年 765円 Onstage English Course I・II池田書店  
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II東京書籍 2012年 630円 山本良一  
 ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円  
 Minton, T.D. ほか著、Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II"開隆  
 堂  
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年 650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT  
 English Course I・II啓林館 2013年、650円  
 Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社  
 市川泰男、高橋和久ほか著 "NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・II"文英堂 2012年 630円  
 Genius English Course Revised I・II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂 2012年、630円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意味をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 社会科学教育法 A 【夜】

担当者名 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科学、地理、歴史の分野に必要なとされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科学、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

## 教科書 /Textbooks

- ・「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省) 167円+税
- ・他にも講義内で適宜配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科学の理論と実践』 学文社 2007 1900円+税
- ・他に授業で紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
  - 第2回：社会科学教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
  - 第3回：地理的分野の目標とその取り扱い
  - 第4回：歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
  - 第5回：公民的分野の目標と内容とその取り扱い
  - 第6回：社会科学の授業づくり 教材研究
  - 第7回：社会科学の授業づくり グループワークについて
  - 第8回：社会科学の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
  - 第9回：社会科学の授業づくり 「地誌作成」について
  - 第10回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
  - 第11回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
  - 第12回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
  - 第13回：政治および宗教に関する事項の取扱い
  - 第14回：社会科学教師に求められる資質・能力
  - 第15回：まとめ
- 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・課題レポート・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。  
出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

## キーワード /Keywords

# 社会科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、一学期の社会科教育法Aの授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科教師としてのより実践的な指導力の育成をめざす。また教育方法論や授業理論について学習する。現代社会の諸問題を取り上げ、教材開発につなげる。

本授業は、全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、社会科を担当する教員として、学習指導要領、教材開発、授業形式、授業内容に関する知識などを習得した上で受講者は模擬授業を行い、受講者全員で検討していく。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

## 教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月 文部科学省）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イントロダクション
- 第 2回 学習指導要領における中学社会科と社会の諸問題
- 第 3回 教育方法論・教材開発
- 第 4回 社会科初志の会の授業理論 個が育つ教育
- 第 5回 授業研究・教員評価について
- 第 6回 学習指導案の作成作業 教師による影響の注意
- 第 7回 模擬授業
- 第 8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第 9回 フィールドワークについて、模擬授業
- 第 10回 グローバル化について、模擬授業
- 第 11回 環境問題について、模擬授業
- 第 12回 情報化社会について、模擬授業
- 第 13回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第 14回 規範意識について、模擬授業
- 第 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習 30%、各授業でのミニレポート 40%、模擬授業時に作成する学習指導案 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の指導についての基本的な知識を獲得し、理解し、道徳教育についての基本的なスキルを獲得し、課題を発見し、思考し、学習指導案の作成について学習する。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

## 教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)  
高等学校学習指導要領 「特別活動」

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社  
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点  
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。  
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。  
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

# 教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし ( 授業中に適宜紹介する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ( 小テストを含む ) 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章II第1節他)
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 (テキスト 第6章II第6節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その3 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%  
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。  
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

# 生徒・進路指導論【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

## キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

# 教育相談【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

## 教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房  
文科省編 「生徒指導提要」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第I章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第II章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第III章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性の問題行動など(テキスト 第III章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第IV章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第V章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第VII章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第IX章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%  
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。  
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

# 教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

# 教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習 1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ( 中学 )	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ( 高校 )	【教科指導】 【学級経営】
5回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
6回 人権と教育	【人権】 【自尊感情】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
8回 学級経営・学級活動の進め方	【学級集団づくり】 【学級通信】
9回 特別活動の学習指導案と模擬授業	【学習指導案】 【模擬授業】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【指導事例】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①( 特別活動：授業展開 )	【学習指導案】 【指導目標】
13回 模擬授業②( 特別活動：指導技術 )	【授業構成】 【指導技術】
14回 模擬授業③( 各教科：授業展開 )	【授業展開】 【導入】 【展開】
15回 模擬授業④( 各教科：指導技術 )	【発問】 【説明】 【指示・助言】 【指導技術】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価( 50% ) 学期末の提出物の評価( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となつてほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、学校の意義、教育の意義
- 2回 幼児、児童の心身の発達と教育(表象世界、しつけ、不適応)
- 3回 児童期の発達(学級崩壊等)
- 4回 発達の個人差と障害児【障害理解】
- 5回 発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
- 6回 学習過程(条件づけ、強化、般化、モデリング、洞察等)
- 7回 動機づけ(内発的動機づけ、帰属等)
- 8回 家庭における教育【育児】【しつけ】
- 9回 家庭における教育【教育への動機】
- 10回 学校組織と教師(組織としての学校の特殊性、職業としての教師の特殊性)
- 11回 教室内過程【教師生徒との関係】
- 12回 教室内過程【生徒間関係】
- 13回 教育評価(測定とその活用)
- 14回 現代の教育問題について
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%

※小テストは4回程度行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講すると理解が深まる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

## 教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 私の人権教育の創造をめざして
- 1, 気づきと発見の部落史授業 「出会い直しと新たな発見」
- 第1回 「もののけ姫」(導入)
- 製作の時代背景と人権確立の潮流
  - 物語の登場人物からのメッセージ
- 第2回 中世(平安～鎌倉～室町)
- 仏教の伝来とケガレ観
  - 社会や文化のしくみと差別意識の起こり
- 第3回 近世(安土桃山～江戸)
- 身分統制令、身分の制度化、法制化への変遷
  - 島原の乱と宗門改め帳・別帳通達と差別の強化
- 第4回 文学者の人権感覚に学ぶ(一茶・蕪村・芭蕉)
- 近代医学の夜明け(解体新書の腑分けの主人公)
- 第5回 近代(明治～)
- 「解放令」とその意義
  - 近代化と差別の再生産へのしくみ
- 第6回 竹田の子守唄と少女たちの叫び
- 教科書無償の取り組みと親たちの願い
- 2, 文部科学省「人権教育の指導方法の在り方」 「継承・挑戦・創造」
- 第7回 同和教育の遺産と教訓に学ぶ(成果と手法の評価)
- 第8回 人権尊重の精神に立った学習活動の創造(学力と進路の保障)
- 人権が尊重される授業づくり「7つの視点」
  - 自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係
  - 全国学力テスト結果の分析と課題
- 第9回 人間関係づくり
- 「なかまづくり」の原点と実践例
  - 金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」からのメッセージ
- 第10回 教育環境・雰囲気づくり
- 学級の人権文化の創造(子どもの居場所づくり)
- 第11回 隠れたカリキュラム・空間的意識の大切さ
- 人権教育の技能・スキル・態度
  - 金子みすず「東京大学入試問題」
- 第12回 ソーシャルスキル・アサーティブな表現を研く
- 教育現場の「具体的な実例」から考える
- 第13回 「体罰」と人権
- 文部科学省の調査
  - 教育現場の「体罰の実例」から考える
- 第14回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ」問題の現状を認識する
  - 「いじめ」の構図・しくみと解決への課題
- 第15回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ対策防止法」

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

# 人権教育論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位 2学期  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円  
高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円  
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円  
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
  2. 授業と教育方法【教育方法】
  3. 授業と教育技術【教育技術】
  4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
  5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
  6. 授業実施の技術【授業技術】
  7. 授業の評価【授業評価】
  8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
  9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
  10. 学習指導案の作成【学習指導案】
  11. 教材研究【教育メディアとその活用】
  12. 模擬授業【模擬授業】
  13. テストと学習内容の評価【テスト】
  14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
  15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords